

一般社団法人
日本保育学会 第75回大会

Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

テーマ

アーリー・スタート
～非認知能力研究の知見を保育に生かす～

【プログラム】

主催：一般社団法人 日本保育学会 第75回大会実行委員会

目 次

| | |
|------------|---|
| ■ご挨拶 | 4 |
|------------|---|

1. 大会参加者の方へ

| | |
|-----------------------|----|
| ■大会開催前・当日などについて | 6 |
| ■大会日程 | 9 |
| ■会場と発表区分 | 11 |

2. 研究発表者・自主シンポジウム関係者の方へ

| | |
|--|----|
| ■自主シンポジウム・口頭発表・ポスター発表について | 18 |
| ■大会研究発表に関する規程 | 21 |
| ■一般社団法人 日本保育学会 研究奨励賞規程 | 23 |
| ■一般社団法人日本保育学会 第75回大会発表におけるガイドライン | 25 |
| ■一般社団法人日本保育学会 オンライン参加に関するガイドライン | 26 |

3. 講演・シンポジウム

| | | |
|--------------|-------------------------|----|
| ■基調講演 | 大会1日目 10:30～11:30 | 28 |
| ■各種シンポジウム・企画 | 大会1日目 13:00～ | 30 |
| | 大会2日目 10:00～ | 36 |

4. 自主シンポジウム

| | |
|-----------------|----|
| ■自主シンポジウム | 48 |
|-----------------|----|

5. 研究発表

| | |
|---------------|----|
| ■口頭発表 | 68 |
| ■ポスター発表 | 88 |

6. 人名索引

| | |
|-------------|-----|
| ■人名索引 | 132 |
|-------------|-----|

7. 大会実行委員会について

| | |
|------------------|-----|
| ■大会実行委員会規程 | 146 |
| ■大会開催細則 | 147 |
| ■協賛企業・団体 | 148 |
| ■実行委員会 | 149 |

日本保育学会第 75 回大会を開催するにあたってのご挨拶

日本保育学会第 75 回大会のプログラムをお届けします。第 1 号通信でご案内しました通り、第 75 回大会は、前回の富山大会に続き、2 回目のオンライン開催となります。東京をはじめ千葉県でも新型コロナ感染が収まらない状況ですので、昨年度の実行委員会のご苦勞を踏まえ、早期に理事会でオンライン開催を決定していただいたことと有難く思います。

全国におられる沢山の会員の皆様方を、千葉県松戸市にある聖徳大学にお迎えし、様々な企画に参加し、会員同士の交流をしていただくことができず、心残りではあります。

さて、第 75 回大会テーマは、「アーリースタート～非認知能力研究の知見を保育に生かす～」、講演者は遠藤利彦教授です。子どもの成長発達における初期の重要性に関する研究成果から引き出された知見から、幼児教育・保育の役割を再考したいと思います。幼児教育・保育における質的保障について再考する機会になればと願っております。

大会校独自企画として、動画によって、聖徳大学の所蔵品(特にイギリス児童文学コレクション等)を鑑賞し、また千葉県の歴史、文化、自然にも触れていただきます。また、新型コロナ感染下の約 2 年間に、学生たちが主体になり取り組んだ活動の一端を動画にまとめております。大学ホームページ上から、キャンパス見学もしていただくこともできます。

更に、4 つの大会校独自企画を準備しております。1 つ目は、「わが国の医療保育の現状とこれからの方向性」というテーマで、病児・病後児保育、医療的ケア児の支援、個別的配慮を必要とする子どもの保育の先駆的取り組みを取り上げるシンポジウムです。2 つ目は、国際シンポジウム：「ドキュメンテーションが拓く探究的な学びの世界—イギリスとスウェーデンの実践から—」です。グニラ・ダールベリ、ストックホルム大学名誉教授他の講演があります。3 つ目は、長年本学の大成教授が中心となり地域において活動してきているアートパークの活動を取り上げる「アートパークの実践から～子どもの表現・保育士養成・地域連携～」(シンポジウム)です。4 つ目は、子ども・子育て支援について計画的・組織的な取り組みを展開してきている松戸市の施策、それと関連する小規模保育所の設置が進んでいますので、私立幼稚園の中の小規模保育所の様子を紹介する内容です。

研究発表につきましては、自主シンポジウム 53 件、口頭発表 185 件、ポスター発表 514 件(2022 年 3 月 16 日現在)の申し込みをいただきました。多くの会員の皆様から申し込みをいただきましたことを、実行委員会を代表して御礼を申し上げます。

オンライン開催について当日配信となりますのは、大会行事、記念講演、学会・実行委員会企画シンポジウムです。プログラム上の予定した時間帯に、Web を通じて講演や大会校の独自企画のシンポジウムを配信いたします。質問についての対応は検討中ですが、大会時には詳細をお伝えできるようにいたします。

次に、自主シンポジウム・口頭発表・ポスター発表はすべて事前に発表用のデータをアップロードしていただき、大会期間前から閲覧できる期間を設定いたしました。事前に発表内容をご覧いただき、学会当日は質疑応答のみを Web 上で行う予定です。大会に参加予定の方は、事前に発表内容を閲覧していただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり広告掲載へのご協力をいただきました各社・団体の皆様にも感謝申し上げます。

実行委員会としては精いっぱいがんばっておりますが、不慣れなことも多く、不備な点もあるかと存じます。どうかご容赦くださいますようお願いいたします。

皆様にとって、本大会への参加がこれからの研究や保育者養成、そして保育実践の向上、促進につながりますことを祈念しております。

2022 年 3 月

日本保育学会第 75 回大会実行委員長
阿部 真美子

1. 大会参加者の方へ

1. 大会に参加される皆様へ

- (1) 今年度の大会は聖徳大学が担当校となり、オンラインで開催することになりました。自主シンポジウム・口頭発表・ポスター発表のいずれについても、大会当日は質疑応答や討議のみとなります。話題提供や発表は動画もしくはポスターの形で、大会前に公開されます。大会に参加される方は、必ず事前に原稿や動画、ポスターに目を通した上で、当日の質疑応答や討議にご参加ください。なお、基調講演や学会企画、実行委員会企画については事前に動画を公開することはせず、当日に Zoom にて講演者やシンポジストからの話題提供等を配信します。
- (2) 事前に参加登録をされていない方で、大会への参加をお考えの方は、直前登録をしていただきますようお願い致します。直前登録方法や参加費の支払い方法については、大会ホームページ (<http://confit.atlas.jp/hoiku75>) をご確認ください。
直前登録期間：2022 年 3 月 25 日（金）～5 月 15 日（日）15 時まで
- (3) 早期参加登録・直前参加登録ともに、領収書は登録画面よりログインしていただきご自身でダウンロードしてください。なお、今大会においては大会参加証（ネームカード）の発行はありません。

■大会開催前について

- (1) 参加登録をされた方には、事前投稿動画の視聴ページにログインするための案内をメールにてお送りします。なお、ログインの際には、オンライン視聴に関する倫理規定について、必ずご確認いただいた上でご視聴ください。
- (2) 自主シンポジウムと口頭発表については、4 月 14 日（木）～5 月 15 日（日）の期間中に事前投稿動画を閲覧する事ができます。なお、5 月 14 日（土）と 15 日（日）大会当日は、Zoom での質疑応答・討論のみとなりますので、予め各事前投稿動画をご覧の上、大会にご参加ください。
- (3) ポスター発表については、事前投稿ポスターを 4 月 14 日（木）～5 月 15 日（日）の期間中に閲覧する事ができます。事前投稿ポスターには、大会前に各ポスターの下に設定されているコメント投稿欄から質問や意見などを事前に入力・送信することができます。なお、5 月 14 日（土）と 15 日（日）の大会当日は、各ポスターの下に設置されているコメント投稿欄から、事前に投稿された質問や意見に対してポスター発表者が回答を行います。当日の質問や意見の投稿も可能ですが、ポスター発表者がより多くの質問・意見を得たり、閲覧者との議論を深めたりする点から、予め各事前投稿ポスターをご覧の上、事前の質問・意見投稿へのご協力をお願いいたします。
- (4) 自主シンポジウムと口頭発表の事前投稿動画の再生には動画配信サービス Vimeo を使用します。Vimeo のサポートするブラウザは以下です。
Chrome 30+, Firefox 27+, Microsoft Edge, Safari 9+
*Internet Explorer は 2022 年 6 月をもってサービスを終了するため、ブラウザの不具合が発生する恐れがあり、Vimeo の再生にはお勧めしません。

■当日について

- (1) オンライン会場へのアクセス
大会ホームページの、オンライン開催ページよりログインをしてください。視聴されたいセッションをタイムテーブルから選択していただくと視聴（参加）ができます。
後日、オンライン開催ページへのアクセス方法等を記載したマニュアルを大会 HP に掲載いたします。（<http://confit.atlas.jp/hoiku75>）
- (2) 注意事項
事前投稿動画、事前投稿ポスター、基調講演、学会企画、実行委員会企画シンポジウム、国際シンポジウムなど大会の講演やシンポジウム等の内容の写真撮影・動画撮影・音声録音・スクリーンショットは、原則禁止いたします。
- (3) 接続環境・設備
◆ブロードバンド有線またはワイヤレスのインターネット回線が必要です。
※安定的な接続のため、インターネットは有線のご利用を強く推奨いたします。
◆Wi-Fi でのご利用の場合、通信環境が不安定となりセッション中に中断する危険性がございます。
◆お持ちの PC にカメラ、スピーカー、マイクが付属されているかご確認ください。可能な限り、マイク付きイヤホンやヘッドセットマイクなどをご使用ください。内臓のカメラ、スピーカー、マイクも利用できます

が、内臓マイクは雑音や環境音を拾いやすく、ハウリングを起こしやすいため、ヘッドセットの使用を推奨します。

- ◆マイクやカメラを使用するアプリケーション（Skype 等）が、裏で動いている場合があります。セッション中は、セッションに不要なアプリケーションは全て閉じてください。

(4) Zoom アプリのインストールと接続テスト

【インストール】

- ◆予め、Zoom アプリ（無料のもの）をダウンロードしてください。Zoom アプリは無料のもので問題なく大会に参加できます。
- ◆サイト (<https://zoom.us/download>) にアクセスし、ミーティング用 Zoom クライアントを「ダウンロード」を開始します（アプリは Windows・Mac・iPad・iPhone・Android で利用できます）。
- ◆以下の公式サイトより、サポートされているオペレーションシステムとインターネットブラウザをご確認ください。

<https://support.zoom.us/hc/ja/articles/201362023>

【接続テスト】

- ◆当日セッションに実際にご利用いただく場所・回線・パソコン等の端末を用いて、以下の URL よりあらかじめ接続テストを行ってください。
<https://zoom.us/test>
- ◆接続テストの際、ご利用のインターネットの通信環境が安定しているかをご確認ください。通信環境は時間帯により変動します。通信環境に問題がないか接続テストをしてください。
- ◆接続テストにて、必ずマイク・カメラの接続テストを行ってください。
- ◆「施設内 LAN」や「施設内 PC」をお使いの場合、各種制限により Zoom を使って通信ができない場合がございます。必ず事前に Zoom の接続テストを実施ください。

(5) 表示名の設定

- ◆運営スタッフが認識しやすいよう、名前の表示設定を必ず行ってください。
- ◆参加者（発表をせず参加のみ）の方は、氏名+所属の表示をお願いします。ニックネーム等の表示はご遠慮ください。表示名は、下記手順より変更できます。
Zoom 下部にある「参加者」ボタンをクリック→自分の名前のところにカーソルを移動→「詳細」ボタンをクリック→「名前の変更」をクリックしご変更ください。

(7) 討論・質疑応答への参加

【自主シンポジウム】

- ◆各会場には企画趣旨・話題提供などを行う登壇者が入室しております。司会者等企画者の進行に従って質疑応答や討議に参加してください。質疑応答は下記手順にて行います。質問がある場合は、Zoom の「手を挙げる」ボタンを押してください。
司会者等企画者に指名されたら、ご自身でミュートを解除し、発言をしてください。
手を挙げるボタンは、Zoom 画面の下部にある「リアクションボタン」または、「反応ボタン」を押していただくと、「手を挙げる」ボタンが表示されます。
- ◆当日の技術的なトラブル等については Zoom のチャット機能でご質問ください。ただし、自主シンポジウムの議論に関することなど、登壇者への質問は、原則チャットではお受けいたしませんので、上記の「手を挙げる」ボタンをご利用ください。
- ◆質問者が複数いる場合は順番となりますので、企画者や司会者の指示に従ってください。
- ◆各会場の収容人数を超えた場合は、入室できませんので予めご了承ください。

【口頭発表】

- ◆各会場には、座長と筆頭発表者が入室しております。座長の進行に従って質疑応答や討議に参加してください。質疑応答は下記手順にて行います。
質問がある場合は、Zoom の「手を挙げる」ボタンを押してください。
座長に指名されたら、ご自身でミュートを解除し、発言をしてください。
手を挙げるボタンは、Zoom 画面の下部にある「リアクションボタン」または、「反応ボタン」を押していただくと、「手を挙げる」ボタンが表示されます。
- ◆当日の技術的なトラブル等については Zoom のチャット機能でご質問ください。ただし、口頭発表に対する質疑や討論に関することなど、発表への質問は、原則チャットではお受けいたしませんので、上記の「手を挙げる」ボタンをご利用ください。

◆質問者が複数いる場合は順番となりますので、座長の指示に従ってください。

◆各会場の収容人数を超えた場合は、入室できませんので予めご了承ください。

【ポスター発表】

◆在籍時間中に、筆頭者がコメント投稿欄で質問や意見等への回答をしたり、参加者との議論をコメントで行ったりします。

◆オンライン視聴サイト内のコメント投稿欄にご質問等をご入力いただき「投稿」ボタンを押してください。

◆コメントは、発表資料掲載期間中いつでも投稿ができますが、発表者からの返信は在籍責任時間のみとなりますので予めご了承ください。

大会日程

| 5月14日(土) | | |
|-------------|-----------------|---------|
| 10:00～10:30 | 開会式 | 第1会場 |
| 10:30～11:30 | 基調講演 | 第1会場 |
| 12:00～12:45 | 社員総会 | 第1会場 |
| 13:00～15:00 | 実行委員会企画シンポジウム 1 | 第2会場 |
| 13:00～14:00 | 自主シンポジウム A 討論 | 第3～11会場 |
| 14:00～17:00 | 国際シンポジウム | 第1会場 |
| 14:00～14:30 | ポスター発表 A 在籍責任時間 | ポスター会場 |
| 14:30～15:15 | □頭発表 K-A-1 討論 | 第3会場 |
| 14:30～15:15 | □頭発表 K-A-2 討論 | 第4会場 |
| 14:30～15:07 | □頭発表 K-A-3 討論 | 第5会場 |
| 14:30～15:15 | □頭発表 K-A-4 討論 | 第6会場 |
| 14:30～15:11 | □頭発表 K-A-5 討論 | 第7会場 |
| 14:30～15:15 | □頭発表 K-A-6 討論 | 第8会場 |
| 14:30～15:11 | □頭発表 K-A-7 討論 | 第9会場 |
| 14:30～15:11 | □頭発表 K-A-8 討論 | 第10会場 |
| 14:30～15:11 | □頭発表 K-A-9 討論 | 第11会場 |
| 15:15～15:45 | ポスター発表 B 在籍責任時間 | ポスター会場 |
| 15:45～16:45 | 自主シンポジウム B 討論 | 第3～11会場 |
| 17:15～17:56 | □頭発表 K-B-1 討論 | 第3会場 |
| 17:15～18:00 | □頭発表 K-B-2 討論 | 第4会場 |
| 17:15～18:04 | □頭発表 K-B-3 討論 | 第5会場 |
| 17:15～18:00 | □頭発表 K-B-4 討論 | 第6会場 |
| 17:15～18:00 | □頭発表 K-B-5 討論 | 第7会場 |
| 17:15～17:56 | □頭発表 K-B-6 討論 | 第8会場 |
| 17:15～17:56 | □頭発表 K-B-7 討論 | 第9会場 |
| 17:15～17:56 | □頭発表 K-B-8 討論 | 第10会場 |
| 17:15～17:52 | □頭発表 K-B-9 討論 | 第11会場 |

| 5月15日(日) | | |
|-------------|--------------------|---------|
| 10:00～12:00 | 学会企画 編集常任委員会シンポジウム | 第1会場 |
| 10:00～11:00 | 自主シンポジウムC 討論 | 第3～11会場 |
| 11:00～11:30 | ポスター発表C 在籍責任時間 | ポスター会場 |
| 11:30～12:15 | □頭発表 K-C-1 討論 | 第3会場 |
| 11:30～12:19 | □頭発表 K-C-2 討論 | 第4会場 |
| 11:30～12:11 | □頭発表 K-C-3 討論 | 第5会場 |
| 11:30～12:11 | □頭発表 K-C-4 討論 | 第6会場 |
| 11:30～12:15 | □頭発表 K-C-5 討論 | 第7会場 |
| 11:30～12:11 | □頭発表 K-C-6 討論 | 第8会場 |
| 11:30～12:07 | □頭発表 K-C-7 討論 | 第9会場 |
| 11:30～12:11 | □頭発表 K-C-8 討論 | 第10会場 |
| 11:30～12:07 | □頭発表 K-C-9 討論 | 第11会場 |
| 12:45～13:45 | 自主シンポジウムD 討論 | 第3～11会場 |
| 13:00～15:00 | 実行委員会企画シンポジウム2 | 第2会場 |
| 13:45～14:15 | ポスター発表D 在籍責任時間 | ポスター会場 |
| 14:15～15:00 | □頭発表 K-D-1 討論 | 第3会場 |
| 14:15～14:56 | □頭発表 K-D-2 討論 | 第4会場 |
| 14:15～14:56 | □頭発表 K-D-3 討論 | 第5会場 |
| 14:15～14:56 | □頭発表 K-D-4 討論 | 第6会場 |
| 14:15～15:00 | □頭発表 K-D-5 討論 | 第7会場 |
| 14:15～14:52 | □頭発表 K-D-6 討論 | 第8会場 |
| 14:15～14:52 | □頭発表 K-D-7 討論 | 第9会場 |
| 14:15～15:00 | □頭発表 K-D-8 討論 | 第10会場 |
| 14:30～16:30 | 学会企画 課題研究委員会シンポジウム | 第2会場 |
| 15:30～16:30 | 自主シンポジウムE 討論 | 第3～11会場 |
| 16:00～18:00 | 実行委員会企画シンポジウム3 | 第2会場 |
| 17:00～18:00 | 自主シンポジウムF 討論 | 第3～10会場 |

会場と発表区分

【口頭発表 討論】

5月14日(土)

| 会場名 | A | B |
|-------|---|--|
| 第3会場 | K-A-1 14:30～15:15 保育内容Ⅰ（保育内容総論・遊び）など1 | K-B-1 17:15～17:56 保育内容Ⅰ（保育内容総論・遊び）など2 |
| 第4会場 | K-A-2 14:30～15:15 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現） など1 | K-B-2 17:15～18:00 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現） など2 |
| 第5会場 | K-A-3 14:30～15:07 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現） など5 | K-B-3（延長） 17:15～18:04 保育思想・保育理論・保育史など2 |
| 第6会場 | K-A-4 14:30～15:15 保育思想・保育理論・保育史など1 | K-B-4 17:15～18:00 乳児保育（0、1、2歳児の保育）など |
| 第7会場 | K-A-5 14:30～15:11 発達論・心身の発達&教育計画・保育計画・指導 計画・評価など | K-B-5 17:15～18:00 保育者の資質能力・保育者の専門性など2 |
| 第8会場 | K-A-6 14:30～15:15 保育者の資質能力・保育者の専門性など1 | K-B-6 17:15～17:56 保育専門職の養成など2 |
| 第9会場 | K-A-7 14:30～15:11 保育専門職の養成など1 | K-B-7 17:15～17:56 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など 2 |
| 第10会場 | K-A-8 14:30～15:11 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など1 | K-B-8 17:15～17:56 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解） など1 |
| 第11会場 | K-A-9 14:30～15:11 多文化教育・異文化理解・ジェンダーなど | K-B-9 17:15～17:52 保育環境・保育教材1 |

5月15日(日)

| 会場名 | C | D |
|-------|--|--|
| 第3会場 | K-C-1 11:30～12:15 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現） など3 | K-D-1 14:15～15:00 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現） など4 |
| 第4会場 | K-C-2（延長） 11:30～12:19 保育制度・保育行財政など | K-D-2 14:15～14:56 児童文化・児童文化財など2 |
| 第5会場 | K-C-3 11:30～12:11 障害児保育・障害のある子どもを含む保育 | K-D-3 14:15～14:56 保育者の資質能力・保育者の専門性など4 |
| 第6会場 | K-C-4 11:30～12:11 児童文化・児童文化財など1 | K-D-4 14:15～14:56 保育者の資質能力・保育者の専門性など6 |
| 第7会場 | K-C-5 11:30～12:15 保育者の資質能力・保育者の専門性など3 | K-D-5 14:15～15:00 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など4 |
| 第8会場 | K-C-6 11:30～12:11 保育者の資質能力・保育者の専門性など5 | K-D-6 14:15～14:52 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解） など3 |
| 第9会場 | K-C-7 11:30～12:07 保育専門職の養成など3 | K-D-7 14:15～14:52 保育環境・保育教材2 |
| 第10会場 | K-C-8 11:30～12:11 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など3 | K-D-8 14:15～15:00 幼保一体化・幼保小連携など&保育マネジメント など |
| 第11会場 | K-C-9 11:30～12:07 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解） など2 | |

【ポスター発表 在籍責任時間】

5月14日（土）

| A | B |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 14:00～14:30 | 15:15～15:45 |
| P-A-1 保育環境・保育教材 1 | P-B-1 保育環境・保育教材 2 |
| P-A-2 乳児保育（0、1、2歳児の保育）など | P-B-2 発達論・心身の発達など 2 |
| P-A-3 発達論・心身の発達など 1 | P-B-3 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解）など 1 |
| P-A-4 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現）など 1 | P-B-4 保育内容Ⅰ（保育内容総論・遊び）など |
| P-A-5 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現）など 2 | P-B-5 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現）など 3 |
| P-A-6 保育者の資質能力・保育者の専門性など 1 | P-B-6 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現）など 4 |
| P-A-7 保育者の資質能力・保育者の専門性など 2 | P-B-7 保育者の資質能力・保育者の専門性など 3 |
| P-A-8 保育専門職の養成など 1 | P-B-8 保育者の資質能力・保育者の専門性など 4 |
| P-A-9 保育専門職の養成など 2 | P-B-9 保育専門職の養成など 3 |
| P-A-10 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など 1 | P-B-10 保育専門職の養成など 4 |
| P-A-11 多文化教育・異文化理解・ジェンダーなど | P-B-11 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など 2 |

5月15日（日）

| C | D |
|--|--------------------------------------|
| 11:00～11:30 | 13:45～14:15 |
| P-C-1 保育マネジメントなど | P-D-1 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解）など 3 |
| P-C-2 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解）など 2 | P-D-2 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現）など 6 |
| P-C-3 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現）など 5 | P-D-3 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現）など 7 |
| P-C-4 児童文化・児童文化財など | P-D-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など 7 |
| P-C-5 保育者の資質能力・保育者の専門性など 5 | P-D-5 障害児保育・障害のある子どもを含む保育 2 |
| P-C-6 保育者の資質能力・保育者の専門性など 6 | P-D-6 教育計画・保育計画・指導計画・評価など |
| P-C-7 障害児保育・障害のある子どもを含む保育 1 | P-D-7 幼保一体化・幼保小連携など |
| P-C-8 保育専門職の養成など 5 | P-D-8 保育専門職の養成など 7 |
| P-C-9 保育専門職の養成など 6 | P-D-9 保育思想・保育理論・保育史など |
| P-C-10 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など 3 | P-D-10 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など 4 |
| P-C-11 保育制度・保育行財政など&15 児童福祉・児童の人権など | |

【自主シンポジウム 討論】

5月14日（土） 13:00～14:00

| 会場名 | セッション番号 | テーマ |
|-------|---------|--|
| 第3会場 | J-A-1 | 統合保育からインクルーシブ保育へ —インクルーシブ保育における保護者支援及び保育者同士の支え合いについて— |
| 第4会場 | J-A-2 | 幼児教育と小学校教育の接続期を生きる子どもと保護者（5） ：年長児から小学校2年生までの縦断研究から見えてきたこと |
| 第5会場 | J-A-3 | モンテッソーリ教育学における感覚教育 |
| 第6会場 | J-A-4 | 子どもの表現とドキュメンテーション —子どもは粘土という言葉はどう使うか？— |
| 第7会場 | J-A-5 | 障害と多文化を包括するインクルーシブ保育の可能性（3） —保育者の常識を問い直す— |
| 第8会場 | J-A-6 | 支え、繋ぎ、育む：日本のインクルーシブな保育への展望（1） |
| 第9会場 | J-A-7 | 保育施設で働く心理職の役割とその課題—発達と保育の架け橋としての専門家— |
| 第10会場 | J-A-8 | 人間・倉橋惣三の実像に迫る —『倉橋惣三物語』に描かれた子ども時代にフォーカスして— |
| 第11会場 | J-A-9 | 知育玩具が保育に与える可能性 |

5月14日（土） 15:45～16:45

| 会場名 | セッション番号 | テーマ |
|-------|---------|--|
| 第3会場 | J-B-1 | 養成校における領域「表現」の展望 —上手でなければいけないか、上手でなくてもいいですか— |
| 第4会場 | J-B-2 | 子どもの生活経験を広げ深める教材や環境Ⅵ —子どもの育ちを支える幼稚園と小学校の接続— |
| 第5会場 | J-B-3 | 共に育ち続けるとは～キリスト教保育を巡る考察 |
| 第6会場 | J-B-4 | ESD・SDGsの実践における保育者のあり方を問う |
| 第7会場 | J-B-5 | Issues and Challenges on "On-Site" Professional Development —Ways of Implementing the system in Three ECEC Cultures — |
| 第8会場 | J-B-6 | ナラティブプラクティスとしての保育研究 |
| 第9会場 | J-B-7 | 相模原市におけるすべての保育者に向けた研修の取り組み —相模原市幼児教育・保育ガイドラインの実現にむけた研修のあり方について— |
| 第10会場 | J-B-8 | 保育士処遇向上のための公定価格の抜本的改善提案 |
| 第11会場 | J-B-9 | 保育における“よさ”の未定義性 |

5月15日（日） 10:00～11:00

| 会場名 | セッション番号 | テーマ |
|-------|---------|--|
| 第3会場 | J-C-1 | 現場における同僚性を考える（2） —記録（ポートフォリオ）の過程を記録してみる— |
| 第4会場 | J-C-2 | 子どもの権利を保障する制度と保育実践 —子どもの意見表明権に着目して— |
| 第5会場 | J-C-3 | 異文化の視点より養育・保育・教育における「見守る」を検討する |
| 第6会場 | J-C-4 | 乳幼児期における ESD/SDGs はどのように、何をめざすべきか ～世界 OMEP の ESD Rating Scale を手がかりに～ |
| 第7会場 | J-C-5 | 子どもの権利条約（CRC）を踏まえた保育・保育実践 —世界スタンダードとしての CRC と OMEP の役割— |
| 第8会場 | J-C-6 | 保育士養成校における学外実習の代替えとしての学内実習の教育的効果と課題 |
| 第9会場 | J-C-7 | 施設実習用ルーブリックの開発 |
| 第10会場 | J-C-8 | 病児・病後児保育見える化5か年計画 最終年 未来へ |
| 第11会場 | J-C-9 | 日本の多文化保育実践上の課題と展望 ～韓国・オーストラリア・米国・フィンランドの動向からの示唆をふまえて |

5月15日（日） 12:45～13:45

| 会場名 | セッション番号 | テーマ |
|-------|---------|--|
| 第3会場 | J-D-1 | 「子どものアートの思考から子ども観・保育観を問い直す」 ～もう一度子ども観に着目して～ |
| 第4会場 | J-D-2 | 幼児の主体的な ICT 活用を考える |
| 第5会場 | J-D-3 | 「保育実践における状況性、関係性と子どもを育む活動展開」 |
| 第6会場 | J-D-4 | 保育者養成校と保育現場をつなぐ“こども理解プロジェクト MIYAGAKU” I ～子どもの姿から導かれたネットワーク～ |
| 第7会場 | J-D-5 | 子どもの主体的なあそび、学び、育ちを支える園庭・校庭・まちの環境について考える 5 ～園庭のお山、斜面の環境やあそびの機会の重要性・可能性を再考する～ |
| 第8会場 | J-D-6 | 特別に配慮を要する乳幼児に寄り添う絵本の選び方と読み聞かせ —これからの絵本と子どもとの関わり方とは |
| 第9会場 | J-D-7 | 乳幼児への語りかけについて考える～保育や子育ての現状を通して |
| 第10会場 | J-D-8 | 数量への関心を育む環境 —数への自発的な焦点化に注目して— |
| 第11会場 | J-D-9 | トライアル・アンド・エラーに学ぶ 質の向上を目指す保育マネジメント ～試行錯誤のプロセスからとらえる保育の質向上の検討～ |

5月15日（日） 15:30～16:30

| 会場名 | セッション番号 | テーマ |
|-------|---------|---|
| 第3会場 | J-E-1 | インクルーシブ保育の今とこれから— —「分けない」実践の難しさと可能性 |
| 第4会場 | J-E-2 | 子ども主体の排泄自立を再考する —なぜおむつが外れない幼児が増えているのか？— |
| 第5会場 | J-E-3 | 子どもの権利条約と保育実践とのつながりを考える —保育の生活場面から「子どもの権利」を再考する— |
| 第6会場 | J-E-4 | 居宅訪問型保育の現状と課題 |
| 第7会場 | J-E-5 | インクルーシブ保育で繋がる人と人 —地域コミュニティ創出を目指した保育現場の取り組みから考える— |
| 第8会場 | J-E-6 | 異文化交流の課題と展望 —認定こども園・大学における取り組みから見てくること— |
| 第9会場 | J-E-7 | 保育の場における子どもの育ちを支えるアナログゲーム |
| 第10会場 | J-E-8 | 「保育事故」をなくすために（6） —重大事故のリスク認知をどう活かすか— |
| 第11会場 | J-E-9 | 保育の質をいかに実証的に研究するか ：「保育の質と子どもの発達に関する縦断的研究」から論点と可能性について考える |

5月15日（日） 17:00～18:00

| 会場名 | セッション番号 | テーマ |
|-------|---------|--|
| 第3会場 | J-F-1 | コロナ過の乳幼児期における認知・非認知能力への影響について ～コロナ前と現在とを比べ、今後の保育について考える～ |
| 第4会場 | J-F-2 | 保育者養成校で学ぶ学生の「学びの過程」と「心の揺れ動き」を探るⅡ —共同体として育ち合う具体的方策— |
| 第5会場 | J-F-3 | 子どもを真ん中に保育を考える ～おもしろさを語りあうことから～ |
| 第6会場 | J-F-4 | 保育実践を開く営みの検討 ～オンラインでの公開保育・保育記録・キャリアパスを手がかりに～ |
| 第7会場 | J-F-5 | 音環境の改善と保育実践への影響 —建築音響からの提案を中心に— |
| 第8会場 | J-F-6 | 地球人として次世代へと繋げる 「やりとり」対話的コミュニケーションから生まれる SDGsアクションの芽生え ～地球の声に耳を澄まし傾ける～ |
| 第9会場 | J-F-7 | 「つくる・たべる・おしゃべりする」実践事例から今後の保育の5領域の意味を問い直す |
| 第10会場 | J-F-8 | 乳幼児教育・保育施設におけるリーダーシップのあり方の検討（2） 現職保育者の育成体制を中心に |

2. 研究発表者・自主シンポジウム関係者の方へ

2. 研究発表者・自主シンポジウム関係者の方へ

- (1) 日本保育学会第75回大会は聖徳大学が担当校となり、大会はオンラインによって行われます。第3号通信で案内したように、皆様が事前に作成された動画やポスターは4月14日（木）から大会参加者が視聴することができます。なお、大会当日は発表をせず、開始直後から質疑応答に入ります。
- (2) 予め「大会に参加される皆様へ」をご確認ください。また、Zoomの操作方法については、大会HP（<http://confit.atlas.jp/hoiku75>）でもご案内いたします。

■自主シンポジウム

- ◆今大会はビデオ会議システム Zoom（Zoom ミーティング）で行います。
- ◆登壇者は、担当セッションの 10 分前までに オンライン開催ページのタイムテーブルから、担当会場へアクセスし、スタンバイをしてください。
- ◆座長・演者の方は運営スタッフが認識しやすいよう、名前の表示設定を必ず行ってください。
表示名称例：【企画者】 保育太郎（聖徳大学）、【演題番号】 保育花子（聖徳大学）
ニックネーム等の表示はご遠慮ください。表示名は、下記手順より変更できます。
Zoom 下部にある「参加者」ボタンをクリック→自分の名前のところにカーソルを移動→「詳細」ボタンをクリック→「名前の変更」をクリックしご変更ください。
- ◆お知らせしている通り、自主シンポジウム企画者には、企画趣旨や話題提供等の動画を事前にオンライン上にアップロードしていただきます。参加者は事前にその動画を視聴した上で当日の自主シンポジウムに参加します。大会当日は、各自主シンポジウムにつき 60 分が配分され、そこで指定討論者の指定討論・話題提供者からの回答・参加者との議論等を行っていただきます。自主シンポジウムの開始の時間になりましたら、企画者進行のもと、自主シンポジウムをスタートしてください。
- ◆事前の打ち合わせのための時間がないため、指定討論と参加者との議論等のための時間配分については大会前日までに企画者の責任のもと、全登壇者と済ませておいてください。
- ◆各発表者は、次ページ以降の規定を熟読の上、自主シンポジウムの運営にご協力ください。

■口頭発表

- (1) 口頭発表の座長の方へ

- ◆今大会はビデオ会議システム Zoom（Zoom ミーティング）で行います。
- ◆担当セッションの 10 分前までに オンライン開催ページのタイムテーブルから、担当会場へアクセスし、スタンバイをしてください。
- ◆スタッフが認識しやすいよう、名前の表示設定を必ず行ってください。
表示名称例：【座長】 保育太郎（聖徳大学）
ニックネーム等の表示はご遠慮ください。表示名は、下記手順より変更できます。
Zoom 下部にある「参加者」ボタンをクリック→自分の名前のところにカーソルを移動→「詳細」ボタンをクリック→「名前の変更」をクリックしご変更ください。
- ◆セッション開始の時間になりましたら、セッションをスタートしてください。
- ◆お知らせしている通り、本大会は筆頭発表者が事前に投稿した研究発表動画を、参加者が事前に視聴した上で行います。そのため当日は、研究発表に対する質疑応答と討議のみを行います。
- ◆各研究発表に対する質疑応答が 4 分、全体討議が 20 分となります。詳細は下のセッションの流れのイメージをご覧ください。
- ◆オンライン開催につき、ベルのご用意はありませんので、時間の管理は座長の方々にお願いいたします。
- ◆各研究発表の筆頭発表者は必ず Zoom にて質疑応答と討議に参加することになっています。Zoom 参加時には、筆頭発表者全員が自身の氏名と所属を漢字で表示しておりますので、セッション開始 10 分前に筆頭者が集まり次第、筆頭発表者が揃っているかどうかをご確認ください。
- ◆万が一、不在の筆頭発表者がいた場合は、質疑応答の順番を入れ替えるなどして対応してください。順番を入れ替える等の対応をしても、筆頭発表者が質疑応答と討議の両方に参加できなかった場合は、運営事務局

(hoiku75@pcojapan.jp) までセッション終了後にご連絡ください。

- ◆本大会においても、例年通り2名の座長をお願いしております。そのため、原則としてどちらかの座長の方に質疑応答の進行等をご担当いただき、もうおひとりの座長の方に討議の進行をお願いいたします。座長のお二人におかれましては、セッション開始前に打ち合わせを行い、お二人のどちらがどの部分を担当されるかを決めてください。

【口頭発表セッションの流れのイメージ】

1. 座長挨拶・セッション名の確認等：1分

「座長を務める〇〇〇〇です。」

「このセッション名は〇〇〇〇です。」

「このあとの質疑と討議の際は、挙手ツールをお使いいただくとともに、ご発言時にはご所属とお名前をおっしゃってからお願いいたします。」

「なお、オンラインでのご発表ということで、ベルなどのご用意はございません。時間の管理は座長のほうで声をかけるなどして行います」

「大会規定にもありますように、本セッションの撮影やスクリーンショットなどは行わないでください」

2. 質疑応答（各発表につき4分）

「1つ目のご発表である〇〇先生の「タイトル」について質問等はございますか。」

「2つ目のご発表である〇〇先生の「タイトル」について質問等はございますか。」

「3つ目のご発表である〇〇先生の「タイトル」について質問等はございますか。」…

3. 討議：20分

「それでは、全体討議に入ります」

(2) 口頭発表の発表者の方へ

◆今大会はビデオ会議システム Zoom（Zoom ミーティング）で行います。

◆担当セッションの 10 分前までにオンライン開催ページのタイムテーブルから、担当会場へアクセスし、スタンバイをしてください。

◆演者の方は運営スタッフが認識しやすいよう、名前の表示設定を必ず行ってください。

表示名称例：【演題番号】 保育花子（聖徳大学）

ニックネーム等の表示はご遠慮ください。表示名は、下記手順より変更できます。

Zoom 下部にある「参加者」ボタンをクリック→自分の名前のところにカーソルを移動→「詳細」ボタンをクリック→「名前の変更」をクリックしご変更ください。

◆10 分前になりましたら、座長が出席確認を行います。直前のプログラムの都合からどうしても10 分前に入室できない場合でも、座長のほうでセッション終了時まで出席確認を行っておりますのでご安心ください。

■ポスター発表

(1) ポスター発表の座長の方へ

◆ポスター発表の座長の方は、在籍時間開始5分後～終了時まで、ご担当のセッションの全発表者に対して、チャットにて質問を一つ以上行ってください。ただし、座長以外の人からの質問に対して、在籍時間内に発表者が回答を投稿されている場合は、座長からの質問投稿は不要です。※発表者の元に質問がまったく寄せられていない場合は、座長が時間内に質問し、時間内の発表者の回答を待ってください。

◆質問にはオンライン視聴サイトのコメント機能を使ってください。

◆筆頭者の在籍期間は30分となっております。万が一、不在の筆頭発表者があり、その方の在籍時間が20分を下回る場合は、大会事務局 (hoiku75@pcojapan.jp) までセッション終了後にご連絡ください。

(2) ポスター発表の発表者の方へ

◆ご自身が属しているセッションの座長からの質問に対し、在籍時間内にオンライン視聴サイトのコメント機能を使用して回答してください。その回答が発表への参加証明となります。

- ◆在籍時間は 30 分となっております。20 分を下回る場合は、発表が認められない場合がありますのでご注意ください。なお、どうしても在籍時間に間に合わないなどの場合は、運営事務局（hoiku75@pcojapan.jp）までご連絡ください。
- ◆発表資料掲載期間中（4 月 14 日～5 月 15 日）の間、オンライン視聴サイトにコメントが投稿された場合、ご自身の在籍時間中に投稿されたコメントへの返信をお願い致します。

大会研究発表に関する規程

(本規程の目的)

第1条 本規程は、日本保育学会の大会において会員が研究発表を適正に行い、正式発表と認定されるための条件および規則を定める。

(発表申し込みとその受理)

- 第2条 大会での発表を申し込む者は、正会員であり、かつ発表前年度の9月末日までにその年度の年会費を納入済でなければならない。ただし、本学会との学術交流協定に基づき発表する者はその限りではない。
- 2 大会で発表する者は、以下の条件を満たさなければならない。
- (1) 大会で発表する者は、筆頭・連名を問わず、大会実行委員会が指定する期日までに発表申し込みをしなければならない。
 - (2) 大会で発表する者は、筆頭・連名を問わず、大会参加費を大会実行委員会が指定する期日までに納入しなければならない。ただし、特別配慮すべき事情がある場合は、事前に大会実行委員会に申し出て、その許可を得ることにより、期日後に納入することができる。
 - (3) 筆頭発表者は大会実行委員会が指定する期日までに論文集の原稿を提出しなければならない。
 - (4) 上記の条件が満たされない場合は、発表申し込みは受理されない。また、受理が取り消される。

(発表研究の条件)

- 第3条 発表研究は、大会での発表時において未発表であるものに限る。すでに印刷製本して公表された研究（単行本、学会誌、紀要〔大学、研究会、園等〕、雑誌等に発表されたもの）は、大会において発表することはできない。
- 2 発表研究は、本学会倫理綱領に基づいていなければならない。発表者はこれを踏まえて、発表者自身の責任において発表する。

(発表に関する制約)

- 第4条 発表は、1人1回に限る。ただし、連名発表者となる場合は、筆頭発表を含めて3発表まで認められる。同一研究グループ内で発表者を分散させるなどして、複数の発表をする場合も、実質上同一研究グループによる研究である限り、3発表を超える発表はできない。1発表は筆頭発表者を含め、10名を上限とする。
- 2 同一のテーマについては、2発表まで認められる。タイトルの一部を変えても、実質上連続した発表である場合は、2発表を超える発表はできない。

(発表の成立条件)

- 第5条 ポスター発表は、「ポスターでの発表」「質疑応答への参加」「論文集への発表論文掲載」の3条件を満たすことで正式発表と認められる。また、発表者は「発表説明責任時間」の間、自分のポスター掲示場所に在席していなければならない。かつ、ポスターは所定の時間掲示されなければならない。
- 2 口頭発表は、「口頭での発表」「討論への参加」「論文集への発表論文掲載」の3条件を満たすことで正式発表と認められる。また、発表者は分科会終了前に退席することはできない。
- 3 発表者は、分科会開始前に分科会会場での受付を済ませ、その会場にて待機しなければならない。
- 4 研究発表の際、筆頭発表者は必ず分科会に出席しなければならない。
- 5 筆頭発表者がやむをえない理由で発表ができなくなった場合、事前に大会実行委員会の承認を得ることで、連名発表者（他の発表で筆頭発表者となっていない者）が筆頭発表者となることができる（筆頭発表者の交代）。座長への届け出での取り下げおよび交代は無効である。

(日本語以外で発表を希望する者の発表)

- 第6条 正会員で、日本語以外で発表を希望する発表者は、本人の責任で日本語への通訳者を付ける。通訳者は非会員でも良いが、発表者の責任で実行委員会へ通訳者を届け出る。
- なお、英語の発表はポスターのみ可とする。
- 2 正会員で、日本語以外で発表を希望する発表者が通訳者を付ける場合も、発表時間は通常通りとする。
 - 3 学術交流協定に基づく発表者が通訳者を付ける場合には、口頭発表における発表時間を通常の2倍以内とする。
 - 4 通訳者は分科会終了まで、発表者と同席し、通訳の任に当たらなければならない。また、通訳者を必要とする発表者は、このことについて事前に通訳者に了解を取らなければならない。

(研究発表の認定と取り消し)

- 第7条 すべての研究発表の終了後、研究奨励賞推薦委員会がすべての発表について本規程を遵守しているか否かを審査する。審査の結果、本規程を遵守していると認められた発表のみ、理事会の議を経て正式発表と認定する。本規程に反することが確認された発表は「発表取り消し」とされる。
- 2 筆頭発表者が無断で欠席した場合は「発表取り消し」とされる。事前に欠席を届け出た場合は「発表取り下げ」となる。

(改廃)

- 第8条 本規程の改廃は理事会が行う。

附則 本規程は、平成22年4月1日から施行する。

一部 平成27年9月26日改正

一部 平成30年9月1日改正

一部 平成31年2月2日改正

一部 平成31年4月13日改正

一般社団法人 日本保育学会研究奨励賞 規程

(目的)

- 第1条 一般社団法人日本保育学会研究奨励賞（以下、研究奨励賞）は、「将来を嘱望される研究者を育てること」および「独創的な研究を育てること」を目的とする。

(賞の構成)

- 第2条 研究奨励賞は、「大会」において発表された研究（口頭発表・ポスター発表）を対象とする「大会発表部門」と『保育学研究』において発表された研究を対象とする「論文部門」の2部門からなる。

(授賞対象)

- 第3条 研究奨励賞は、本学会会員が「大会」において発表した研究および当該年度の『保育学研究』において発表した研究の中から、保育学の発展および保育実践の向上にとって非常に有意義であると思われ、今後の発展が期待できる優れた研究に対して授与する。

(授賞対象外の研究業績)

- 第4条 本学会役員（会長、副会長、理事、評議員、監事、推薦委員）の研究および役員の参加した研究は、選考対象外とする。
- 2 教育研究機関等において教授職または、それに相当する職（理事長、施設長、園長等）にある者、あるいはかつてその職にあった者の研究およびその者が参加した研究は、選考対象外とする。
 - 3 過去において研究奨励賞（大会発表部門）を受賞した事がある会員およびその会員を含むグループの研究は、研究奨励賞（大会発表部門）の選考対象外とする。また、過去において研究奨励賞（論文部門）を受賞したことのある会員およびその会員を含むグループの研究は、研究奨励賞（論文部門）の選考対象外とする。
 - 4 「大会発表部門」においては、第6条に規定される推薦委員会により推薦されながら受賞できなかった研究で、引き続き研究が継続されている場合は、次年度以降も選考対象となりうる。

(賞の授与)

- 第5条 「大会発表部門」に関しては、大会ごとに研究3件までに対して授与する。但し、適当な研究がない場合はそのかぎりではない。
- 2 「論文部門」に関しては、同一年度の『保育学研究』に発表された研究の中から、年度ごとに研究2件までに対して授与する。但し、適当な研究がない場合はそのかぎりではない。
 - 3 研究奨励賞の授与に当たっては、賞状および副賞を授与する。
 - 4 授賞は、授賞研究が発表された年度の次年度の大会での授賞式において行う。

(大会発表部門の選考)

- 第6条 「大会発表部門」の選考においては、「研究奨励賞推薦委員会」（以下、推薦委員会）が授賞対象と考えられる研究を推薦し、推薦された研究の中から、「研究奨励賞選考委員会（大会発表部門）」（以下、選考委員会）が授賞候補とする研究を選定し、理事会において決定する。
- 2 推薦委員会は、大会ごとに組織し、会長が委員長となり、副会長、理事、大会実行委員長および理事会で指名された本学会の役員と会員をもって構成する。
 - 3 選考委員会は、大会ごとに組織し、委員は5名とし、理事および評議員をもって構成する。但し、必要のある場合は、理事会で選定された本学会の会員も委員とすることができる。
 - 4 選考方法（推薦方法および選定方法）については別に定める。

(論文部門の選考)

- 第7条 「論文部門」の選考においては、当該年度の『保育学研究』に発表された研究（論文）の中から、「研究奨励賞選考委員会（論文部門）」（以下、選考委員会）が授賞候補とする研究を選定し、理事会において決定する。
- 2 選考委員会は、年度ごとに組織し、委員は5名とし、理事および評議員をもって構成する。但し、必要のある場合は、理事会で選定された本学会の会員も委員とすることができる。また、編集常任委員は当委員を兼ねることはできない。
 - 3 選考方法（選考方法）については別に定める。

(賞の基金)

- 第8条 研究奨励賞の基金については、別に内規を定める。

(庶務)

- 第9条 委員会の庶務は、学会事務局員の協力を得て行う。

(改廃)

- 第10条 本規程の改廃は、理事会が行う。

附則 本規程は、平成18年4月1日から施行する。
但し、本規程に基づく選考は平成19年度より実施する。
平成22年10月2日改正
平成25年4月13日改正
平成30年2月10日改正

一般社団法人日本保育学会 第75回大会発表におけるガイドライン

コロナ禍の影響で日本保育学会第75回大会（以下「本大会」といいます。）をオンライン開催する運びとなりました。オンラインによる発表は著作権法上の「公衆送信」（著作権法第23条）に抵触すると考えられることをふまえ、当法人は、オンラインにて発表する際のガイドライン（以下「本ガイドライン」といいます。）を公表することとしました。発表者におかれましては、本ガイドラインを指針とし発表資料（以下「コンテンツ」といいます。）をご準備ください。

なお、本ガイドラインは、著作権に関する一切の問題が生じないことを保障するものではありません。コンテンツの著作権は、発表者に帰属しますので、当コンテンツが第三者の権利や利益を侵害した場合、発表者が一切の責任を負うことになりますので、ご注意ください。

1 引用する場合は、次の要件を遵守すること

- ① 引用物がすでに公表された著作物であること
- ② 引用部分と他の部分を明確に区分すること
- ③ 自らの著作部分が「主」で引用部分は「従」であること
- ④ 慣行に従い出典の明示をすること

2 写真の掲載を原則禁止すること*

写真を掲載する場合は本人や保護者の掲載許可をとること。

発表者自身が撮影した写真を使用すること。

3 音楽は権利者の承諾なく無断で使用しないこと*

音楽を使用する場合には、関係する著作権及び著作隣接権の権利者から必要な許諾をすべて得ておくこと

4 図表を引用する場合は、以下の点に留意すること

出版社が図表の著作権を有している場合があるため、著作者だけでなく出版社の許諾が必要となるかどうか事前に確認すること

5 出版物の表紙や絵を使用する場合、出版社の指定する条件に従い使用すること

*インターネット上で「著作権フリー」として公開されている場合であっても、著作権、著作隣接権の許諾が不明な場合が散見されるため、使用しないこと

一般社団法人日本保育学会 オンライン参加に関するガイドライン

コロナ禍の影響で一般社団法人日本保育学会第75回大会（以下「本大会」といいます。）をオンライン開催する運びとなりました。

参加される皆様（以下「参加者」といいます。）におかれましては、本ガイドラインを遵守いただきますようお願いいたします。

なお、本ガイドラインの不遵守によって発生したいかなるトラブルについても、当法人は責任を負いかねますのでご了承ください。

1 閲覧方法

参加者は、閲覧期間内（2022年4月14日（木）10時～同年5月15日（日））に、本大会特設サイトに掲載される各発表者の発表資料を閲覧することができます。

発表者への質問がある場合には、本大会特設サイトにコメントを投稿することができます。

※ 時間等の制約のため、すべてのコメントに発表者から回答されるわけではありませんので、ご了承ください。また、人権侵害等の問題のあるコメントは本大会実行委員会の判断で削除される場合がありますので、ご注意ください。

2 発表内容を無断で複製・録音しないこと

本大会における各発表者の発表内容（発表者作成の発表資料を含む。）に関する著作権については、原則として当該発表者に帰属します。

したがって、参加者は、本大会特設ページに公開された各発表者の発表内容その他一切の資料（画面キャプチャを含む）を、無断で録画、録音、保存、再配布することを禁止いたします。自己使用目的であっても同様です。

3 その他禁止事項

- ・当法人から付与された本大会特設サイトへのアクセスパスワード・IDを他人と共有・他人へ譲渡すること
- ・本大会の運営を妨げる行為
- ・公序良俗に反する行為、またはそのおそれのある行為
- ・その他法律、法令に反する行為、またはそのおそれのある行為
- ・その当法人が不適当・不適切と判断した行為

3. 講演・シンポジウム

基調講演

アタッチメントが拓く子どもの未来：「非認知」なる心の発達と保育者の役割

講演者 遠藤 利彦 (東京大学大学院教育学研究科 教授)

講演要旨

近年、人の生涯にわたる心身の健康や経済的安定性なども含めた社会的適応性などに対して、乳幼児期における経験の質が重要な意味を有しているということが改めて見直されてきている。加えて、乳幼児期に人が身につけておくべき「心の土台」として、「非認知能力」あるいは「非認知スキル」なるものに多大な関心が払われるようになってきている。

認知能力の代表的なものが、IQのような、私たちが通常、頭のよさとか頭のできと呼ぶものであるのに対し、この「非認知能力」というのは、字義通りに言えば、認知面ではないところに現れる心の性質ということになる。もっとも、厳密に言えば、現在、「非認知能力」として問題にされているものの中には、多分に認知的な要素、とりわけ自他の関係性やその背景に潜む心理的状态の理解を支える「社会的認知能力」の諸要素も含まれていると見なすべきであり、その意味からすれば、それは本来、「非認知能力」ではなく、例えば社会情動的スキルあるいはコンピテンスといった別の術語で呼ばれて然るべきもののなかだろう。

現に、例えばOECDなどは社会情動的スキルという言葉を用いて、乳幼児期にこうした心の基礎を身につけておくことの重要性を声高に叫んでいる。OECDは「スキルがスキルを生む」という表現をとっているが、まずは発達早期にこうした社会情動的なスキルの基礎を堅固に作り上げておくと、その後、児童期以降の教育課程で受けることになる様々な教育の成果がその上に着実かつ効率的に積み上げられ、多様な側面に亘る、さらに高水準のスキルの発達がより円滑に、かつ効率的に導かれると主張しているのである。

OECDは、多岐に亘る理論的検討を通じて社会情動的スキルを、「長期的な目標の達成」「他者との協働」「感情を管理する能力」の三側面から成るものとしている。もっとも、今回の拙論では、もう少しシンプルに「非認知」なる心の力を、自己と社会性に関わる心の性質であると再定義した上で、その具体的な要素について説くことにしたい。

この内、自己に関わる心の性質というのは、平たく言えば、自身のことを大切にし、適度にコントロールができ、さらに高めようとする心の力のことを指し示すものと言えよう。そして、その下位要素としては、例えば、自分を愛し自分の性質や能力に自信を持つ「自尊心」や「自己肯定感」あるいは「自己効力感」が含まれる。また、「好奇心」やそれに駆られた「内発的動機づけ」、衝動を抑え行動をコントロールしようとする「自制心」や目標に向かって我慢強くやり抜く力「グリット」なども入ると言えよう。さらには自身の性質や状態などに対する的確な認識をなし得る「自己理解」、あるいは自分の意志で決めて自分の力で実行しようとする「自律性」や「自立心」のようなものも構成要素の一部を成すと言えよう。

一方、社会性に関わる心の性質とは何かと言うと、それは集団の中に溶け込み、他者との関係を作り維持する力ということになろう。その下位要素に関して言えば、「心の理解能力」や、それを基に他者と適切に「コミュニケーションをとる力」が含まれる。また、誰かが困っていたら助けようとする力、すなわち「共感性」や「思いやり」も重要であろう。さらには、他者と互いに助け合いながら事を進めていく力、すなわち「協調性」や「協働性」、また社会的に何が良く何が悪いかを判断する力としての「道徳性」および、集団の中に潜在するルール・決まり・常識などを理解し遵守することにつながる「規範意識」なども大切な構成要素と言えるだろう。

それでは、自己と社会性に関わる心の性質は、いかにして育まれ得るのだろうか。実のところ、それは、知育教育や早期教育といった何か特別な働きかけを子どもが多く受ける中で、育成されるものでは必ずしもないようであ

る。むしろ、親や保育者を始めとした大人と子どもの日常のごく当たり前の関係性あるいは子ども同士の濃密な相互作用の中で自然と培われるものと言い得るだろう。それは、換言すれば、子ども自らが正負様々な感情の直中に身を置いている、まさにその時機における「感情の当事者」としての活きた経験を通して、ある種リアルな体感を伴って、漸次的に子どもの中に備わっていくものと言える。

保育現場における保育者と子どもの関わりに関して言えば、子どもが何らかの感情の当事者である時に、保育者がある都度、その感情に真摯に向き合い、それを共感的に映し出し、また適切に調整してあげる中で、自己と社会性に関わる多様な心の力が最も実り多い形で涵養されるのだと考えられる。そして、その中核にあるのが「アタッチメント」ということになる。保育者が子どもとの間に安定したアタッチメントを築き、子どもにとって何かあったら、確実に戻ることのできる「安全な避難所」として、また子どもが何か思い立ったら、それを後押しし、探索を支え促す「安心の基地」として、うまく機能している時に、子どもは生涯に亘って健康や幸福の基底をなす真に意味ある「非認知」なる心を自ら育むことができるようになるのである。

当日の講演では、何故に、アタッチメントが「非認知」なる心の発達に重要な役割を果たすと言い得るのかについて、少し深掘りした私論を述べさせていただくことにしたい。

プロフィール

遠藤 利彦（えんどう としひこ）



<略歴>

東京大学教育学部卒業。東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。博士（心理学）。東京大学教育学部助手、聖心女子大学文学部講師、九州大学大学院人間環境学研究院助教授、京都大学大学院教育学研究科准教授、東京大学大学院教育学研究科准教授等を経て、現在、東京大学大学院教育学研究科教授、同附属発達保育実践政策学センター（Cedep）センター長。日本学術会議第25期会員。

<専門>

発達心理学・感情心理学・進化心理学 など

<主要著書>

『読む目・読まれる目：視線理解の進化と発達の心理学』（編著）（東京大学出版会、2005）

『アタッチメントと臨床領域』（共編著）（ミネルヴァ書房、2007）

『乳幼児のこころ：子育て・子育での発達心理学』（共著）（有斐閣、2011）

『甘えとアタッチメント』（共編著）（遠見書房、2012）

『「情の理」論：情動の合理性をめぐる心理学的考究』（単著）（東京大学出版会、2013）

『赤ちゃんの発達とアタッチメントー乳児保育で大切にしたいことー』（単著）（ひとなる書房、2017）

『言葉・非認知的な心・学ぶ力』（共著）（中央法規、2019）

『乳幼児の発達と保育ー食べる・眠る・遊ぶ・繋がるー』（共編著）（朝倉書店、2019）

『情動発達の理論と支援』（編著）（金子書房、2021）

『入門ーアタッチメント理論：臨床・実践への架け橋』（編著）（日本評論社、2021）など

実行委員会企画 シンポジウム1

アートパークの実践から ～子どもの表現・保育者養成・地域連携～

企画・司会 大成 哲雄(聖徳大学)
北沢 昌代(聖徳大学短期大学部)
話題提供 大成 哲雄(聖徳大学)
北沢 昌代(聖徳大学短期大学部)
石川 康代(ケヤキッズ保育園)
佐藤 牧子(目白大学)
能登谷小町(聖徳大学美術研究室)

企画趣旨

アートパークは聖徳大学と地域が協働し、松戸中央公園で2008年から行っているアートプロジェクトである。このプロジェクトは様々な人が関わり、親子対象のワークショップを企画、実践し、学生の社会参画力、実践力、表現力の向上、地域活性化等を目的にしている。アートパークの主な対象は幼児から小学生、その親子である。今までに年に1回、計14回実施し、参加者が2000人を超える回もあった。この2年間、コロナ禍ということで趣向を変えて実施したが多くの来場者で賑わい、地域に根付いた活動になってきていると実感している。例年、公園各所で、大学、短大のゼミや美術部、子育て支援やまちづくり団体、市内の保育園や中学校美術部有志、アート関係団体等が企画した10を超えるワークショップを実施。地域の様々な団体や行政と協働し運営している事もアートパークの特色である。本シンポジウムは、アートパークを手掛かりに、子どもの表現、これからの保育者養成、地域連携等について協議する場にしたい。

話題提供

アートパークの概要とアートパークから広がるゼミの地域活動

大成 哲雄(聖徳大学)

松戸中央公園は、かつて、子ども達が元気に遊ぶ光景が日常的に見られた。子ども達にとって遊びの場は学びの場である。しかし、社会の変化や様々な要因から子ども達が屋外で思いっきり遊べる機会が少なくなっており、公園は閑散としていた。こういった地域の課題を踏まえ、一日だけではあるが、子どもも大人も思いっきりアートを楽しむ事で、子どもの遊びや表現の重要性をみんなで考えてみようというのがアートパークの試みである。

アートパーク立ち上げから、スタッフ間で大切にしている事柄は以下となる。1, 場所を活かした活動。2, 公園の新たな活用法を提案。3, 子どもの自主性・主体性を大切に活動。4, 大学と地域の協働、共に学び合える場を創出。地域に文化を創る活動。5, ワークショップ、PBLなど学びの方法の実践。6, 地域活動のノウハウを創る。

筆者は2008年の立ち上げから関わり、毎回ワークショップをゼミ生と考え実践してきた。子どもたちと学生で、モニュメントの周りで段ボールを積んだり、つなげたりする造形遊びをし、ペイントをするワークショップを行っている。この活動では、学生のファシリテーターが重要な役割を担っている。子どもの主体性を大切に、幼児の表現活動を見守り、援助する役割である。

この2年、コロナ禍ということで、開催が危ぶまれたが、身近な素材を使って公園をカラフルに変身させ、散歩をしながらアートを楽しむよう「鑑賞」をメインに行った。

また、アートパークをきっかけにゼミ活動は広がりを見せている。文化事業にも力を入れている松戸市と協力し、21世紀の森と広場で「松戸アートピクニック」を開催し、観光協会とは、市の魅力を紹介するフリーペーパーを

制作している。学生は、活動を通して企画力、表現力、コミュニケーション力等様々な力を伸ばしている。

短期大学部保育科と地域保育園の協働で参加するアートパーク

北沢 昌代（聖徳大学短期大学部） 石川 康代（ケヤキッズ保育園）

短期大学部保育科は、毎年、地域保育園と協働でアートパークに参加している。

活動の流れは、1年生を対象に「子どものアート研究グループ」の有志参加を募る。メンバーが決まると、アートパークに向け保育園で行うプレワークショップの準備をし、実践する。その後、学生は放課後を利用し、自主的にボランティアに行き、遊びを通して子どもたちと関わったり、保育士の援助を間近に見たりして、子どもとの接し方を自然と身につけていく。

アートパーク当日は、ワークショップを実施し、造形を通して子どもたちや保護者、地域の方々と関わりながらその場の状況に応じて臨機応変に動いたり、責任をもって行動したりする力を身につけることができた学生自身も振り返っている。また、アートパーク後は、身についた力をもとに再度保育園に出かけ、自分たちで企画したワークショップを仲間と協力して行うことで、活動がつながっていく。

このように「子どものアート研究グループ」は、アートパークを中心に年間を通したプロジェクト型で行われ、学生の主体性に任された活動になっている。参加した先輩たちから「楽しかった」「貴重な体験になった」などと伝えられていて、忙しい短大生活にもかかわらず、今では人気の活動になっている。近年の学生は、子どもと触れ合う体験が少なく、短大1年生にとって、まずは「子どもと関わり、子どもを知る」ことが重要であり、また、活動は楽しくなければなかなか続かない。

一方、保育園にとっては、アートパークは大学と協働して行うことのできる行事の1つであり、子どもや保護者にとっても楽しいイベントになっている。親子でアートパークに出かけ、いつもとは違った開放的な場で、保育士と親子が自然に触れ合えることも魅力の1つである。また、学生が保育園で行うワークショップやボランティアは、子どもにとっては、いつもとは違った遊びを体験できる。保育士にとっても学生の活動は新たな刺激になり、自分の保育を振り返る切っ掛けにもなっている。

このように、学生は、地域保育園や住民の方々と関わりながら、授業だけでは学べない多くの力をアートパークで身につけることができる。保育園にとっても同様のことがいえる。大学と保育園の信頼関係をもとに互いに協働することにより得る成果は大きい。また、アートパークは造形を通して活動自体が主体性に任されていること、互いに無理のない活動で仲間と共に学び合い、楽しくできることが大切であると考えている。

幼児教育・保育の視点から見たアートパーク

佐藤牧子（目白大学）

幼児教育・保育（以下、保育）における造形遊びの課題として、「環境構成」「活動の可視化」「教材研究」を挙げることができる。保育において環境構成は、言うまでもなく保育の基本であるが、実際は興味や関心、発達の実情などが異なる子どもたちを集団で預かる保育において、一人一人の特性に応じることのできる環境（人的・物的・空間的）を構成することは容易でない。また、活動の可視化についても、ドキュメンテーションなどを通して、活動の過程に価値を見出す保育がある一方で、成果物の出来栄に偏重した大人主導の製作を行う保育もある。成果物に偏重せざるを得ない背景には、園の方針をはじめ、保護者が求める成果を分かりやすく明示する必要性、マンパワーの不足、保育の質に関わる課題など多岐に渡る。幼児の造形遊びが、それらの背景と複雑に関わり合いながら行われていることを鑑みると、園の中だけで行う教材研究には限界があると思われる。

これらの実態を踏まえた上で、改めて保育における造形遊びを問い直す時、環境構成が子どもの造形遊びにどのような影響しているのか、また、大人がファシリテートしながらも子どもの主体性を尊重した活動を行うためにはどのような視点が必要なのか、子どもたち一人一人の興味や欲求を満たす活動に必要な要素は何か、という点に注目して見つめ直す必要がある。そのためにも、保育における造形遊びの視野を狭める要素を抜いて、少し引いた視点から見えていくことに大きな意義があると考えられる。その点で、乳幼児から大人までを対象とし、保育者養成校の学

生と地域が手を組んで行うアートパークの実践を丹念に見ていくことは、保育における造形遊びに示唆を与えるものであると考える。

学生としてアートパークに参加して

能登谷小町（聖徳大学美術研究室）

高校生の頃、大学のパンフレットでアートパークの写真を見て、この活動にとっても惹かれた。在学中は、1年次に補助として、3年次には「大成ゼミ」として二度アートパークに参加した。公園の中で子ども達が、アートや音楽を楽しみ、大胆で自由な体験ができることがアートパークの魅力だと感じた。

「大成ゼミ」では、3ヶ月ほど前から準備を始め、学生が共同で制作する作品について話し合い、アイデアを出し合いながら段ボールで大きな象の作品を作り上げた。また、同時にアートパークを共に作り上げる地域の方々と会議も繰り返し行うことで、普段の学校生活だけでは関わりの薄い、地域との繋がりを強く意識し活動に取り組むことができた。また、沢山の人間と一つの作品を作り上げる難しさや面白さも感じる事ができた。

そして、アートパーク当日は子ども達と一緒に段ボールを積んだり、そこに絵の具で色付けをするワークショップを行い、私たち学生も絵の具まみれになりながら楽しんだ。活動の中で、子ども達の遊びが展開されていく様子に気がついた。段ボールを一列に並べ、一本のトンネルのようなものを作り、その中を這って通ろうとする子どもがいた。それを見た他の子ども達も真似をするようにトンネルに入り、さらに段ボールをテープで繋げたり色を塗ったりと、初対面の子も同士が協力し合いながら、長いトンネルを作り上げた。たった数時間のうちに遊びの内容は何度も変化し、そこには私達が想像していなかった遊びが生まれていた。

やりたい事に迷わず挑戦し、そこに自分なりの面白さを見つけていく子ども達の生き生きとした姿が印象に残っている。私はそんな子ども達と積極的に関わり、注意や指導をするのではなく、安全に配慮しながらも同じモチベーションで一緒に楽しむことを心がけ、子どもの夢中になっている気持ちをなるべく冷まさないよう心がけた。アートパークは松戸中央公園の自然の中だからこその心も体も開放的になり、子どもだけでなく私達も自由な発想でアートを楽しみ、地域や様々な人との関わりも楽しむことが出来るのだと感じた。



ゼロ歳からの子どもの権利条約 —ウェルビーイングに向けて—

| | |
|---------|--|
| 企画 | 国際交流委員会・第75回大会実行委員会・OMEP日本委員会 |
| 趣旨説明・司会 | 金田利子(静岡大学名誉教授/国際交流委員会) 清水陽子(九州産業大学/国際交流委員会) |
| 基調講演 | メルセデス・マイヨール・ラサール(Mercedes Mayol Lassalle) (ブエノスアイレス大学教授/OMEP世界総裁) |
| 指定討論 | 小泉広子(桜美林大学) 北野幸子(神戸大学/OMEP日本委員会) |

企画趣旨

本年で「国連・児童に関する権利条約(子どもの権利条約)」が国連で採択されてから33年、日本で批准されてからは28年になる。しかし、世界でも日本でも子どもの権利は一層脅かされる事態にある。そういう中で国連の子どもの権利委員会は各国の声を集約し一般的注釈とし第1号(2001年)から第25号(2021年)まで刊行し締約国に通知しており、子どもの権利を発展させていこうという動きもまた活発になってきている。

子ども、とりわけ乳幼児期については、国際的にはOMEPがUNESCOの乳幼児期部門を担当する位置にある。折しも今回の本大会の主テーマが「アーリー・スタート」であるためOMEP世界総裁でUNESCOの活動と連動して国連の子どもの権利委員会ともかかわりのあるメルセデス・マイヨール・ラサール氏に基調講演を依頼した。国際的視野でアーリー・スタートとしてゼロ歳からのウェルビーイングについて議論する。

基調講演

子どもの権利に関する条約—0歳から3歳児のウェルビーイングに向けて—

メルセデス・マイヨール・ラサール氏(Mercedes Mayol Lassalle)

子どもは生まれた時から市民である。

国連子どもの権利条約については、ユネスコを中心に様々な組織が、その内実の研究・発展や普及活動に力を入れている。しかし、乳幼児期については私達保育関係者が責任をもってかかわっていく必要がある。そういう意識に立ち、ここでは0歳からの権利条約ということ、すなわち「アーリー・スタート」に焦点を当て、その視点から子どもの権利条約を読み解き、日本保育学会の皆さんと共に再確認し、ユネスコの乳幼児部門を担当してきた私の立場から歴史も含めて全体的に展開させていただく。このことをどう保育実践につないでいくかを日本保育学会の皆さんとともに議論できたらと考えている。

国連子どもの権利委員会は、各国の声を「一般的注釈(general comments)」として第1号(2001年)から第25号(2021年)にまとめて刊行している。ここでは「0歳からの」という視点で、第1号(権利条約の目的)、第7号(0歳からの市民としての意味)、第17号(遊びの大切さ)、第19号(子どもの権利を保障する条件)、第25号(IT化)を取り上げる。

●プロフィール

OMEP(世界幼児教育・保育機構)世界総裁。ブエノスアイレス大学院教授。IIP-UNESCO(ユネスコ国際教育計画研究所)教授。EDUCATION 2030に関するNGO団体協議会(CCNGO/ED 2030)のコーディネーショングループメンバー。



指定討論 1

日本の乳幼児期の子どもの権利保障の課題

小泉広子氏（桜美林大学）

乳児期 0 歳からの子どものウェルビーイングを子どもの権利条約から考えるにあたっては、条約と、国連子どもの権利委員会による締約国に対する報告審査および委員会が示した一般的注釈がその手がかりになる。特に、2005 年に公表された一般的注釈第 7 号「乳幼児期における子どもの権利の実施」は、乳幼児期の子どもがなぜ権利を持つのか、そしてそれはどのような権利なのかが詳細に論じられているものである。

日本については、直近の 2019 年の第 4 回報告審査で、初めて乳幼児期の問題が、「乳幼児期の発達」という見出しの下、独立した項目として扱われ、①保育、幼児教育の無償性を拡大すること、②保育を質、量ともに向上させること、③保育の施設と運営に関する最低基準を確立すること、④これらの措置のために十分な予算を配分すること、が勧告されている。当日は、基調講演で示された乳幼児期の子どもの権利保障の国際的な到達点を踏まえ、日本の乳幼児期の子どもの権利や、子どもの発達を保障するための親や保育者を支える制度上の課題を示し、議論を深めたい。

指定討論 2

誕生からの育ちを支える保育者の専門性を考える

北野幸子（神戸大学大学院）

基調講演で示された乳幼児期の子どもの権利の概念や、実際の内容、また、世界の保育界における乳幼児の権利保障のチャレンジ、特に、OMEP の活動の動向と照らし合わせながら、これからの日本の保育実践に得られる示唆を共に得たい。

もはや、補償教育にとどまらず、準備教育ではなく、前倒し教育でもなく、今まさにこの時を生きる乳幼児の教育保障と、その傍らにある保育者の専門性について考えたい。当日は考える材料として、論者自身が昨今、発達観と教育観の転換を推奨し、例えば、誕生からの育ちを支える保育者の専門性について実践的に探求を進めている内容についての紹介（私幼時報の連載（2020 年 3 月—6 月、2021 年 4 月—11 月）参照）や、地域の研究プロジェクトチームとの誕生からの非認知的能力の育ちに関する 6 年間の継続研究や、K 市における 3 歳未満児クラスの公開保育（遠隔を含む）や事例検討を中心とするこの 4 年間（継続中）の全市をあげて実施している乳幼児保育研究部会の活動などを具体的に紹介させて頂き、共に考える機会を得たい。

実践研究へのいざないⅣ —質的研究法を問い直す—

| | |
|---------|--|
| 企画 | 編集常任委員会 |
| 趣旨説明・司会 | 河邊 貴子(聖心女子大学・編集常任委員) 矢藤誠慈郎(和洋女子大学・編集常任委員) |
| 話題提供 | 戸田 雅美(東京家政大学) 中坪 史典(広島大学大学院) 松永 愛子(目白大学) |
| 指定討論 | 榎沢 良彦(東京家政大学・編集常任委員) |

企画趣旨

河邊 貴子

実践の現場をフィールドとした研究が盛んになり、『保育学研究』には、研究者が現場に通って得たデータをもとにした論文や、実践者本人が自らの実践を俎上にのせた論文が多く投稿される。

フィールドは多様な要因が複雑に絡まっている場であり、質的研究においては、研究の目的をどのように定め、データをどのように蓄積し、それらをどのように読み取っていくかが重要になる。近年、KJ法、M-GTA、SCAT、TEM、等の様々な研究手法を用いた論文が見られるようになってきた。しかし、それらの中には、研究の目的と研究手法の組み合わせが適切でなかったり、取扱う手法の理解が十分でないまま用いられて、結果の分析に疑問が生じていたり、その研究が目指している「質」の把握に至っていない論文も散見され、改めて「質的研究法」を問い直す必要性が認められる。

本シンポジウムでは、比較的多く用いられている質的研究法を取り上げて、その意義と有効な活用法について考え、またそれらの限界について検討することを通して、「保育の質」の探究のあり方についての知見を深めたい。

1 様々な質的研究法に精通している研究者として

中坪 史典

今ほど質的研究が市民権を得ていなかった1990年代後半、エスノグラフィーで博士論文を書くことを決意した私は、「質的研究を指導できる教員がいない」「質的研究法を学ぶ場がない」「質的研究や質的研究法に関する書籍が少ない」という「三重苦」の中で院生時代を送っていた。同時に、実証科学を重視する量的研究者から、あなたの研究は「客観的なん?」「一般化できるん?」「信頼性は?」「妥当性は?」など、冷ややかな視線をあびることもあった。そうした私も現在は、(主に質的)研究者の養成に携わりながら、質的研究法に関する(紀要レベルの)論文を書くようになり(境・中西・中坪2012;中坪・濱名・淀澤・加藤・田島2019)、これが査読論文よりDL数が多かったりする(苦笑)。本シンポジウムでは、質的研究者としての私の経験に基づきながら、実践研究における質的研究の意義、有効な活用、限界について述べる。

話題提供の結論を示しておこう。第一に、実践研究における質的研究の意義は、次の点に集約できる。(a)量的研究では測定できないものを扱えられること。(b)記述的な問いを明らかにできること。(c)小さなnについて深く洞察できること。第二に、質的研究の有効な活用(活用法ではない)とは、例えば、次のような「残念な質的研究あるある」に陥らないようにすることである。(a)質的研究の理論や意味を理解せずデータ分析のやり方だけを真似る。(b)都合の良いデータをつまみ食いする。(c)自分のシナリオ通りにデータを恣意的に切り貼りする。(d)データの分析手順が明示されない。「薄い記述」「自己主張が強い」「ご都合主義の引用」などは、質の低い質的研究である(佐藤2008)。第三に、私の経験からたどり着いた質的研究の限界は、外部の研究者は所詮、当事者(例えば、保育者や子どもなど)の視点には立てないということである。この限界を痛感した私は現在、研究者が実践者の視点に立

とうとするのではなく、実践者と協働することで豊かな実践の知を「学術の知」として創出する質的研究（質的研究法の開拓）をめざしている。

2 質的研究法としてのエスノグラフィー研究に取り組む研究者として

松永 愛子

「遊びを大事にしている」と表明していても実態がそう見えない園があるのはどうしてか。園によって遊びという言葉と実態の結びつき方が違う中で、言葉のみによる質問紙調査や評価スケールが遊びを扱えるのか、以前から疑問だった。そのため現在は、「教授学習法から遊び中心の保育法へ転換を目指すH園の5年間を追う研究」を行っている。データ収集しているのは、自由遊びの時間のクラス全体の映像（各遊びの経過、遊び同士の影響、保育者と全子どもの動き）や、行事、記録法、会議方法、保護者対応等々である。わかってきているのは、保育者は「遊び」という言葉を、転換初期には「子どもによる決定」、次に「子どもの興味の持続」、次に「子どもと保育者の相互作用」という実態と結びつけており、この変化に伴い援助も遊びの質も変化していることである。このようにエスノグラフィーの利点は、言葉と実態の繋がりや生成過程（文化）を問える点、広範かつ長期的事象を扱える点、クラス内で起きている全事象をなるべく捉えようとする点、だと考える。

研究遂行上の困難は、①研究対象の選定（研究計画段階ではH園が変化するか不安だった）②分析時間確保（遊びの映像の書き起こしに時間がかかる）③長文論文の投稿先のなさ等々があり格闘中である。特に、エスノグラフィーの弱点は、研究結果の間主観性確保のために読者との対話を要請するものの、長文完読し議論に参加する読者は稀有な点だと思う。そのため遊びの分厚い記述を書いた後、濃縮してグラフ図化（ネットワーク分析）やダッシュボード化（マップ型記録）する方法も試している。

最近では、H園で園内研修も担うようになってきている。その中で実践改善には、①実践から立ち上げた保育方法論、②方法論を具現化する記録や環境構成、③「質の高い遊び」をイメージできる事例の3つが有効と感じている。この「理論・道具・行動目標（評価）」をひとまとまりで考える研究、つまり教育方法学が「遊び」において可能か、考え始めている。

3 保育学研究の本質を追究し続けている研究者として

戸田 雅美

保育学研究は、「保育という人間のいとなみ」に有意にかかわる理論生成をする研究の場だと考えている。方法は、いわゆる「事例研究」を中心としてきた。「事例」とは、保育実践のフィールドに足を運び、そこで出会った保育実践に「私」が当事者性をもって立ち会う中で、発見した認識を理論として提示するために、できる限りその認識の理論化にふさわしく吟味した言葉の網の目に結晶化させたものである。「私」は、研究者という身分ではあっても、一人の実践者としてそこに存在しようとする。

その日、その時限りであり、担任に比べて保育者としては大変暇な存在ではあるが、その時の保育実践の場を共にする一人として、他の保育者の行為を理解しようとし、また、子どもたちの行為を実践者の視点に立って理解しようとしてきた。そこに「私」が存在するだけで、子どもには何等かの意味を与えてしまうことも自覚し、また、時には、誘われて遊びや会話に参加することもあるという意味で、参与観察法であり、そこで「私」の中に生じた認識を記述し、理論化する最善の方法として「事例研究」を大切にしている。

保育実践は、実践の最中にあるだけではない。保育者同士、保育後に互いに自身の保育に対する認識を交流させる。これは、子どもの些細な出来事や明日の保育への迷いを話しているだけに見えるかも知れないが、保育の専門家同士の認識と理論の交流に他ならないと考えている。そして、「私」も、その一人として参加させてもらい、その交流を通して、その日に得た「私」の認識を語り、「私」の疑問に答えてもらう機会を持つ。それが「事例研究」には決定的に重要である。「事例研究」は、倉橋惣三、津守眞、鯨岡峻らにつながる、研究方法の系譜でもあると考える。ではなぜ、彼らは「事例研究」でなければなかったのか。

それは、保育者も、子どもも、それぞれ主体的な存在であり、科学的と言われる法則に則って動く存在という認識ではなく、自由に判断しつつ行為する存在であるという認識に立っていたからだと考える。

わが国の医療保育の現状とこれからの方向性

企画・司会 鹿島 房子(聖徳大学短期大学部)

原田 正平(聖徳大学)

話題提供 佐藤 里美(医療法人社団健育会 さとう小児科医院 病児保育室バンビーノ室長)

石井 光子(千葉県千葉リハビリテーションセンター 愛育園 園長)

来住るみ子(社会福祉法人豊福社 みつわ台保育園 主任保育士)

指定発言 原田 正平(聖徳大学)

鹿島 房子(聖徳大学短期大学部)

企画趣旨

医学・医療の進歩により様々な慢性疾患を有する子どもが地域で生活する機会が増えるとともに、女性の働く機会の増加により、急性疾患に罹患した子どもの保育も社会的課題となってきた。慢性疾患を有する子どもへの支援は、医療機関だけが対応する時代から、「一般的な子どもが必要とする水準以上の保健・医療サービスを必要とする子ども(Children with special health care needs: CSHCN)」という概念の導入とともに、保育・教育機関でも対応が求められる時代へと移り変わっている。最近のわが国での研究では、日本の子どもの約12.5%がCSHCNに相当すると報告され、すべての保育者にとってその対応は喫緊の課題となっている。このような現状を背景に、本シンポジウムでは、医療保育における課題の中から、病児・病後児保育、医療的ケア児への支援、個別的配慮を必要とする児の保育に焦点をあて、先駆的な取り組みやこれからの方向性を示す。

話題提供

「病児保育の現状と今後の展望」

佐藤 里美(さとう小児科医院 病児保育室バンビーノ 室長)

病児保育の始まりは、1966年東京都世田谷区のナオミ保育園において「親が涙を流す時」という保護者のアンケート調査がもととなった。子育てをしながら働き続ける困難さ、社会の厳しさがアンケート結果に現れ、子どもが病気の時でも安心して預けられる場所が欲しいと切に願う父母会の活動が原動力となり、園内方式の病児保育が誕生した。現在では児童福祉法第6条に病児保育事業が定義され、地域子ども子育て支援事業のひとつとなっている。厚労省が発表している平成30年のデータによると、病児保育、病後児保育、体調不良時対応型等の施設は全国で3130施設あり、年間の利用者数は延べで100万人を超えている。

病児保育で大切な事は、子どもたちに最善の保育環境と安全で安心できる保育を提供することである。そのために保育士、看護師、医師ほか多職種の連携が必要であることは周知のとおりだが、特に保育士と看護師がその専門性を発揮し、お互いの協働を深めることにより、短期利用を特徴とする病児に対して質の高い保育看護を提供できることになる。

当初は就労支援を目的としていた病児保育も、現在では子どもの成長の一端を担う生活の場であるとともに、近隣保育施設に向けた感染症流行状況等の発信や、看護師、保育士による巡回支援等の実施により、地域における保育保健の向上への寄与と地域の子育て支援ステーションとしての役割が期待されている。

本事業を円滑に運営するためには、国が定める設置基準を順守して認可を受け、助成金を受けること、職員の知識・技術の向上を図るほか、地域の保育所等、医師会、医療機関、保健所等との連携が大切であり、本シンポジウムでは以下の内容について話題提供させていただく。

1. 病児保育の実践、2. 病児保育の設置と運営、3. 保育料と助成金の仕組み、4. 現状の課題と今後の展望

「医療的ケア児支援法と千葉県医療的ケア児支援センターの役割」

石井 光子（千葉県千葉リハビリテーションセンター 愛育園 園長）

千葉リハビリテーションセンターの児童発達支援事業『えぶりキッズ』では、障害が重度であったり、医療的ケアが必要等の理由で、地域の通所施設に十分通えない就学前の障害児を対象とし、療育の機会を提供して成長発達を促し、家族の子育てを支援し家族同志の交流を深めることを目的に事業を行っている。さらに日常的に医療的ケアが必要な障害児が、地元の保育機関に通えるよう支援し、保育所や認定こども園に移行できた事例が9例存在する。

令和3年6月11日に公布された『医療的ケア児支援法』は「医療的ケア児者を地域で支え合いともに生きる社会をつくること」「家族の離職防止も含め個々の人生における選択肢を増やすこと」「自治体での実施体制整備と地域格差の解消」を目指している。具体的な支援施策の一つとして「保育所等における医療的ケア児への支援と、そのための看護師又は喀痰吸引等が可能な保育士の配置」をあげているが、当面の保育現場の課題は、看護師の配置と職員の研修機会と思われる。医療的ケア児への支援には、医療的側面だけでなく、障害特性の理解も必要であり、研修内容も個別性が高い。千葉県では令和4年度から医療的ケア児支援センターを設置し、支援機関に配置された看護師等への集合研修の他、医療的ケアを必要とする子どもとその家族への個別の相談支援体制の構築を目指している。

「一人ひとりに寄り添い育ちあう保育」

來住るみ子（社会福祉法人豊福祉会 みつわ台保育園 主任保育士）

新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、現代社会を取り巻く環境や、人とのコミュニケーション、関わりが大きく変わった。集団生活を送る保育園の子どもたちの環境も例外ではない。集団で生活する上での感染予防対策を常に考え、人と人との関わりをどのように行うか、職員のマスク必着は子どもの情緒的成長において、どのような影響があるのかなど、多くの課題を抱え試行錯誤している。しかし子どもたちはどんな環境の変化にも順応し、元気な子どもたちの笑い声で、保育園は包まれている。

みつわ台保育園は、開園当初（45年前）より個別配慮を必要とする子どもの保育を行っている。その年により個別配慮の必要となる子どもの成長は様々である。アレルギー児や、喘息、発達障害児等が、入園と共に同学年の子どもたち（30名）との集団生活が始まる。それに伴い、保護者や関係機関との連携や保育士の研修などを行う。子どもが主体となり、より良い育ちを支えていくため、専門的指導を受けながら配慮児の保育を行っている。配慮児が保育園のこどもたちと生活していく上で、子ども同士の関り、保護者の理解も必要となる。配慮児のより良い成長を促すうえで、子どもたちの関りの力は実に重要になっている。お互いを理解し、寄り添う。また、安心して生活できる環境作り、目に見えない配慮など。クラスの友だちとして、配慮児を囲んだ生活は特別ではなく、接することのできる子どもたちの力を大切に育てることで、配慮児やその家族にとって、保育園で生活する楽しさを味わえるような子育てのパートナーでありたい。子どもたちの幼少期からの経験が、支援児の安心した未来に繋がるよう、今、何を大切にすべきか、様々な角度から考える。

指定発言

「保育者養成校での医療保育教育」

原田 正平（聖徳大学）・鹿島 房子（聖徳大学短期大学部）

聖徳大学短期大学部保育科には、短期大学を卒業した人、またはそれと同等以上の学力があると認められた人が、それぞれの専門分野をさらに深めることを目的とした学びの場として「専攻科」が設けられており、その一つとして「医療保育専攻科」がある。入学資格としては、保育士養成施設等を卒業し、保育士資格を取得していることが条件となる。医療保育専攻科では、医療と看護の知識を持った「医療保育のプロ」を育成することを目的に、保育の専門知識と共に医学や看護の知識を身につけて医療保育の実践を学ぶことや、病院での実習や演習を通じて知識や技術をより高めることなどを学修内容として位置付けている。

聖徳大学教育学部児童学科では令和3年度より新しい試みとして、主に保育士養成コースの1、2年生を対象とした「医療保育入門」を新規開講した。その詳細も報告する。

コロナ下における保育と子どもの育ちを考えるⅠ —予備調査から明らかになったこと—

| | |
|---------|--|
| 企 画 | 課題研究委員会 |
| 趣旨説明・司会 | 佐々木 晃(鳴門教育大学附属幼稚園・課題研究委員会委員長) |
| 話 題 提 供 | 新井美保子(愛知教育大学・課題研究委員) 三宅 茂夫(神戸女子大学・課題研究委員) 花輪 充(東京家政大学・課題研究委員) 西山 修(岡山大学・課題研究委員) |
| 指 定 討 論 | 戸田 雅美(東京家政大学) |

企画主旨

佐々木 晃

第74回大会において、新型コロナウイルス下における保育実践の工夫と課題についての質的研究の成果を発表した。活発な議論の中では、日本保育学会としての社会貢献と情報発信を期待する趣旨の意見もいただいた。そこで、課題研究委員会では「コロナ下における保育と子どもの育ちに関する調査」を実施し、子どもや保育実践において将来に渡って懸念される問題や解決・改善方法、実践により定着してきた事項等について明らかにし、保育実践や運営の改善に生かす方略を提案しようと考えた。今回は予備調査結果についての報告を中心に議論を進める。調査結果は日本保育学会で共有し、各委員会と連携した取り組みや会員による研究の発展に繋がることを期待している。

話題提供

(1) 子ども達の育ちの様子と園の取組について

新井美保子

この調査は2021年9~10月、Googleフォームにて実施され、12都府県の保育者から回答を得た。有効回答は213園(国公立幼63、私立幼15、公立保13、私立保19、公立こ72、私立こ27)であった。

「(1) コロナ下の保育の中で気になるお子さんの様子」と「(2) コロナ下の保育の中で、先生方が今後の子どもの育ちで不安に思うこと」について、5領域を踏まえ各21項目設定し、4件法(①感じない、②あまり感じない、③感じる、④とても感じる)で回答を求めた。(1) 気になる様子で④が特に高かった項目は、「高齢者や地域の人々との交流の減少」(66.5%)、「小学校との交流や合同活動等の連携の困難さ」(57.1%)の他、「園外保育等が減り、自然体験や社会体験の機会が減少」(31.0%)、「みんなで歌ったり、踊ったり、楽器を使うなどの表現する機会の減少」(16.4%)、「マスクの着用で、咀嚼など乳幼児の食育が困難」(13.8%)と続いた。(2) 育ちで不安に思うことは、③④合計で「高齢者や地域の人々との交流機会や公共施設等の使用機会が減少し、社会性や公共性の発達が不安」(89.2%)、「小学校生活への適応が不安」(78.7%)、「会食の楽しさや望ましい食習慣の形成が不安」(85.9%)等の他、「微妙な表情が伝わりにくく言語感覚の発達が不安」(74.5%)、「直接体験の不足で優しさやたくましさ、確かな知識、感覚等が身に付いているか不安」(73.6%)、「発音や発声の発達が不安」(72.2%)等、言葉や感性、感覚の発達を懸念する回答が高くなった。これらに対し「子どもの遊びや活動について努力・工夫していること」は、「行事中心の保育構成から子ども主体の活動展開へと変え、好きな遊びやプロジェクト活動が増加」(82.9%)、「戸外で十分に体を動かす活動を意識的に導入」(80.2%)が高くなっている。

(2) 保護者対応や地域との関わりおよび行事等の状況について

三宅 茂夫

保護者との関わりについて、時間的変化は対面では短くなり、対面以外は変わらないとの回答が多かった。この違いは、対面での関わりの制限を間接的方法等の工夫により補完された結果と考えられる。内容的変化では、量的・質的な減少・低下と量的減少、質的高まりが同様の割合であったが、量的減少は顕著でそれを質的高まりで補おうとする取組の成果と考えられる。家庭訪問は中止・無期延期の割合が高かったが、時期や方法を変え直接訪問以外で実施されており、家庭との連携を大切に考えるの表れと捉えられる。保護者会・PTA 活動も同様な意図により、時期や方法を変えて実施されている。保護者会や懇談会なども分散・少人数、合理的な配慮により実施されている。しかしながら、保護者との連携では保護者間の関係づくりや詳細な情報共有の困難さなどの問題が生じた。地域との関わりの機会は大幅に減少したものの関係性は変わらないとの回答も多く、これまでの関係性が確かなものであったことの証と思われる。これらの関係性の維持は、登園時間や方法、人数などの配慮や園の感染対策・状況に関する積極的な情報発信、徹底した感染対策をした上での地域との関わりの継続などの園の努力と工夫の結果によるものと言える。行事等の実施では、保育の本分を大切に、可能な限り中止は避け、内容や方法、時期の変更、カリキュラムレベルで行事を見直し、精選して実施している。一つ一つの行事を丁寧に、従来の内容や方法で実施するもの、内容や方法、時期を変更して実施するもの、さらに実施しないものを選び分け、実施する（しない）ための検討を重ねてきたことが想像できる。特に多くの人が集う行事の実施については、多大な苦労が拝察される。

(3) 職員間の関わり・職員対応について

花輪 充

質問紙調査の自由記述から、①コロナ禍における職員間の関わりを対話、協同、業務遂行の視点より、②職員対応については、職員の交流、連携、モチベーション維持のための方略の視点より考察した。

①については、これまでにない業務量をこなしながらも、いかに他の職員とコラボレーションしていけばよいか、その一点に凝縮されていたように思う。マスクによる対話、ソーシャルディスタンスの常態化が求められる中、これらを達成するために負うべきストレスは計り知れない。そうした中、職員同士が話し合い、伝え合い、工夫し合い、協力し合うことを訴える「共に支え合い、協力し合っていく」といったスローガンを目にした。やりにくさや過ごしにくさを逆手にとって、保育内容等を見直す機会と捉え、話し合いや共有の機会をこれまで以上に行っていくとするその姿勢には、コロナ禍に負けず、最善の保育のあり方を追求しようとする業務に対する情熱と責任感を感じる。②については、職員間のコミュニケーションの機会の減少を、Web を活用しての連絡会、相談会、研修等を通して乗り越え、職員が孤立しないようにする配慮を感じた。内容にも親睦的な要素をもたせ、互いに必要なことを伝え合い、連携を重視したあり方が実践され始めているようだ。職員のモチベーションの維持・向上についても、「先が見通せないコロナ対応で気持ちが落ち込まないように、ICT 活用をはじめ新しい方略のチャレンジを取り上げ…」 「コロナ対応で気持ちが落ち込まないように、職員に積極的にコミュニケーションを図ることを心掛け、労いの言葉を掛けるように意識している」といった、組織としてのリフレッシュのあり方の模索が確実に始まっている。

(4) 子どもの育ちを保障するための ICT 等の活用、行政との連携

西山 修

コロナ下において、子どもの育ちを保障していくため、各園では ICT 等をどのように捉え、どのような取組がなされたのだろうか。コロナ前とコロナ下（現在）における、園での ICT 等の活用度、保育者の関心度を尋ねたところ、いずれも有意に上がっていた。活用度が上がった園に注目すると、「行事のオンライン配信により、子どもの育ちを保護者に伝える機会が増えた」「オンライン研修等への参加が増え保育者の資質向上に役立った」等の記述が見られた。コロナ対応を一つの契機と捉え、園の課題意識が反映された取組が見られる。一方、活用度に変

化がなかった園では、「環境が整っていない」「知識がない」「セキュリティの不安」等の記述が多かった。子どもの育ちを保障する上での ICT 等の活用に対する期待度は、現在、活用度が高い園ほど高かった。活用の仕方や必要性の捉えは様々であろうが、適時の支援が求められる。

コロナ下では情報が錯綜し、様々な判断に苦慮した園も多い。行政との連携（通知、情報提供などを含む）の重要性が改めて実感された。コロナ前とコロナ下（現在）における、行政との連携度を尋ねたところ、有意に連携度は上がったと捉えられていた。一方、行政からの情報・通知のわかり易さを尋ねたところ、変化は見られなかった。行政との連携度が低いと捉えていた園に注目すると、「保護者への説明が不十分で不安や不信感を招いた」「通知等が頻繁に送られてきて、対応の変更に疲弊した」「一方的な通知で、園との対話に欠けていた」等の記述が見られた。変異株の出現等、今後も状況が変わる度に、正確かつ迅速な情報の共有が求められる。危機対応の観点からも行政との情報共有や意思疎通は重要な課題と言える。

ドキュメンテーションが拓く探究的な学びの世界 ーイギリスとスウェーデンの実践からー

企画・司会 梶 瑞希子(聖徳大学大学院教職研究科)

話題提供 ルーズ・ローイング氏(Louise Lowings イギリス メイドリー保育学校校)

グニラ・ダールベリ氏(Gunilla Dahlberg スウェーデン スtockホルム大学名誉教授)

指定討論 浅井 幸子氏(東京大学)

企画趣旨

今、ドキュメンテーション、あるいはペダゴジカル・ドキュメンテーション(以下、教育ドキュメンテーションと記します)の名のもとに、保育における記録の意義やあり方の問い直しが世界各地で起こっています。いうまでもなくイタリアのレッジョ・エミリア市の就学前教育に衝撃を受け、啓発され、活性化した動きです。このシンポジウムでは、記録が探究的な学びを拓く可能性に着目し、イギリスとスウェーデン、そして日本を繋いで語り合います。イギリスからの登壇者ローイング氏は、サイトライン(Sightlines Initiative: レッジョ・チルドレンの英国窓口)の研修校ともなっているメイドリー保育学校の校長です。スウェーデンについてお話しいただくのは、同国の幼児教育改革に深くかかわり、著書“Beyond Quality”(1999)などを通じて国際的にも活発な発言を続けているダールベリ氏です。指定討論は、日本におけるレッジョ研究に詳しい浅井幸子氏にお願いしました。同時通訳付、ライブで行います。どうぞご参集ください。

話題提供

L. Lowings : Pedagogical Documentation in The Daily Life of a School

In this presentation we will use real examples of pedagogical documentation from a nursery school in the UK to share the value of documentation practices for teachers, children and parents. We are a researching school with a creative, ecological curriculum that promotes active participation from all protagonists in the community. We are inspired by constructivist theories and the pedagogical philosophy of the preschools in Reggio Emilia, in particular the ecological ideas of learning and communication proposed by Gregory Bateson.

Through the sharing of projects based on the local environment, using annotated digital images and video examples we will, (1) Show the way in which documentation increases the critical analysis and effectiveness of teachers in planning and evaluation, (2) Give examples of how these processes impact the meta cognitive development of children and adults, (3) Share strategies to integrate these processes into the school day.

Working with pedagogical documentation is to live and work with the known, the unknown and the unexpected, it is both a logical and creative act, and as such it brings vitality to our daily life in school.



ルイズ・ローイング氏：学校の日常と教育ドキュメンテーション

イギリスの保育学校における具体的な事例をお示しして、教師、子ども、親のためのドキュメンテーション実践の意義を皆さんと共有したいと思います。私たちの学校は、地域住民すべての積極的な参加を促す、創造的でエコロジカルなカリキュラムを持つ研究校です。構成主義理論とレッジョ・エミリア市の就学前学校の教育哲学、とりわけペイトソンによって提唱された学びとコミュニケーションのエコロジカルな考えに触発されています。

注釈付きのデジタル画像とビデオ映像を、地域環境に密着したプロジェクトを紹介します。それによって、(1)ドキュメンテーションが、計画や評価における教師の批判的分析力と実効性をどのように高めるのかを示し、(2)その全過程が子どもと大人のメタ認知能力の発達に与える影響を例示し、(3)それを学校の日常に組み入れるための方策を提示します。

教育的ドキュメンテーションを用いることは、既知のもの、未知のもの、予期しないものとともに生き、働くことです。それは論理的で創造的な行為であると同時に、学校での私たちの日常生活に活力をもたらしてもいるのです。

G. Dahlberg : Pedagogical documentation as key for change and transformation of early childhood education

In this presentation we will present our understanding of pedagogical documentation, both with inspiration from the pedagogical philosophy of the schools in Reggio Emilia, as well as in relation to theoretical and philosophical perspectives not so commonly used in the field of early childhood education, such as Michel Foucault, Felix Guattari and Gilles Deleuze (see further Dahlberg, Moss and Pence, 1999/2013 ; Dahlberg and Moss, 2005) . Specifically, three understandings of pedagogical documentation will be described. Pedagogical documentation as: (1) as a relational attitude and tool for following and challenging children's and teachers' learning processes; (2) as a tool for challenging dominant discourses; such as our image of the child and the pedagogue, knowledge and learning, and the environment; (3) as a creative and transformative force and as a tool for taking care of children's desire and vitality in different events. These understandings all share the idea of pedagogical documentation as a democratic practice, and as a basis for participation between children, pedagogues, parents, but also with politicians, researchers and other citizens. To construct conditions for such a practice we stress the importance of the 'atelier' and the 'atelierista' that Reggio Emilia has built into each preschool.



グニラ・ダールベリ氏：幼児教育変革の鍵としての教育ドキュメンテーション

私たちが教育ドキュメンテーションをどのように理解しているかについてお話します。それは、レッジョ・エミリア市の学校の教育哲学から得たインスピレーションと、フーコー、ガタリ、ドゥルーズらの、幼児教育ではあまり用いられない理論的、哲学的な視点を含んでいます。

具体的には、次の3通りの捉え方の説明をします。教育ドキュメンテーションは、(1)関わりつなごうとする姿勢であり道具である。それは子どもと教師の学習過程をたどったり、挑発したりする。(2)子どもや教育者のイメージ、知識や学習、環境といったことについての支配的な言説に対抗する手段である。(3)創造的で変革的な力であり、さまざまに生起する事象の中で子どもが示す欲求と活力に対応する手立てでもある。

いずれの捉え方も、教育ドキュメンテーションは民主的な実践であるという考えに基づいています。教育ドキュメンテーションは、子ども・教育者・親の間の参画基盤であるだけでなく、政治家や研究者、その他の市民が参画するための基盤でもありと考えているのです。そのような実践を生み出す条件として、レッジョ・エミリア市がすべての幼児学校に組み込んだ「アトリエ」と「アトリエリスタ」の重要性を強調したいと思います。

指定発言

浅井幸子氏：ドキュメンテーションの可能性に向けて

日本で「子どもたちの100の言葉」展が開催され、「ドキュメンテーション」という言葉が保育・幼児教育の世界で用いられるようになってから、約20年が過ぎました。この間、「ドキュメンテーション」をタイトルに持つ本や論文が刊行され、多くの園がドキュメンテーションに取り組むようになってきています。日本では、保育・幼児教育の規制緩和と市場化、アカウンタビリティのアイデアの導入、そして園と保護者の協働的な関係の衰退を背景として、ドキュメンテーションが、保護者向けの写真記録として普及してきました。すなわちドキュメンテーションが、子どもの育ちと学びを可視化し、保育者と保護者が再び協働的な関係を構成するためのものとして捉えられ、実践される傾向が強かったと言えるでしょう。このシンポジウムでは、イギリスとスウェーデンの実践に触発されながら、ドキュメンテーションのさらなる可能性を「探究的な学び」に探りたいと考えています。

4. 自主シンポジウム

自主シンポジウム A

5月14日(土) 13:00~14:00

J-A-1 統合保育からインクルーシブ保育へ —インクルーシブ保育における保護者支援及び保育者同士の支え合いについて—

第3会場

| | | |
|-------|-------|------------------|
| 企画；司会 | 小山 望 | 田園調布学園大学大学院心理学専攻 |
| 話題提供 | 加藤 和成 | 葛飾こどもの園幼稚園 |
| | 中鉢 路子 | 青山学院大学 |
| 指定討論 | 堀 智晴 | インクルーシブ（共生）教育研究所 |
| 話題提供 | 安井 知香 | 聖愛園あすなろ |
| | 松岡 佳子 | 愛の園ふちのべこども園 |

J-A-2 幼児教育と小学校教育の接続期を生きる子どもと保護者（5） ：年長児から小学校2年生までの縦断研究から見えてきたこと

第4会場

| | | |
|------------|-------|--------|
| 企画；司会；話題提供 | 滝口 圭子 | 金沢大学 |
| 話題提供 | 野口 隆子 | 東京家政大学 |
| | 田爪 宏二 | 京都教育大学 |
| 指定討論 | 富田 久枝 | 千葉大学 |

J-A-3 モンテッソーリ教育学における感覚教育

第5会場

| | | |
|---------------|-------|--------------------|
| 企画；話題提供 | 保田 恵莉 | 滋賀短期大学大学幼児教育保育学科教授 |
| 司会；コーディネーター | 松井 典子 | 滋賀短期大学幼児教育保育学科准教授 |
| 指定討論；コーディネーター | 松村 都子 | 滋賀短期大学幼児教育保育学科准教授 |

J-A-4 子どもの表現とドキュメンテーション —子どもは粘土という言葉はどう使うか？—

第6会場

| | | | |
|------|---|-------|----------|
| 企画 | 画 | 浅井 幸子 | 東京大学 |
| 話題提供 | | 白石 淑江 | 愛知淑徳大学 |
| 司会 | | 井上 知香 | 愛知淑徳大学 |
| 話題提供 | | 内田 祥子 | 高崎健康福祉大学 |
| | | 鰐澤 裕子 | 経堂保育園 |
| 指定討論 | | 石黒 広昭 | 立教大学 |
| | | 川上 りえ | |

J-A-5 障害と多文化を包括するインクルーシブ保育の可能性（3）
—保育者の常識を問い直す—

第7会場

| | | |
|-------------|---------|--------|
| 企 画；話 題 提 供 | 芦 澤 清 音 | 帝京大学 |
| 指 定 討 論 | 山 本 理 絵 | 愛知県立大学 |
| 話 題 提 供 | 三 山 岳 | 愛知県立大学 |
| | 五十嵐 元 子 | 帝京短期大学 |
| | 林 恵 | 帝京短期大学 |
| 指 定 討 論 | 浜 谷 直 人 | 東京都立大学 |
| 司 会 | 飯 野 雄 大 | 東京都立大学 |

J-A-6 支え、繋ぎ、育む：日本のインクルーシブな保育への展望（1）

第8会場

| | | |
|---------|---------|-------------------------|
| 企 画 司 会 | 久保山 茂 樹 | 国立特別支援教育総合研究所 |
| 企 画 提 供 | 吉 川 和 幸 | 国立特別支援教育総合研究所 |
| 話 題 提 供 | 加 藤 篤 彦 | (学) 武蔵野東学園 武蔵野東第一・第二幼稚園 |
| | 広 瀬 由 紀 | 植草学園大学 |
| | 若 月 芳 浩 | 玉川大学 |
| 指 定 討 論 | 堀 越 紀 香 | 国立教育政策研究所幼児教育研究センター |
| | 廣 島 慎 一 | 国立特別支援教育総合研究所 |

J-A-7 保育施設で働く心理職の役割とその課題
—発達と保育の架け橋としての専門家—

第9会場

| | | |
|---------|---------|--------------------|
| 企 画 司 会 | 請 川 滋 大 | 日本女子大学 |
| 話 題 提 供 | 宮 地 泰 枝 | 藤影幼稚園ふじかげこども園 |
| | 河 野 律 子 | 幼保連携型認定こども園くりの木幼稚園 |
| | 船 瀬 紗代子 | 幼保連携型認定こども園西須磨幼稚園 |
| 指 定 討 論 | 前 田 泰 弘 | 長野県立大学 |

J-A-8 人間・倉橋惣三の実像に迫る
—『倉橋惣三物語』に描かれた子ども時代にフォーカスして—

第10会場

| | | |
|---------|---------|----------|
| 企 画 司 会 | 浜 口 順 子 | お茶の水女子大学 |
| 指 定 討 論 | 宮 里 暁 美 | お茶の水女子大学 |
| | 久 保 健 太 | 関東学院大学 |
| 話 題 提 供 | 倉 橋 和 雄 | 倉橋惣三協会 |
| | 倉 橋 燿 子 | 作家 |
| | 倉 橋 麻 生 | 作家 |

| | | |
|-------------|---------|---------------|
| 企 画；話 題 提 供 | 藤 田 篤 | (一社) 日本知育玩具協会 |
| 話 題 提 供 | 島 袋 智 子 | (一社) 日本知育玩具協会 |
| | 中 村 桃 子 | (一社) 日本知育玩具協会 |
| 司 | 小 林 麻以子 | (一社) 日本知育玩具協会 |
| 企 | 小 川 直 茂 | 岐阜市立女子短期大学 |
| 話 題 提 供 | 杉 本 桂 子 | トーマスぽーや保育園 |

自主シンポジウム B

5月14日(土) 15:45～16:45

J-B-1 養成校における領域「表現」の展望 —上手でなければいけませんか、上手でなくてもいいですか—

第3会場

| | | |
|---|-----------------------|------------------|
| 企 画 ・ 司 会 話 題 提 供 | 今 川 恭 子 | 聖心女子大学 |
| | | 赤 津 裕 子 |
| 指 定 討 論 | 伊 原 小 百 合 | 共栄大学 |
| | | 木 村 充 子 |
| | 越 山 沙 千 子 | 桜美林大学 |
| | | 長 井 覚 子 |
| | 二 宮 紀 子 | 実践女子大学 |
| | | 山 本 直 樹 |
| | 杉 原 真 晃 | 白梅学園短期大学 |
| | | 十文字学園女子大学 |
| | | 長野県立大学 |
| | | 聖心女子大学 |

J-B-2 子どもの生活経験を広げ深める教材や環境Ⅵ —子どもの育ちを支える幼稚園と小学校の接続—

第4会場

| | | |
|---|-----------------------|-----------------------|
| 企 画 ・ 司 会 話 題 提 供 | 小 林 み ど り | 兵庫大学 |
| | | 三 宅 茂 夫 |
| 指 定 討 論 | 金 岩 俊 明 | 神戸女子大学 |
| | | 赤 木 公 子 |
| 司 話 題 提 供 | 奥 村 智 香 子 | 神戸女子大学 |
| | | 梅花女子大学 |
| | 矢 田 貴 美 代 | 伊丹市立荻野小学校 |
| | | 伊丹市教育委員会 |
| | 上 木 美 佳 | 宝塚市立仁川幼稚園 |
| | | 吉 田 ゆ か り |
| | | 宝塚市立安倉幼稚園 |
| | | |

J-B-3 共に育ち続けるとは～キリスト教保育を巡る考察

第5会場

| | | | |
|---|------------------|------------------|-------------------------|
| 企 画 ・ 司 会 話 題 提 供 | 渡 邊 哲 也 | 新島学園短期大学 | コミュニティ子ども学科 |
| | | 東 義 也 | 尚綱学院大学 総合人間科学部 子ども学科 |
| 指 定 討 論 | 海 野 展 由 | 常葉大学 | 健康プロデュース学部 こども健康学科 |
| | | 佐 藤 浩 代 | 東洋英和女学院大学 人間科学部 保育子ども学科 |
| 司 話 題 提 供 | 熊 田 凡 子 | 江戸川大学 | こどもコミュニケーション学科 |
| | | | |

J-B-4 ESD・SDGsの実践における保育者のあり方を問う

第6会場

| | | |
|------------|--------|---------------------------|
| 企画；司会；話題提供 | 青木 一 永 | (福)檸檬会 (レイモンド保育園) |
| 話題提供 | 松本 信 吾 | 岐阜聖徳学園大学 |
| | 駒井 哲 郎 | (福)宇治福祉園 (みんなのき Hana 保育園) |
| 指定討論 | 大方 美 香 | 大阪総合保育大学 |

J-B-5 Issues and Challenges on “On-Site” Professional Development —Ways of Implementing the system in Three ECEC Cultures—

第7会場

| | | | |
|----|---|-----------------|---|
| 企画 | 画 | 門 田 理 世 | 西南学院大学 |
| 司 | 会 | 椋 田 善 之 | 関西国際大学 |
| 話 | 題 | Shing Marn-Ling | University of Taipei |
| | 提 | Sum Chee Wah | Singapore University of Social Sciences |
| | 供 | 箕 輪 潤 子 | 武蔵野大学 |
| 指 | 定 | 秋 田 喜代美 | 学習院大学 |
| | 討 | | |
| | 論 | | |

J-B-6 ナラティブプラクティスとしての保育研究

第8会場

| | | |
|---------|---------|------------------|
| 企画；話題提供 | 横 山 草 介 | 東京都市大学 |
| 話題提供 | 水 津 幸 恵 | 三重大学 |
| | 永 倉 みゆき | 静岡県立大学短期大学部 |
| | 浅 見 佳 子 | 相模女子大学 |
| 指定討論 | やまだ ようこ | 立命館大学 OIC 総合研究機構 |

J-B-7 相模原市におけるすべての保育者に向けた研修の取り組み —相模原市幼児教育・保育ガイドラインの実現にむけた研修のあり方について—

第9会場

| | | |
|---------|---------|------------------|
| 企画；話題提供 | 神 尾 美香子 | 認定こども園モモ |
| 指定討論 | 岡 健 | 大妻女子大学 |
| 話題提供 | 園 田 巖 | 東京都市大学 |
| 司 | 朝比奈 太 郎 | むくどり風の丘こども園 |
| 話 | 遠 田 里 美 | 相模原市こども・若者未来局保育課 |
| 話 | 鈴 木 美 佳 | 相模原市こども・若者未来局保育課 |

J-B-8 保育士処遇向上のための公定価格の抜本的改善提案

第10会場

| | | |
|-----------|---------|-------------|
| 企 画 ・ 司 会 | 逆 井 直 紀 | 保育研究所 |
| 話 題 提 供 | 村 山 祐 一 | 保育研究所 |
| | 杉 山 隆 一 | 元佛教大学 |
| | 石 井 一由記 | 社会福祉法人新瑞福社会 |
| | 平 松 知 子 | 社会福祉法人熱田福社会 |

J-B-9 保育における“よさ”の未定義性

第11会場

| | | |
|-------------|---------|------------------|
| 企 画；話 題 提 供 | 林 浩 子 | 国立音楽大学 |
| 指 定 討 論 | 佐 伯 胖 | 公益社団法人信濃教育会教育研究所 |
| 司 会；話 題 提 供 | 岩 田 恵 子 | 玉川大学 |
| 話 題 提 供 | 宇田川 久美子 | 相模女子大学 |

自主シンポジウム C

5月15日（日） 10:00～11:00

J-C-1 現場における同僚性を考える（2） —記録（ポートフォリオ）の過程を記録してみる—

第3会場

| | | |
|------------|------|------------------|
| 企画；司会；話題提供 | 中澤智子 | お茶の水女子大学いずみナーサリー |
| 指定討論 | 菊地知子 | お茶の水女子大学いずみナーサリー |
| 話題提供 | 森藤郁子 | お茶の水女子大学いずみナーサリー |
| | 浦木智子 | お茶の水女子大学いずみナーサリー |
| 指定討論 | 刑部育子 | お茶の水女子大学 |

J-C-2 子どもの権利を保障する制度と保育実践 —子どもの意見表明権に着目して—

第4会場

| | | |
|---------|-------|----------|
| 企画；話題提供 | 谷口由希子 | 名古屋市立大学 |
| 話題提供 | 長瀬正子 | 佛教大学 |
| | 浅田明日香 | 岡崎女子短期大学 |
| | 藤井美保 | 京都市御室児童館 |

J-C-3 異文化の視点より養育・保育・教育における「見守る」を検討する

第5会場

| | | |
|---------|---------|-----------|
| 企画；話題提供 | ポーター 倫子 | ワシントン州立大学 |
| 話題提供 | 中坪 史典 | 広島大学 |
| 指定討論 | 内田 千春 | 東洋大学 |
| 話題提供 | 加山 美佐 | ミシシッピ大学 |
| 司会 | 加藤 望 | 愛知みずほ短期大学 |

J-C-4 乳幼児期における ESD/SDGs はどのように、何をめざすべきか ～世界 OMEP の ESD Rating Scale を手がかりに～

第6会場

| | | |
|-------|--------|-----------------|
| 企画・司会 | 名須川 知子 | 桃山学院教育大学 |
| 指定討論 | 藤井 修 | 社会福祉法人 京都教育センター |
| | 萩原 元昭 | フェリシア子ども短期大学 |
| 話題提供 | 藤崎 亜由子 | 兵庫教育大学 |
| | 亀山 秀郎 | 認定こども園七松幼稚園 |
| | 吉津 晶子 | 熊本学園大学 |
| | 山村 けい子 | 兵庫大学短期大学部 |

J-C-5 子どもの権利条約（CRC）を踏まえた保育・保育実践 —世界スタンダードとしての CRC と OMEP の役割—

第7会場

| | | |
|-------|--------|----------------------|
| 企画・司会 | 内藤知美 | 田園調布学園大学 |
| 話題提供 | 金田利子 | 静岡大学名誉教授 |
| | 瀧口優 | 白梅学園短期大学 |
| | 新島一彦 | 全国私立保育連盟・平成国際大学名誉教授 |
| 指定討論 | 伊志嶺美津子 | NPO 法人 子ども家庭リソースセンター |

J-C-6 保育士養成校における学外実習の代替えとしての学内実習の教育的効果と課題

第8会場

| | | |
|-------|-------|-----------------|
| 企画・司会 | 西川ひろ子 | 安田女子大学 |
| 話題提供 | 高橋実 | 福山市立大学 |
| | 上村加奈 | 広島文教大学 |
| | 湯地宏樹 | 鳴門教育大学 |
| | 伊藤一統 | 宇部フロンティア大学短期大学部 |
| | 岡本晴美 | 広島国際大学 |

J-C-7 施設実習用ループリックの開発

第9会場

| | | |
|------------|-------|-------------|
| 企画；司会；話題提供 | 尾崎司 | 東京家政大学短期大学部 |
| 話題提供 | 金城悟 | 東京家政大学 |
| | 松本なるみ | 東京家政大学 |
| | 大西明実 | 東京家政大学 |
| | 高畑祐子 | 東京家政大学 |

J-C-8 病児・病後児保育見える化 5 か年計画 最終年 未来へ

第10会場

| | | |
|-------|-------|------------------------------|
| 企画・司会 | 桜井ますみ | 帝京平成大学 |
| 話題提供 | 吉岡淑隆 | つむぎ子どもクリニック つむぎのおうち病児保育室 |
| | 松原徹 | 城東子どもクリニック ことりの森病児保育室 |
| | 小川由美 | NPO 法人アンジュ ママン 天使のゆりかご病後児保育室 |
| | 佐藤勇武 | 元佐藤皮膚科内科クリニック 病児保育施設プリムラ |

J-C-9

日本の多文化保育実践上の課題と展望
～韓国・オーストラリア・米国・フィンランドの動向からの示唆をふまえて

第11会場

| | | |
|------------|------|-------------|
| 企画；司会；話題提供 | 林悠子 | 神戸松蔭女子学院大学 |
| 指 定 討 論 | 石井章仁 | 大妻女子大学 |
| 話 題 提 供 | 韓在熙 | 四天王寺大学短期大学部 |
| | 松山有美 | 日本福祉大学 |
| | 三井真紀 | 九州ルーテル学院大学 |

自主シンポジウム D

5月15日（日） 12:45～13:45

J-D-1 「子どものアートの思考から子ども観・保育観を問い直す」 ～もう一度子ども観に着目して～

第3会場

| | | |
|------------|------|----------------------|
| 企画；司会；話題提供 | 植村朋弘 | 多摩美術大学 |
| 話題提供 | 森眞理 | 神戸親和女子大学発達教育学部児童教育学科 |
| | 郡司明子 | 群馬大学共同教育学部美術教育講座 |
| | 徳田憲生 | 社会福祉法人赤碕保育園 |
| 指定討論 | 津田純佳 | アトリエリスタ |

J-D-2 幼児の主体的な ICT 活用を考える

第4会場

| | | |
|------------|-------|---------------------------|
| 企画；司会；話題提供 | 堀田博史 | 園田学園女子大学 |
| 話題提供 | 新留明子 | 学校法人白石学園 認定こども園 辻ヶ丘幼稚園 |
| | 志方智恵子 | 学校法人七松学園 認定こども園 七松幼稚園 |
| | 勝見慶子 | 学校法人エンゼル学園 認定こども園 エンゼル幼稚園 |

J-D-3 「保育実践における状況性、関係性と子どもを育む活動展開」

第5会場

| | | |
|---------|-------|--------------|
| 企画・司会 | 関口はつ江 | 東京福祉大学大学院非常勤 |
| 企画；話題提供 | 吉川晴美 | 東京福祉大学大学院 |
| 話題提供 | 小原敏郎 | 共立女子大学 |
| | 義永睦子 | 武蔵野大学 |
| | 田尻さやか | 新渡戸文化短期大学 |
| 指定討論 | 戸田雅美 | 東京家政大学 |
| | 細川かおり | 千葉大学 |

J-D-4 保育者養成校と保育現場をつなぐ“こども理解プロジェクト MIYAGAKU” I ～子どもの姿から導かれたネットワーク～

第6会場

| | | |
|------|-------|--------------------|
| 企画 | 山下恵子 | 宮崎学園短期大学 |
| 話題提供 | 大坪祥子 | 宮崎学園短期大学 |
| | 守川美輪 | 宮崎国際大学 |
| 司会 | 小川美由紀 | 宮崎学園短期大学 |
| 話題提供 | 山下愛実 | 宮崎国際大学 |
| | 難波れい子 | 宮崎学園短期大学附属清武みどり幼稚園 |

J-D-5 子どもの主体的なあそび、学び、育ちを支える園庭・校庭・まちの環境について考える 5
～園庭のお山、斜面の環境やあそびの機会の重要性・可能性を再考する～

第7会場

| | | |
|-----------|---------|--------------------------|
| 企 画 ・ 司 会 | 仙 田 考 | 田園調布学園大学大学院・国際校庭園庭連合日本支部 |
| 企 画 ・ 司 会 | 渡 辺 英 則 | 港北幼稚園 |
| 話 題 提 供 | 内 野 彰 裕 | 東京ゆりかご幼稚園 |
| | 瀬 沼 幹 太 | 鳩の森愛の詩瀬谷保育園 |
| | 高 田 憲 治 | 広島女学院ゲーンズ幼稚園 |
| 指 定 討 論 | 天 野 珠 路 | 鶴見大学短期大学部保育科 |

J-D-6 特別に配慮を要する乳幼児に寄り添う絵本の選び方と読み聞かせ—これからの絵本と子どもとの関わり方とは

第8会場

| | | |
|------------------|---------|------------|
| 企画：話題提供：コーディネーター | 田 中 卓 也 | 静岡産業大学 |
| 話 題 提 供 | 小田桐 早 苗 | 川崎医療福祉大学 |
| | 小 川 知 晶 | 川崎医療福祉大学 |
| | 中 島 眞 吾 | 中部大学 |
| 指 定 討 論 | 谷 原 舞 | 大阪信愛学院短期大学 |
| 話 題 提 供 | 鳥 海 弘 子 | 秋草学園短期大学 |
| 司 会 | 加 藤 緑 | 清和大学短期大学部 |
| 話 題 提 供 | 野見山 直 子 | 彰栄保育福祉専門学校 |
| 指 定 討 論 | 小 島 千恵子 | 名古屋短期大学 |

J-D-7 乳幼児への語りかけについて考える
～保育や子育ての現状を通して

第9会場

| | | |
|-----------|---------|--------------|
| 企 画 ・ 司 会 | 児 玉 珠 美 | 愛知学泉短期大学 |
| 指 定 討 論 | 内 山 伊知郎 | 同志社大学 |
| 話 題 提 供 | 大 嶽 さと子 | 名古屋女子大学短期大学部 |
| | 太 田 美 鈴 | 愛知学泉短期大学 |
| | 金 山 英莉花 | 同志社大学大学院 |

J-D-8 数量への関心を育む環境
—数への自発的な焦点化に注目して—

第10会場

| | | |
|-----------|---------|---------|
| 企 画 ・ 司 会 | 杉 村 伸一郎 | 広島大学 |
| 話 題 提 供 | 山 名 裕 子 | 秋田大学 |
| | 榊 原 知 美 | 東京学芸大学 |
| | 脇 村 美 穂 | 広島大学大学院 |
| 指 定 討 論 | 浅 川 淳 司 | 金沢大学 |

J-D-9 トライアル・アンド・エラーに学ぶ 質の向上を目指す保育マネジメント
～試行錯誤のプロセスからとらえる保育の質向上の検討～

第11会場

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 企 | 画 | ・ | 司 | 会 | 井 | 上 | 眞 | 子 | 洗 |
| 指 | 定 | | 討 | 論 | 田 | 澤 | 里 | 喜 | 玉 |
| 話 | 題 | | 提 | 供 | 亀 | ヶ | 谷 | 元 | 宮 |
| | | | | | 西 | 井 | 宏 | 之 | 前 |
| | | | | | | | | | お |
| | | | | | | | | | ひ |
| | | | | | | | | | さ |
| | | | | | | | | | ま |
| | | | | | | | | | こ |
| | | | | | | | | | ど |
| | | | | | | | | | も |
| | | | | | | | | | ど |
| | | | | | | | | | も |
| | | | | | | | | | 園 |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | 白 |
| | | | | | | | | | 梅 |
| | | | | | | | | | 学 |
| | | | | | | | | | 園 |
| | | | | | | | | | 大 |
| | | | | | | | | | 学 |
| | | | | | | | | | 附 |
| | | | | | | | | | 属 |
| | | | | | | | | | 白 |
| | | | | | | | | | 梅 |
| | | | | | | | | | 幼 |
| | | | | | | | | | 稚 |
| | | | | | | | | | 園 |

自主シンポジウム E

5月15日(日) 15:30~16:30

J-E-1 インクルーシブ保育の今とこれから —「分けない」実践の難しさと可能性

第3会場

| | | |
|------------|---------|-------------|
| 企画；司会；話題提供 | 東 村 知 子 | 京都教育大学 |
| 企画；話題提供 | 鮫 島 輝 美 | 京都光華女子大学 |
| 話題提供 | 末 永 美紀子 | こどもコミュニティケア |
| | 北 山 千嘉子 | 京都教育大学附属幼稚園 |
| 指定討論 | 勝 浦 眞 仁 | 桜花学園大学 |

J-E-2 子ども主体の排泄自立を再考する —なぜおむつが外れない幼児が増えているのか？—

第4会場

| | | |
|-------|---------|------------|
| 企画・司会 | 大 石 茜 | 筑波大学大学院 |
| 話題提供 | 和 田 智 代 | おむつなし育児研究所 |
| | 水 野 佳津子 | 佼成育子園 |
| | 方 麗 蓉 | 山元町保育園 |

J-E-3 子どもの権利条約と保育実践とのつながりを考える —保育の生活場面から「子どもの権利」を再考する—

第5会場

| | | |
|------------|---------|-----------|
| 企画；司会；指定討論 | 矢 野 景 子 | 十文字学園女子大学 |
| 話題提供 | 中 嶋 一 郎 | 東京福祉大学 |
| | 舟 山 千 佳 | むくどりこども園 |
| | 和 田 裕美恵 | むくどりこども園 |

J-E-4 居宅訪問型保育の現状と課題

第6会場

| | | |
|------------|---------|-------------------------|
| 企画；司会；指定討論 | 参 納 初 夏 | (株)ファーストウォーク |
| | | 特定非営利活動法人日本ホームチャイルドケア協会 |
| 話題提供；指定討論 | 森 永 紗希子 | 認定NPO法人フローレンス |
| | 千 葉 琢 磨 | 特定非営利活動法人日本ホームチャイルドケア協会 |
| | 鈴 木 美里佳 | mormor 株式会社 |

J-E-5 インクルーシブ保育で繋がる人と人
—地域コミュニティ創出を目指した保育現場の取り組みから考える—

第7会場

| | | |
|-----------|---------|---------|
| 企 画 ・ 司 会 | 仲 本 美 央 | 白梅学園大学 |
| 指 定 討 論 | 市 川 奈緒子 | 白梅学園大学 |
| 話 題 提 供 | 鈴 木 眞 廣 | 和光保育園 |
| | 長 嶺 久美子 | 港川保育園 |
| | 福 本 光 夫 | 西那須野幼稚園 |

J-E-6 異文化交流の課題と展望
—認定こども園・大学における取り組みから見えてくること—

第8会場

| | | |
|------------|---------|-------------------------|
| 企画；司会；指定討論 | 福 田 きよみ | 桜美林大学 |
| 話 題 提 供 | 大 崎 志 保 | 認定こども園 正和幼稚園 |
| | 金 井 玲 奈 | 桜美林大学 |
| | 岩 本 貴 永 | 桜美林大学 草の根国際理解教育支援プロジェクト |

J-E-7 保育の場における子どもの育ちを支えるアナログゲーム

第9会場

| | | |
|-----------|---------|-----------|
| 企 画 ・ 司 会 | 善 本 眞 弓 | 東京成徳大学 |
| 指 定 討 論 | 多 田 千 尋 | 芸術と遊び創造協会 |
| 話 題 提 供 | 河 野 和 昭 | てんじん保育園 |
| | 近 藤 直 恵 | かしのき保育園 |

J-E-8 「保育事故」をなくすために（6）
—重大事故のリスク認知をどう活かすか—

第10会場

| | | |
|-------------|---------|----------------|
| 企 画；話 題 提 供 | 平 沼 博 将 | 大阪電気通信大学 |
| 話 題 提 供 | 高 井 由 佳 | 大阪産業大学 |
| | 服 部 敬 子 | 京都府立大学 |
| 指 定 討 論 | 森 山 幸 朗 | 社会福祉法人 あおぞら福祉会 |
| | 西 川 由紀子 | 京都華頂大学 |

J-E-9

保育の質をいかに実証的に研究するか
：「保育の質と子どもの発達に関する縦断的研究」から論点と可能性について
考える

第11会場

| | | |
|-------------|---------|----------------------|
| 企 画；話 題 提 供 | 野 澤 祥 子 | 東京大学 |
| 司 会 | 淀 川 裕 美 | 千葉大学 |
| 話 題 提 供 | 小 崎 恭 弘 | 大阪教育大学 |
| 指 定 討 論 | 遠 藤 利 彦 | 東京大学 |
| | 増 田 まゆみ | 湘南ケア アンド エデュケーション研究所 |

自主シンポジウムF

5月15日（日） 17:00～18:00

J-F-1 コロナ禍の乳幼児期における認知・非認知能力への影響について ～コロナ前と現在とを比べ、今後の保育について考える～

第3会場

| | | |
|---------|---------|-----------------------|
| 企画・司会 | 爾 寛 明 | 桜美林大学 |
| 指 定 討 論 | 藤 森 平 司 | 社会福祉法人省我会 新宿せいが子ども園 |
| 話 題 提 供 | 小 川 勝 利 | 社会福祉法人いるま福祉会 いるまこども園 |
| | 石 田 雅 一 | 社会福祉法人呉竹会 |
| | 高 野 真智子 | 社会福祉法人七生会 栄町保育園 |
| | 伊 藤 賢 | 社会福祉法人福翠会 第二いちご保育園 |
| | 小 嶋 泰 輔 | 社会福祉法人 菊清会 さくらしんまち保育園 |

J-F-2 保育者養成校で学ぶ学生の「学びの過程」と「心の揺れ動き」を探るⅡ —共同体として育ち合う具体的方策—

第4会場

| | | |
|----------|---------|---------|
| 企画；話題提供 | 高 村 真 希 | 北陸学院大学 |
| 司 会；話題提供 | 大 塚 紫 乃 | 江戸川大学 |
| 話 題 提 供 | 浅 香 聡 彦 | 大徳学園 |
| | 新 保 雄 希 | 泉の台幼稚園舎 |
| | 境 佑 二 | こども園わかば |

J-F-3 子どもを真ん中に保育を考える ～おもしろさを語りあうことから～

第5会場

| | | |
|---------|---------|---------------|
| 企画・司会 | 佐 藤 寛 子 | お茶の水女子大学附属幼稚園 |
| 話 題 提 供 | 伊 藤 綾 子 | お茶の水女子大学附属幼稚園 |
| | 佐々木 麻 美 | お茶の水女子大学附属幼稚園 |
| | 渡 邊 満 美 | お茶の水女子大学附属幼稚園 |
| 指 定 討 論 | 川 崎 徳 子 | 山口大学 |

J-F-4 保育実践を開く営みの検討 ～オンラインでの公開保育・保育記録・キャリアパスを手がかりに～

第6会場

| | | |
|-------------|---------|----------------------|
| 企画；指定討論 | 田 島 大 輔 | 和洋女子大学 |
| 指定討論 | 河 邊 貴 子 | 聖心女子大学 |
| | 菊 地 加奈子 | ワーク・イノベーション |
| 企画；コーディネーター | 相 馬 靖 明 | フリーランス |
| 話題提供 | 福 丸 直 宏 | 武岡幼稚園 |
| | 西 垣 浩 文 | 城崎こども園 |
| | 興 水 基 | 風の丘めぐみ保育園・阿久根めぐみこども園 |

J-F-5 音環境の改善と保育実践への影響 ～建築音響からの提案を中心に～

第7会場

| | | |
|------------|---------|----------------|
| 企画；司会；指定討論 | 由 田 新 | 千葉明德短期大学 |
| 話題提供 | 川 井 敬 二 | 熊本大学大学院先端科学研究部 |
| | 上 野 佳奈子 | 明治大学理工学部建築学科 |
| | 片 川 智 子 | 鶴見大学短期大学部 |

J-F-6 地球人として次世代へと繋げる 「やりとり」対話的コミュニケーションから生まれる SDGs アクションの芽生え ～地球の声に耳を澄まし傾ける～

第8会場

| | | | |
|-----------|---------|-----------|---------------|
| 企画・司会 | 呉 屋 奈都子 | 社会福祉法人恭生会 | 幼保連携型和光認定こども園 |
| 話題提供；指定討論 | 谷 野 敦 也 | 社会福祉法人恭生会 | 幼保連携型和光認定こども園 |
| | 篠 原 利 沙 | 社会福祉法人恭生会 | 幼保連携型和光認定こども園 |

J-F-7 「つくる・たべる・おしゃべりする」実践事例から 今後の保育の5領域の意味を問い直す

第9会場

| | | |
|------------|---------|---------------|
| 企画；司会；話題提供 | 堀 祥 子 | 名古屋女子大学 |
| 話題提供 | 水 野 友 有 | 中部学院大学 |
| | 東 山 幸 恵 | 愛知淑徳大学 |
| | 命 婦 恭 子 | 西南女学院大学短期大学部 |
| 指定討論 | 齋 藤 亜 矢 | 京都芸術大学文明哲学研究所 |

J-F-8乳幼児教育・保育施設におけるリーダーシップのあり方の検討（2）
現職保育者の育成体制を中心に

第10会場

| | | |
|-------------|---------|--------------------|
| 企 画；話 題 提 供 | 平 林 祥 | （学）見真学園 ひかり幼稚園 |
| 話 題 提 供 | 岡 部 祐 輝 | 幼稚園型認定こども園 高槻双葉幼稚園 |
| 指 定 討 論 | 瀧 川 光 治 | 大阪総合保育大学 |
| 司 会 | 中 橋 美 穂 | 大阪教育大学 |

5. 研究発表

□頭発表 A

K-A-1 保育内容 I（保育内容総論・遊び）など 1

5月14日（土） 14:30～15:15

第3会場

座長：勅 使 千 鶴・尾 野 明 美

| | | | |
|-----------|---|--|--|
| K-A-1-001 | 施設実習「日誌」の指導における DVD の活用について | 帝京科学大学 こども学科 帝京科学大学 こども学科 埼玉東萌短期大学 帝京科学大学 こども学科 | ○ 尾 野 明 美 大 海 由 佳 前 徳 明 子 小 湊 真 衣 |
| K-A-1-002 | 好きな遊びにおける社会的情動スキルの変容 ～5歳児の事例から～ | 文京学院大学ふじみ野幼稚園 目白大学 文京学院大学 | ○ 廣 沢 仁 美 西 田 希 梶 島 香 代 |
| K-A-1-003 | 運動場面における保育士の考える非認知能力 | 東京女子体育短期大学 共栄大学/日本体育大学大学院博士後期課程 比治山大学短期大学部 | ○ 堀 内 亮 輔 篠 原 俊 明 長 野 康 平 |
| K-A-1-004 | 子ども達から自発的に発生したごっこ遊びに着目して —非認知能力を獲得するプロセスの検討— | 中国短期大学 | ○ 清 水 憲 志 |
| K-A-1-005 | 「学びの探求」は子どもから保育者、保護者、地域の大人へ 1 ～「壊れた棚を直したい」みんなで学ぶ楽しさを通して～ | 社会福祉法人 仁慈保幼稚園 社会福祉法人 仁慈保幼稚園 社会福祉法人 仁慈保幼稚園 | ○ 奥 田 沙 耶 松 下 紫 帆 妹 尾 正 教 |
| K-A-1-006 | 園における持続可能性に関する取り組みの実態 | 園庭研究所 お茶の水女子大学 白梅学園大学 福井大学 | ○ 石 田 佳 織 辻 谷 真知子 宮 田 まり子 宮 本 雄 太 |

K-A-2 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現）など1

5月14日（土） 14:30～15:15

第4会場

座長：横 井 一 之・角 地 佳 子

| | | | |
|-----------|---|---------------------------------------|---------------------------------|
| K-A-2-007 | 弦の響きを捉える器楽活動について —子ども用ハープを一事例に— | 大阪芸術大学 聖和短期大学 安江製作所 | ○ 津 田 奈保子 山 内 信 子 安 江 宏 輔 |
| K-A-2-008 | Zoom 人形劇・ゼミ学生の取り組み —2年間の公演記録から— | 和光大学 | ○ 後 藤 紀 子 |
| K-A-2-009 | 幼児が材の大きさを選んでつくる二輪車の指導 —保育者が行う木育— | 宮崎国際大学 三名こども園 横町さくら保育園 | ○ 守 川 美 輪 間 所 あゆみ 谷 田 純 子 |
| K-A-2-010 | 領域「表現」における乳・幼児の歌唱指導をどう捉えるか —保育内容としての指導の捉え方の変遷を軸に考える— | 十文字学園女子大学 | ○ 二 宮 紀 子 |
| K-A-2-011 | 稲作の保育科学生への教育効果についての考察 —総合的で一体的な保育を意識して— | 東海学園大学 | ○ 横 井 一 之 |
| K-A-2-012 | 年長女児の人物描画における“首”の認識について | 大阪国際大学短期大学部 幼保連携型認定こども園 大阪国際大和田幼稚園 | ○ 角 地 佳 子 岸 川 里 美 |

K-A-3 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現）など5

5月14日（土） 14:30～15:07

第5会場

座長：高 間 準・古 川 由紀子

| | | | |
|-----------|---|----------------------|-----------|
| K-A-3-013 | 領域「環境」における国旗との親しみについての考察 —東京オリンピック開催による影響— | 学校法人アルウィン学園玉成保育専門学校 | ○ 加 納 拓 朗 |
| K-A-3-014 | 学生を魅了するクラシックのピアノ曲 —子どもたちの感性を育てるために— | (学) アルウィン学園 玉成保育専門学校 | ○ 藤 岡 郁 子 |
| K-A-3-015 | 幼児の外あそびによる身体活動量の変化 | 玉成保育専門学校 | ○ 廣 瀬 団 |
| K-A-3-016 | 社会情動的スキル（非認知能力）に係る領域「表現」での再帰的感性について | 小田原短期大学 | ○ 高 間 準 |

K-A-4 保育思想・保育理論・保育史など 1

5月14日(土) 14:30~15:15

第6会場

座長：湯 川 嘉津美・横 山 草 介

| | | | |
|-----------|--|-----------|-----------|
| K-A-4-017 | 東京女子高等師範学校における保姆養成 —保育実習科の検討を中心に— | 上智大学 | ○ 湯 川 嘉津美 |
| K-A-4-018 | ソフィア・アラベラ・アルウインの教育思想について ～幼稚園創設に際しての理念を中心に～ | 白梅学園短期大学 | ○ 瀧 田 貞 子 |
| K-A-4-019 | 「意味の行為」の視座から「ラーニングストーリー」を再考する | 東京都市大学 | ○ 横 山 草 介 |
| K-A-4-020 | 大正期キリスト教主義幼稚園の保育カリキュラム —上田保姆伝習所伝習生のプログラムノートを手がかりに— | 浦和大学 | ○ 野 尻 美 枝 |
| K-A-4-021 | 実践に見るリスニング・ペダゴジー —現代アメリカにおけるレジャ・インスパイアードの保育・幼児教育から— | 横浜国立大学 | ○ 橘 高 佳 恵 |
| K-A-4-022 | 愛育会における戦前農村部の子育て環境の改善 | 淑徳大学短期大学部 | ○ 相 楽 真樹子 |

K-A-5 発達論・心身の発達&教育計画・保育計画・指導計画・評価など

5月14日(土) 14:30~15:11

第7会場

座長：西 本 望・末 次 絵里子

| | | | |
|-----------|---------------------------------|-----------------------|----------------------|
| K-A-5-023 | 幼児の生活習慣と心理的発達 | 広島文化学園短期大学 | ○ 末 次 絵里子 |
| K-A-5-024 | 子どもとの対話から展開される保育 | 中部学院大学短期大学部 | ○ 倉 畑 萌 |
| K-A-5-025 | 乳児期の「自己肯定感」の研究(4) | 神戸教育短期大学 | ○ 今 津 香 |
| K-A-5-026 | つくってあそぶ活動内容を保育学生が体験する意義 | 洗足こども短期大学 星美学園短期大学 | ○ 伊 藤 路 香 大 井 美 緒 |
| K-A-5-027 | 省察と実践の関係性を考える⑤ ～省察を促す対話の在り方～ | 和洋女子大学 | ○ 田 島 大 輔 |

K-A-6 保育者の資質能力・保育者の専門性など 1

5月14日（土） 14:30～15:15

第8会場

座長：西 山 修・山 本 智 子

- | | | | |
|-----------|--|-------------------------------|----------------------|
| K-A-6-028 | 日韓における保育士キャリアアップ研修の内容 項目に関する研究：研修マニュアルおよびテキ ストの分析を中心に | 学習院大学 学習院大学 | ○ 崔 美 美 秋 田 喜代美 |
| K-A-6-029 | 保育における「見守る」ということの意味 —子どもと保育者の主体性を考える— | 玉川大学 大学院 | ○ 大豆生田 芽吹 |
| K-A-6-030 | 保育士・保育教諭志望学生のパネルシアターの 使用と製作にかかわる 新型コロナ感染症影響下 の意識と課題 —報告者による大学における教育実践に基づい た検討を中心に— | 荒川区子育て家庭子ども家庭総合センター 国立音楽大学 | ○ 浅 野 俊 幸 山 本 智 子 |
| K-A-6-031 | 幼児の科学の芽を培うための保育者の科学リテ ラシー育成の試み | 中村学園大学 | ○ 新 井 し の ぶ |
| K-A-6-032 | 大型積み木を使用した初期段階の遊び場面にお けるリスクマネジメント 2 | 大妻女子大学 大学院生 | ○ 板 東 愛理香 |
| K-A-6-033 | 医療的ケア児の就学前からのインクルーシブ教 育支援にかかわる検討 —東京都区部の居宅訪問型保育事業を中心とす る他児・地域交流制度に基づいて— | 国立音楽大学 | ○ 山 本 智 子 |

K-A-7 保育専門職の養成など 1

5月14日（土） 14:30～15:11

第9会場

座長：橋 本 勇 人・堀 田 正 央

- | | | | |
|-----------|---|--|--|
| K-A-7-034 | 大学院を出た新人保育者の自己形成 | 認定こども園 武庫愛の園幼稚園 | ○ 濱 名 潔 |
| K-A-7-035 | 基本的なマナーを習得した信頼される保育者を めざすために | 名古屋経営短期大学 | ○ 勝 田 み な |
| K-A-7-036 | こども庁に対応できるネウボラを起点とした保 育者養成の取り組み | 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 | ○ 橋 本 勇 人 中 川 智 之 森 本 寛 訓 岡 正 寛 子 松 本 優 作 荻 野 真知子 橋 本 彩 子 星 野 さくら |
| K-A-7-037 | 保育者養成向け「数理・データサイエンス・AI （リテラシーレベル）教育プログラム」の検討 | 帝京平成大学 | ○ 村 山 大 樹 |
| K-A-7-038 | 保育実習におけるストレス対処能力（SOC）と 実習評価の関連性の検討 | 埼玉学園大学 埼玉学園大学 | ○ 堀 田 正 央 坂 田 知 子 |

K-A-8 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など 1

5月14日（土） 14:30～15:11

第 10 会場

座長：渡 辺 英 則・中 谷 奈津子

| | | | |
|-----------|--|--|--|
| K-A-8-039 | 保育所等における生活困難家庭に対する組織的支援（3） —子どもに対する積極的支援— | 神戸大学大学院 大阪府立大学大学院 武庫川女子大学 大阪府立大学大学院 | ○ 中 谷 奈津子 木 曾 陽 子 鶴 宏 史 吉 田 直 哉 |
| K-A-8-040 | 発達障害児の親による地域活動 —就学前後での悩みの変化に着目して— | 青山学院大学 | ○ 中 鉢 路 子 |
| K-A-8-041 | 高齢女性を対象とした戦後改革期の子育て意識に関する研究 | 江戸川大学 聖徳大学 聖徳大学 | ○ 大 塚 紫 乃 齋 藤 有 奥 村 典 子 |
| K-A-8-042 | 保育所等における生活困難家庭に対する組織的支援（4） —子どもへの積極的支援に関する家庭との連携— | 大阪府立大学 神戸大学大学院 | ○ 木 曾 陽 子 中 谷 奈津子 |
| K-A-8-043 | 管理職による子ども家庭支援の実践に関するポリシー —認定こども園におけるインタビューを通して— | 大阪公立大学 神戸大学 大阪公立大学 武庫川女子大学 | ○ 吉 田 直 哉 中 谷 奈津子 木 曾 陽 子 鶴 宏 史 |

K-A-9 多文化教育・異文化理解・ジェンダーなど

5月14日（土） 14:30～15:11

第 11 会場

座長：梶 瑞 希 子・鈴 木 敦 子

| | | | |
|-----------|---|---|---|
| K-A-9-044 | イギリスの保育施設におけるコロナと音楽教育の実際と展開：アフターコロナの保育と子どもの活動 | 東北福祉大学 | ○ 鈴 木 敦 子 |
| K-A-9-045 | 保育者の「隠れたカリキュラム」と子どもの性役割の関連 —質問紙の作成及び因子構造 について— | 一般社団法人福祉心話会 宇都宮大学 宇都宮大学 | ○ 王 未 石 川 隆 行 石 川 由美子 |
| K-A-9-046 | 韓国・オーストラリア・米国・フィンランドにおける多文化保育の現状と課題 | 九州ルーテル学院大学 大妻女子大学 神戸松蔭女子学院大学 四天王寺大学短期大学部 日本福祉大学 | ○ 三 井 真 紀 石 井 章 仁 林 悠 子 韓 在 熙 松 山 有 美 |
| K-A-9-047 | ポーランド共和国における就学前教育のコア・カリキュラム | 金沢学院大学 | ○ 松 下 明日香 |
| K-A-9-048 | 保育者はカンボジアの幼児教育をどのように捉えるか？ —ゴミの様子に焦点を当てて— | あい・あい保育園 石原園 | ○ 澁 谷 拓 吾 |

□頭発表 B

K-B-1 保育内容 I（保育内容総論・遊び）など 2

5月14日（土） 17:15～17:56

第3会場

座長：鈴木 裕 子・佐々木 由美子

| | | | |
|-----------|---|--|---|
| K-B-1-049 | 非認知能力の「非」とは何か ：幼児期におけるからだを動かす遊び経験を対象として | 愛知教育大学 | ○ 鈴木 裕 子 |
| K-B-1-050 | 遊びの継続性に関する一考察 —2年間の保育記録を通して— | (宗)百合丘キリスト教会附属百合丘めぐみ幼稚園 東京未来大学 | ○ 大 谷 真理子 佐々木 由美子 |
| K-B-1-051 | 「学びの探究」は子どもから保育者、保護者、地域の大人へ 2 ～「手紙を送りたい」から始まった学びの物語～ | 社会福祉法人 仁慈保幼稚園 社会福祉法人 仁慈保幼稚園 社会福祉法人 仁慈保幼稚園 | ○ 松 下 紫 帆 奥 田 沙 耶 妹 尾 正 教 |
| K-B-1-053 | 保育園における STEAM 教育の実践的な研究 その 1（幼児期の STEAM 教育の考え方） | 東京学芸大学教職大学院 立正大学 明治学院大学 帝京平成大学 國學院大學 | ○ 原 口 る み 山 田 修 平 木 村 優 里 村 山 大 樹 中 野 圭 祐 |
| K-B-1-052 | 保育園における STEAM 教育の実践的な研究 その 2（ニチイ学館モデル園の実践報告） | 立正大学 東京学芸大学教職大学院 明治学院大学 帝京平成大学 國學院大學 | ○ 山 田 修 平 原 口 る み 木 村 優 里 村 山 大 樹 中 野 圭 祐 |

K-B-2 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現）など2

5月14日（土） 17:15～18:00

第4会場

座長：岡

健・二 宮 貴 之

| | | | |
|-----------|--|----------------------------|----------------------|
| K-B-2-054 | 聴く活動から身体表現へ創造性を育む授業実践の試み | 兵庫教育大学 | ○ 山 岸 多 恵 |
| K-B-2-055 | 粘土遊びの経験が幼児の表現行為に与える影響についての一考察 | 静岡県立大学短期大学部 | ○ 藤 田 雅 也 |
| K-B-2-056 | 幼児期における環境教育・ESDに関する一考察～領域環境を中心とした視点から～ | 東京学芸大学 | ○ 井 村 礼 恵 |
| K-B-2-057 | 子供の歌歌唱時における保育者のアプローチ—山のワルツを題材に— | 聖隷クリストファー大学 東京福祉大学短期大学部 | ○ 二 宮 貴 之 本 野 洋 子 |
| K-B-2-058 | 幼児を対象とした母指中手指節関節伸展角度の実態調査 | 静岡産業大学 ふたばこども園 | ○ 佐 藤 寛 子 吉 田 茂 |
| K-B-2-059 | 絵の具を使用した描画の表現過程 4歳児の描画活動から | 大阪国際大学短期大学部 大阪国際 大和田幼稚園 | ○ 渡 邊 詩 子 高 橋 依 子 |

K-B-3 保育思想・保育理論・保育史など2

5月14日（土） 17:15～18:04

第5会場

座長：汐 見 稔 幸・吉 田 昌 弘

| | | | |
|-----------|---|---|--|
| K-B-3-060 | 私立実験学校の「低学年教育」と幼小関係研究史—成城学園・玉川学園・和光学園の場合 | 和光大学（名誉教授） | ○ 太 田 素 子 |
| K-B-3-061 | 現代日本の保育学において倉橋惣三はいかに読まれてきたか：大豆生田啓友を中心に | 郡山女子大学短期大学部 大阪府立大学 | ○ 安 部 高太朗 吉 田 直 哉 |
| K-B-3-062 | 戦後、昭和の時代を創造したリーダーたちのライフストーリー2 ～久保田浩氏の保育づくり・人づくりに着目して～ | 秋草学園短期大学 白梅学園大学 白梅学園短期大学 前白梅学園大学 | ○ 松 永 静 子 村 上 博 文 源 証 香 汐 見 稔 幸 |
| K-B-3-063 | 幼稚園教育の転換の起点としての平成元年版「幼稚園教育要領」（1） —昭和39年版「幼稚園教育要領」との「総則」の内容の相違に着目して | 東京家政大学 東京家政大学 | ○ 鳥 居 希 安 戸 田 雅 美 |
| K-B-3-064 | イギリスにおける家庭的保育（チャイルドマインディング）の歴史的研究（2） —労働党政権（1997-2010）の民力活用— | 聖徳大学大学院 | ○ 梶 瑞希子 |
| K-B-3-065 | 倉橋惣三の児童保護論と保育論 | 淑徳大学教育学部 | ○ 吉 田 昌 弘 |
| K-B-3-066 | 戦後初期におけるキリスト教主義の保育者養成—授業者のノートに着目して— | （学）東洋英和女学院大学 | ○ 佐 藤 浩 代 |

K-B-4 乳児保育（0、1、2 歳児の保育）など

5月14日（土） 17:15～18:00

第6会場

座長：瀧 川 光 治・淀 川 裕 美

| | | | |
|-----------|---|--|---|
| K-B-4-067 | 乳児保育における「音遊び」の可能性 —養護的視点と音遊び— | 宮崎学園短期大学 宮崎学園短期大学 宮崎学園短期大学 宮崎学園短期大学 宮崎学園短期大学附属清武みどり幼稚園 | ○ 小 川 美由紀 中 武 亮 子 後 藤 祐 子 小 澤 拓 大 難 波 れい子 |
| K-B-4-068 | 乳児保育における「かみつき」への対応を考える —噛まれた子、噛んだ子の保護者への伝え方— | 京都華頂大学 | ○ 西 川 由紀子 |
| K-B-4-070 | 離乳期の食事場面での子どもの心地よさを支える要因に関する検討 1 —気分の変りがある S 児に焦点を当てて— | 島根大学 東京家政学院大学 和洋女子大学 千葉大学 東京家政学院大学 | ○ 伊 藤 優 會 退 友 美 池 谷 真梨子 淀 川 裕 美 酒 井 治 子 |
| K-B-4-069 | 離乳期の食事場面での子どもの心地よさを支える要因に関する検討 2 —こだわりの強い T 児に焦点をあてて— | 千葉大学 和洋女子大学 東京家政学院大学 島根大学 東京家政学院大学 | ○ 淀 川 裕 美 池 谷 真梨子 會 退 友 美 伊 藤 優 酒 井 治 子 |
| K-B-4-071 | 0、1 歳児の気づきについての一考察 —一緒に過ごす相手への表出— | 文京区立お茶の水女子大学こども園 | ○ 樋 口 陽 子 |
| K-B-4-072 | 2 歳児クラスの散歩場面における言葉による相互行為の検討 —言葉の繰り返しに着目して— | 聖ヶ丘教育福祉専門学校 | ○ 清 水 かおり |

K-B-5 保育者の資質能力・保育者の専門性など 2

5月14日（土） 17:15～18:00

第7会場

座長：河 邊 貴 子・副 島 里 美

- | | | | |
|-----------|---|--|---|
| K-B-5-073 | 保育者の実践力を高めるトレーニングのあり方② —即効型ディベートは保育者のどのような能力 育成に効果があるのか— | 静岡県立大学短期大学部 | ○ 副 島 里 美 |
| K-B-5-074 | 発達のみずきに対する保護者支援と保育士連 携を促進する保育アドバイザーの役割 —入園前後におけるグレイゾーンの子どもへの ていねいな関わりを通して— | 愛知江南短期大学 拓殖大学北海道短期大学 | ○ 笹 瀬 ひと美 永 津 利 衣 |
| K-B-5-075 | 幼稚園教諭の専門職意識を形成する要素の可視化 ～幼稚園教諭を対象としたインタビュー調査の質 的分析を通して～ | 大阪人間科学大学 | ○ フィールデン(野呂) 育未 |
| K-B-5-076 | 開園初年度における園長が感じる困り感 | 社会福祉法人檸檬会 レイモンド元住吉保育園 レイモンド中原保育園 埼玉純真短期大学 レイモンド下高井戸保育園 (福) 檸檬会 | ○ 鈴 木 玲 子 飯 田 明 花 島 慶 子 大 野 じゅん 山 下 貴 子 |
| K-B-5-077 | 保育園責任職のマネジメント業務について ～課題と期待～ | 横浜国立大学 横浜国立大学 慶應義塾大学 | ○ 田 村 和 子 井 上 果 子 山 田 一 子 |
| K-B-5-078 | 保育者は自らの視線についていかに語るか —保育者の実践的思考様式の検討— | 大妻女子大学大学院院生 | ○ 星 野 優 芽 |

K-B-6 保育専門職の養成など 2

5月14日（土） 17:15～17:56

第8会場

座長：上 田 敏 丈・三 原 詔 子

- | | | | |
|-----------|---|--|---|
| K-B-6-079 | 親子教室の実践と保育者としての学び | 福岡女子短期大学 | ○ 三 原 詔 子 |
| K-B-6-080 | 施設実習を想定した模擬保育の学びの検証 —ICT 活用による自己省察の視点の広がり— | 星美学園短期大学 星美学園短期大学 星美学園短期大学 星美学園短期大学 星美学園短期大学 星美学園短期大学 星美学園短期大学 | ○ 中 内 麻 美 遠 藤 愛 大 井 美 緒 打 越 みゆき 中 島 千恵子 井 出 麻里子 町 田 治 |
| K-B-6-081 | 教員養成課程における栽培活動の意義 —小学校での教育と保育領域「環境」— | 京都橘大学 | ○ 長 橋 聡 |
| K-B-6-082 | 保育者養成課程における栽培活動の意義 —「学生と育てる」ことの意味— | 京都橘大学 | ○ 青 木 美智子 |
| K-B-6-083 | 保育者に求められる ICT 活用指導力にかかわる —考察— | 千葉経済大学短期大学部 江戸川大学 | ○ 中 村 佐 里 波多野 和 彦 |

K-B-7 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など 2

5月14日（土） 17:15～17:56

第9会場

座長：田 中 敏 明・橋 本 翼

| | | | |
|-----------|---|--|---|
| K-B-7-084 | SNS を媒体とした匿名育児相談の実践報告（1） ～コロナ禍の養育者支援を考える～ | こども発達実践協議会 こども発達実践協議会 こども発達実践協議会 こども発達実践協議会 こども発達実践協議会 こども発達実践協議会 こども発達実践協議会 | ○ 伊 澤 幸 代 池 野 麻 矢 矢 弥 生 島 阿 部 美 波 植 松 加奈子 平 出 朝 子 河 合 清 美 |
| K-B-7-086 | A 市の地域子育て支援における保育所の取り組みに関する研究（1） —地域子育て支援拠点事業と利用者支援事業の連携から考える— | 名古屋市立大学 公立保育所 | ○ 谷 口 良 美 古 田 美津子 |
| K-B-7-085 | A 市の地域子育て支援における保育所の取り組みに関する研究（2） —従事する職員の専門性から考える— | 公立保育所 名古屋市立大学 | ○ 古 田 美津子 谷 口 良 美 |
| K-B-7-087 | 地方都市における保育所と養成校が協力して行う発達相談モデル構築の試み | 近畿大学九州短期大学 近畿大学九州短期大学 | ○ 橋 本 翼 原 口 喜 充 |
| K-B-7-088 | 児童虐待予防に繋がる保育所等の入所前後から始まる保護者との関わり | 田園調布学園大学大学院生 | ○ 渡 辺 令 子 |

K-B-8 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解）など 1

5月14日（土） 17:15～17:56

第10会場

座長：井 上 聖 子・重 安 智 子

| | | | |
|-----------|--|---|--|
| K-B-8-089 | 園児の興味を見とり支える ICT 活用の可能性：園児の自発的報告を記録するタブレット用アプリ実証実験 | 東京大学大学院教育学研究科 附属発達保育実践政策学センター 東京大学大学院教育学研究科 | ○ 西 田 季 里 遠 藤 利 彦 |
| K-B-8-090 | 子どもと保育者の日常を支える | （学）揖斐幼稚園 | ○ 佐 木 彩 水 |
| K-B-8-091 | 負の感情から正常化に移行する方法 —子どものエピソードから考察する— | 近自然的環境保育自然ランド・バンバン | ○ 寺 島 明 子 |
| K-B-8-092 | コロナ禍における保育について | 帝京学園短期大学 | ○ 井 上 聖 子 |
| K-B-8-093 | 配慮が必要な子が友の中で生き生きと生活するために（10） | （学）希望学園 （学）希望学園 （学）希望学園 （学）希望学園 （学）希望学園 （学）希望学園 （学）希望学園 植草学園大学 | ○ 小 林 さゆり 加 藤 和 成 安 東 善 子 鶴 巻 直 子 月 澤 未 来 小 野 愛 実 齋 藤 由 佳 広 瀬 由 紀 |

K-B-9 保育環境・保育教材 1

5月14日（土） 17:15～17:52

第11会場

座長：高 橋 弥 生・臼 井 奈 緒

| | | | |
|-----------|--|--|---|
| K-B-9-094 | 知育玩具を用いた保育環境改善プログラムの導入効果に関する調査・分析 | （一社）日本知育玩具協会 岐阜市立女子短期大学 | ○ 藤 田 篤 小 川 直 茂 |
| K-B-9-095 | 地域における子どもの経験についての保育者の認識：園内の情報共有に関する取り組みに着目して | お茶の水女子大学 学習院大学 園庭研究所 白梅学園大学 福井大学 | ○ 辻 谷 真知子 秋 田 喜代美 石 田 佳 織 宮 田 まり子 宮 本 雄 太 |
| K-B-9-096 | 琉球諸島に伝わるキジムナーに関するH君の探究活動の事例研究 | 社会福祉法人コスモストーリー保育園 共立女子大学 | ○ 宇都宮 貴 之 境 愛一郎 |
| K-B-9-097 | 保育現場における絵譜の活用を検討 —園長のインタビュー調査から— | 佛教大学 亀岡市立幼稚園 | ○ 臼 井 奈 緒 中 井 佐栄子 |

□頭発表 C

K-C-1 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現）など3

5月15日（日） 11:30～12:15

第3会場

座長：櫻 木 真智子・仙 田 考

| | | | |
|-----------|---|---|---------------------------------|
| K-C-1-098 | コロナ禍における保育者養成校でのおうちプラ ンター栽培の実践と課題 | 田園調布学園大学大学院 | ○ 仙 田 考 |
| K-C-1-099 | 遊びの中の伝え合いの特徴を踏まえた教師の援助 ―「イメージの提案」に関わる援助に着目して | 東京家政大学・非 | ○ 菅 野 良 美 |
| K-C-1-100 | 保育所の自由遊びで観察される基本的な動き | 比治山大学短期大学部 共栄大学教育学部 日本体育大学大学院後期博士課程 東京女子体育短期大学 | ○ 長 野 康 平 篠 原 俊 明 堀 内 亮 輔 |
| K-C-1-101 | 幼児における他者についての語り | 長崎大学大学院 長崎短期大学 | ○ 小田崎 結 衣 藤 野 正 和 |
| K-C-1-102 | 子どもと絵本との関わりに関する研究Ⅻ | なし | ○ 和 田 香 誉 |
| K-C-1-103 | 運動遊び時の活発性別にみた幼児の基本的な動 きの習得状況 | 共栄大学 教育学部 日本体育大学大学院博士後期課程 比治山大学 短期大学部 東京女子体育短期大学 | ○ 篠 原 俊 明 長 野 康 平 堀 内 亮 輔 |

K-C-2 保育制度・保育行財政など

5月15日（日） 11:30～12:19

第4会場

座長：中 野 晋・犬 塚 典 子

| | | | |
|-----------|--|------------------------|-------------------------------|
| K-C-2-104 | 保育無償化政策下での森のようちえんの動向と 新たな運営形態 | 東北文教大学 | ○ 下 村 一 彦 |
| K-C-2-105 | 令和元年10月25日の大雨により浸水被害を受 けた千葉県内の保育所・幼稚園の復旧過程 | 東京未来大学 | ○ 西 村 実 穂 |
| K-C-2-106 | 子育て支援の言説分析 ―政策文書を中心に― | 大阪国際大学短期大学部 | ○ 久保田 健一郎 |
| K-C-2-107 | 当事者の語りにみる保育所民営化の課題（3） ―保護者へのグループインタビュー分析から― | 千葉経済大学短期大学部 | ○ 小 倉 定 枝 |
| K-C-2-108 | 令和2年7月豪雨による熊本県内の保育所の浸 水被害と保育継続 | 徳島大学 徳島大学 東京未来大学 | ○ 中 野 晋 金 井 純 子 西 村 実 穂 |
| K-C-2-109 | カナダにおける就学前教育の発展 ―オンタリオ州全日制幼稚園政策の10年間― | 田園調布学園大学 | ○ 犬 塚 典 子 |
| K-C-2-110 | 幼児教育・保育の無償化議論における「人づく り」とは何か ―通時的変化に着目して | 川口短期大学 | ○ 清 水 美 紀 |

K-C-3 障害児保育・障害のある子どもを含む保育

5月15日(日) 11:30~12:11

第5会場

座長：石 川 由美子・大 橋 さつき

- | | | | |
|-----------|---|---------------|-----------|
| K-C-3-111 | 保育現場に求められる特別支援教育コーディネーターのあり方の検討 —先進的な取組を行う各自治体のコーディネーター制度を中心に— | 熊本学園大学大学院 | ○ 金 戸 憲 子 |
| K-C-3-112 | 非認知能力のための音楽療法 —子どもの「できた!」を育む楽しい音楽活動— | ホリスティック音楽療法の会 | ○ 柿 崎 次 子 |
| K-C-3-113 | ASD 傾向のある幼児にとっての集団遊びとしてのわらべうたの困難性 —観察事例からの検討— | 愛知県立大学大学院 | ○ 遠 座 未 菜 |
| K-C-3-114 | 「気になる子」が育つ姿を見取るための視座 —ムーブメント教育・療法における MEPA-R の評価を活用して— | 和光大学 | ○ 大 橋 さつき |
| K-C-3-115 | 共に生きるかたちとしての Storytime —絵本の読み合い遊びでの子どもの育ち— | 宇都宮大学 | ○ 石 川 由美子 |

K-C-4 児童文化・児童文化財など 1

5月15日(日) 11:30~12:11

第6会場

座長：大 沢 裕・榎 本 恵 理

- | | | | |
|-----------|--|------------------------------|----------------------|
| K-C-4-116 | コロナ禍における幼児のコミュニケーション力育成 (1) | びわこ学院大学短期大学部 びわこ学院大学短期大学部 | ○ 榎 本 恵 理 杉 本 栄 子 |
| K-C-4-117 | コロナ禍における幼児のコミュニケーション力育成 (2) | びわこ学院大学短期大学部 びわこ学院大学短期大学部 | ○ 杉 本 栄 子 榎 本 恵 理 |
| K-C-4-118 | 「児童文化」と「音楽」の授業内容と教授法の探究 —保育者養成校の学生を対象とした遊び経験や児童文化財知識に関する調査から— | 川口短期大学 川口短期大学 | ○ 佐々木 美 和 宮 澤 多英子 |
| K-C-4-119 | 戦時下のラジオ番組「少国民の時間」によるプロパガンダ —お茶の間に向けた働きかけの検討— | お茶の水女子大学 | ○ 中 村 美和子 |
| K-C-4-120 | 「音楽」と「児童文化」の授業内容と教授法の探究 —保育者養成校の学生を対象とした遊び経験や児童文化財知識に関する調査から— | 川口短期大学 川口短期大学 | ○ 宮 澤 多英子 佐々木 美 和 |

K-C-5 保育者の資質能力・保育者の専門性など 3

5月15日（日） 11:30～12:15

第7会場

座長：遠 藤 晶・久 米 裕紀子

| | | | |
|-----------|---|---|--|
| K-C-5-121 | 保育所における“眠育”浸透のプロセスに関する一考察 | アートチャイルドケア(株) アートチャイルドケア(株) アートチャイルドケア(株) | ○ 河 南 佐和呼 田 中 亜希子 高 橋 香 織 |
| K-C-5-122 | 保育の質を高め合う保育カンファレンスのあり方—「子どもと環境の相互作用」に着目して— | 山梨大学教育学部附属幼稚園 山梨大学 山梨大学教育学部附属幼稚園 山梨大学教育学部附属幼稚園 山梨大学教育学部附属幼稚園 山梨大学教育学部附属幼稚園 | ○ 野 田 多佳子 大 野 歩 古 屋 あゆみ 吉 岡 良 介 泉 紗 恵 荻 原 ひろみ |
| K-C-5-123 | ダンゴムシを題材とした自然科学との出会いにつながる遊びの実践とその可能性の検討 | 東京農業大学 東洋英和女学院大学 | ○ 森 元 真 理 山 下 久 美 |
| K-C-5-125 | 身体表現あそびにおける共感的相互作用を高める保育者の視点① ～劇あそびにつながる保育者の援助に着目して～ | 武庫川女子大学短期大学部 武庫川女子大学短期大学部 | ○ 久 米 裕紀子 遠 藤 晶 |
| K-C-5-124 | 身体表現あそびにおける共感的相互作用を高める保育者の視点② ～ウェアラブルアイカメラによる記録分析を通して～ | 武庫川女子大学 武庫川女子大学 | ○ 遠 藤 晶 久 米 裕紀子 |
| K-C-5-126 | 特別な支援を要する児童と教師との関係性の変容—幼児教育的視点の導入— | 京都教育大学 | ○ 阪 本 満 |

K-C-6 保育者の資質能力・保育者の専門性など 5

5月15日（日） 11:30～12:11

第8会場

座長：相 良 順 子・吉 田 龍 宏

| | | | |
|-----------|---|---------------------|----------------------|
| K-C-6-127 | 一時預かり事業の保育者に特有の実践知 ～クラス担当保育者の語りとのずれに着目して | 愛知みずほ短期大学 | ○ 加 藤 望 |
| K-C-6-128 | 同僚性が保育の質に与える影響 | 埼玉学園大学 埼玉学園大学 | ○ 齋 藤 め い 堀 田 正 央 |
| K-C-6-129 | 私立保育施設の経営論 ～園長の専門性に関する先行研究の検討①～ | 名古屋学院大学 | ○ 吉 田 龍 宏 |
| K-C-6-130 | ノルウェーにおける保育者のキャリアアップについての研究 | お茶の水女子大学大学院 | ○ 松 田 こずえ |
| K-C-6-131 | 保育職のプロフェッショナルアイデンティティに関する基礎的研究：東京都保育士会調査の自由記述分析を通して | 梅光学院大学 鶴見大学短期大学部 | ○ 田 中 ミ サ 川 池 智 子 |

K-C-7 保育専門職の養成など 3

5月15日（日） 11:30～12:07

第9会場

座長：波多野 和 彦・森 枝 美

- | | | | |
|-----------|---------------------------------------|----------------------|----------------------|
| K-C-7-132 | 幼保人材養成におけるデータリテラシ育成にかかわる取り組み | 江戸川大学 千葉経済大学短期大学部 | ○ 波多野 和 彦 中 村 佐 里 |
| K-C-7-133 | 保育者養成における子ども理解を深める ICT の活用について | 岩国短期大学 | ○ 富 田 雅 子 |
| K-C-7-134 | 保育実践力の向上を目指す授業プログラムに関する一考察 | 貞静学園短期大学 | ○ 竹 田 恵 |
| K-C-7-135 | 保育者養成課程における栽培活動の意義 —初等教育との接続をふまえて— | 京都橘大学 | ○ 森 枝 美 |

K-C-8 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など 3

5月15日（日） 11:30～12:11

第10会場

座長：佐々木 晃・吉 田 百加利

- | | | | |
|-----------|---|----------------------------|----------------------|
| K-C-8-136 | 「音楽胎教および生後1年間音楽活動をした子供の生後3年の発達」 | 東京福祉大学短期大学部 | ○ 本 野 洋 子 |
| K-C-8-137 | 父親の育児関与と親になることによる発達との関連 | 聖ヶ丘教育福祉専門学校 | ○ 密 城 吉 夫 |
| K-C-8-138 | 社会情勢にともなう民間の子育て支援活動のあり方について その2 | 帝京学園短期大学 NPO 法人あんふぁんねっと | ○ 吉 田 百加利 軽 部 妙 子 |
| K-C-8-139 | ベビーサイン育児が子どもとの関係性や育児不安に与える影響 (児が習得したベビーサインの数による比較から) | 一般社団法人日本ベビーサイン協会 岐阜女子大学 | ○ 吉 中 みちる 佐々木 恵 理 |
| K-C-8-140 | 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」への保護者の意識と期待 | 小田原短期大学通信サポートセンター(仙台) | ○ 島 貫 織 江 |

K-C-9 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解）など2

5月15日（日） 11:30～12:07

第11会場

座長：岩 田 遵 子・藪 中 征 代

| | | | |
|-----------|--|------------------------------|---------------------------------|
| K-C-9-141 | わたしってどんな人？ 等身大自画像を描くことで自己を探求する子どもたち | あかつき保育園 あかつき保育園 愛知淑徳大学 | ○ 内 山 沙 知 山 中 健 司 白 石 淑 江 |
| K-C-9-142 | 集団の絵本の読み聞かせ場面における2名の保育者の援助の変容 | 帝京大学 | ○ 呂 小 耘 |
| K-C-9-143 | 遊びを「見る」ことの実践知はどのように考えられるべきか —「遊び保育論」における子ども集団を見取るまなざし成立の条件— | 東京都市大学 | ○ 岩 田 遵 子 |
| K-C-9-144 | 幼稚園入園期における幼児の適応過程 | 東洋英和女学院大学 | ○ 廣 部 朋 美 |

口頭発表 D

K-D-1 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現）など 4

5月15日（日） 14:15～15:00

第3会場

座長：岸 本 満・大 貫 麻 美

| | | | |
|-----------|--|--|--|
| K-D-1-145 | 「ひとりで」から「みんなと」に変化するきっかけとプロセス —G 園に着目して— | 名古屋市立大学大学院 | ○ 瀬 古 杏 南 |
| K-D-1-146 | 表現者を育てる授業の実践的研究 —教師同士の協働を通して— | 文京学院大学 江戸川大学 | ○ 渡 辺 行 野 猶 原 和 子 |
| K-D-1-147 | 幼児を対象とした健康教育が育む生物に関する 気づき | 白百合女子大学 東京学芸大学教職大学院 白百合女子大学 日出学園幼稚園 | ○ 大 貫 麻 美 原 口 る み 石 沢 順 子 鍛 治 礼 子 |
| K-D-1-148 | 楽しく効果的な手洗いをするために —「てあらいにんじゃ」の制作— | 愛知江南短期大学 高田短期大学(非常勤講師) 名古屋学芸大学 | ○ 福 岡 恩 浦 中 浩 一 岸 本 満 |
| K-D-1-149 | 遊びから学ぶ「生きる力（非認知能力）」 | 草津市立草津第2 保育所 草津市立草津第2 保育所 | ○ 橘 麻 希 藤 井 くるみ |
| K-D-1-150 | 保育の場にふさわしい絵本の結末の検討 | 豊岡短期大学 | ○ 伊 藤 美和子 |

K-D-2 児童文化・児童文化財など 2

5月15日（日） 14:15～14:56

第4会場

座長：相 澤 京 子・葛 西 健 治

| | | | |
|-----------|---|--|--|
| K-D-2-151 | 地域文化遺産の利活用に向けた取り組み（2） —「いちかわ かぞえうた」の普及活動による効果— | 和洋女子大学 昭和学院短期大学 昭和学院短期大学 昭和学院短期大学 | ○ 中 村 光 絵 伊 坪 有紀子 宇 杉 美絵子 藤 原 明 子 |
| K-D-2-152 | 「ぶんぶくちやがま」の変遷 —1895～1945 年まで— | フェリシアこども短期大学 東京未来大学 | ○ 相 澤 京 子 佐々木 由美子 |
| K-D-2-153 | 中田喜直・小林純一の協働に関する研究（3） | こども教育宝仙大学 | ○ 葛 西 健 治 |
| K-D-2-154 | 絵本『ぐりとぐら』に関する一考察 | 甲南女子大学人間科学部 | ○ 高 原 佳 江 |
| K-D-2-155 | 絵本への没入と覚醒 —保育現場での子ども読者論の試み— | 名古屋柳城女子大学 名古屋柳城短期大学附属柳城幼稚園 | ○ 村 田 康 常 黒 岩 茉 由 |

K-D-3 保育者の資質能力・保育者の専門性など 4

5月15日（日） 14:15～14:56

第5会場

座長：大豆生田 啓友・川 崎 徳 子

| | | | |
|-----------|---|---|--------------------------|
| K-D-3-156 | 子どもの思いや考えから出発する保育実践（2） —保育観と保育実践に焦点を当てて— | 愛知淑徳大学 | ○ 水 野 佑規子 |
| K-D-3-157 | 身体的・状況的にその子を感じ取り、応えていく保育者の専門性 | 京都教育大学 | ○ 森 田 水加穂 |
| K-D-3-158 | 幼稚園教諭の中堅期以降に認識された困難と キャリア発達を支えた要因についての検討 —TEM から捉えたキャリア発達プロセスに着目して— | 東京家政大学 | ○ 小 島 好 美 |
| K-D-3-159 | 保育の研修と保育実践 —こども理解を体験的に考えることから— | 山口大学 | ○ 川 崎 徳 子 |
| K-D-3-160 | 保育ドキュメンテーションをいかした保育の振り返り その1 | 新渡戸文化短期大学 放送大学 貞静学園短期大学 府中めぐみ保育園 | ○ 小 山 玲 子 水 嶋 和 代 |

K-D-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など 6

5月15日（日） 14:15～14:56

第6会場

座長：中 坪 史 典・宮 嶋 晴 子

| | | | |
|-----------|--|--|---|
| K-D-4-161 | ドキュメンテーションを通して保育者の実践への意識は変わるのか？ —保育者へのインタビューを手がかりとして— | （福）かりゆし諸見保育園 （福）コスモストーリー保育園 琉球大学 | ○ 喜屋武 央 天 願 順 優 岡 花 祈一郎 |
| K-D-4-162 | 職員の同僚性・対等性の育みにおける写真活用の可能性 ～ドキュメンテーションの実践を通して考える～ | フレーベル西が丘みらい園 フレーベル西が丘みらい園 フレーベル西が丘みらい園 フレーベル西が丘みらい園 フレーベル西が丘みらい園 | ○ 原 島 有紀乃 片 平 祐 吉 田 清 夏 柴 田 直 美 汐 見 和 恵 |
| K-D-4-163 | 実践の可視化への挑戦② ～実践者にとっての可視化とは～ | フレーベル西が丘みらい園 和洋女子大学 | ○ 片 平 祐 田 島 大 輔 |
| K-D-4-164 | 保育者が「ネガティブ・ケイパビリティ」を志向する過程 —新任から中堅段階になる保育者の事例を通して— | 田園調布学園大学みらいこども園 | ○ 鶴 瀬 友 理 |
| K-D-4-165 | 幼児の生活体験活動とその姿をとらえる保育者の視点について —飯塚市庄内生活体験学校の事業参加アンケートの分析より— | 九州女子短期大学子ども健康学科 特定非営利活動法人 体験教育研究会ドングリ | ○ 宮 嶋 晴 子 正 平 辰 男 |

K-D-5 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など 4

5月15日（日） 14:15～15:00

第7会場

座長：小 谷 正 登・瀬々倉 玉 奈

- | | | | |
|-----------|---|---------------------|----------------------|
| K-D-5-166 | 子ども・子育て支援における支援者養成のあり方に関する検討 —京都女子大学親子支援ひろば「びっばらん」の展開— | 京都女子大学 京都女子大学 | ○ 瀬々倉 玉 奈 清 水 文 |
| K-D-5-167 | 園の教育理念と特色に関する保護者の理解 —園の教育理念に関するアンケート調査の分析から— | 学校法人潮見幼稚園 長崎短期大学 | ○ 安 部 祥 子 座間味 愛 理 |
| K-D-5-168 | 森をフィールドとした子育て支援について | 龍谷大学 大谷大学 | ○ 矢 野 永吏子 富 岡 量 秀 |
| K-D-5-169 | 地域子育て支援拠点における子育て支援の可能性について—考察 | 聖ヶ丘教育福祉専門学校 | ○ 蠣 崎 尚 美 |
| K-D-5-170 | 保育所に求められる保護者支援のあり方 | 社会福祉法人ダビデ会 昭島ナオミ保育園 | ○ 伊 能 恵 子 |
| K-D-5-171 | 乳幼児の生活実態に関する研究 —保護者対象の生活実態調査をもとに— | 関西学院大学 | ○ 小 谷 正 登 |

K-D-6 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解）など 3

5月15日（日） 14:15～14:52

第8会場

座長：磯 部 裕 子・宮 田 まり子

- | | | | |
|-----------|--|--|--|
| K-D-6-172 | 教育・保育活動の分析にみる保育者の役割に関する検討 —A 園の園だよりを事例として— | 岐阜大学大学院生 | ○ 西 垣 浩 康 |
| K-D-6-173 | 教育ドキュメンテーションによる、一人ひとりを大切にできる保育の再構築 ～「わたし」とのつながり～における育ちや学びの考察～ | (福) ChaCha Children & Co. ChaCha Children Daikanyama (福) ChaCha Children & Co. 東京大学大学院 愛知淑徳大学 | ○ 最 上 秀 樹 迫 田 圭 子 浅 井 幸 子 白 石 淑 江 |
| K-D-6-174 | 園庭活用に対する意識：園庭の実態と意識に関する質問紙調査から | 白梅学園大学 園庭研究所 | ○ 宮 田 まり子 石 田 佳 織 |
| K-D-6-175 | 「幼児期のパターン認識における教科教育との付き合い方に関して」 | 中国短期大学 | ○ 福 澤 惇 也 |

K-D-7 保育環境・保育教材 2

5月15日（日） 14:15～14:52

第9会場

座長：岩 倉 政 城・小 原 貴恵子

| | | | |
|-----------|--|--|---|
| K-D-7-176 | 保育におけるスヌーズレンを活用した保育空間演出の可能性 | 山村学園短期大学 山村学園短期大学 | ○ 巢 立 佳 宏 酒 井 誠 |
| K-D-7-177 | コロナ下でのマスク着用が保育現場に及ぼす影響に関する実態調査 ～表情露出面積と血中酸素濃度の視点から～ | 尚綱学院大学 尚綱学院大学 尚綱学院大学 北里大学 | ○ 岩 倉 政 城 東 義 也 小 松 秀 茂 荒 尾 貞 一 |
| K-D-7-178 | 0、1、2歳児の育ちを支える環境構成の工夫 ～人と物の環境から子どもの育ちを考える～ | フレーベル西が丘みらい園 フレーベル西が丘みらい園 フレーベル西が丘みらい園 フレーベル西が丘みらい園 フレーベル西が丘みらい園 | ○ 米 園 美 里 清 水 すみれ 柴 田 直 美 汐 見 和 恵 石 山 幸 恵 |
| K-D-7-179 | 秘密基地作りを通して保育の環境をデザインする | 山村学園短期大学 山村学園短期大学 | ○ 酒 井 誠 巢 立 佳 宏 |

K-D-8 幼保一体化・幼保小連携など&保育マネジメントなど

5月15日（日） 14:15～15:00

第10会場

座長：小 玉 亮 子・増 田 泉

| | | | |
|-----------|--|-------------------------------------|---------------------------------|
| K-D-8-180 | 家庭科教育の観点からの幼保小接続 ー遊びを通して育む生活力ー | 北海道文教大学 | ○ 長 岡 交 子 |
| K-D-8-181 | ラーニング・ストーリーを小学校教員はどのように捉えているのか | (福) コスモストーリー保育園 琉球大学 | ○ 天 願 順 優 岡 花 祈一郎 |
| K-D-8-182 | 幼小接続期における伝統的な言語文化の教材化 | 常葉大学 | ○ 増 田 泉 |
| K-D-8-183 | 「行事」の転換が保育者・組織の実態に及ぼす影響に関する質的研究 ～「劇遊び」から「チャレンジ活動」への転換を可能にした組織要因の分析～ | 宮前おひさまこども園 洗足こども短期大学 玉川大学教育学部 | ○ 亀ヶ谷 元 譲 井 上 真理子 田 澤 里 喜 |
| K-D-8-185 | 保育のグランドデザインを考える 1 | お茶の水女子大学 お茶の水女子大学 | ○ 小 玉 亮 子 宮 里 暁 美 |
| K-D-8-184 | 保育のグランドデザインを考える 2 | お茶の水女子大学附属幼稚園 お茶の水女子大学 | ○ 高 橋 陽 子 小 玉 亮 子 |

ポスター発表 A

P-A-1 保育環境・保育教材 1

5月14日（土） 14:00～14:30

ポスター会場

座長：湯 地 宏 樹・赤 間 健 一

| | | | |
|----------|---|---|--|
| P-A-1-01 | 幼児期の虫とのふれあいについての一考察Ⅵ | （学）関西学院幼稚園 | ○ 鑄 物 太 朗 |
| P-A-1-02 | 今だからこそ絵本 ～絵本の良さを再考する～ | （福）昭徳会 光徳保育園 | ○ 村 松 裕 平 |
| P-A-1-03 | 子どもが見出す・つくり出す保育環境 ―「想定外」の使い方―（10） | 甲南女子大学 | ○ 松 井 愛 奈 |
| P-A-1-04 | カブラ®の遊びが引き出す非認知能力 ―乳児から成人までの横断的研究の取り組み― | 実践女子大学 | ○ 井 口 眞 美 |
| P-A-1-05 | 保育環境論（50） ―新型コロナウイルス感染症禍中の運動会開催 と諸課題― | 大地教育研究所 | ○ 塩 川 寿 平 |
| P-A-1-06 | 保育における絵本環境のあり方 | （福）登豊会 うれしの認定こども園 東海学院大学短期大学部 幼児教育学科 | ○ 萩 野 道 世 杉 山 喜美恵 |
| P-A-1-07 | 保育における絵本環境のあり方 2 ―人的環境としての保育者の役割と資質向上― | 東海学院大学短期大学部 うれしの認定こども園 | ○ 杉 山 喜美恵 萩 野 道 世 |
| P-A-1-08 | 「お茶（茶道）の時間」を通した幼児期の「学び」 とは（2） ―茶道指導者への意識調査を通して― | 共立女子大学 京都女子大学 株式会社ミリエーム 平井互事務所 | ○ 白 川 佳 子 村 井 尚 子 吉 川 嘉 宏 平 井 互 |
| P-A-1-09 | 保育環境における「箱」の機能に関する研究 | 福岡女学院大学大学院 福岡女学院大学 | ○ 前 田 亜由美 赤 間 健 一 |
| P-A-1-10 | 産学連携 HARU 研究による保育園・幼稚園に おける教材遊び | 中村学園大学 | ○ 田 中 るみこ |
| P-A-1-11 | 2歳児保育室の壁面環境作りの意思―学生が選ぶ 壁面展示の一考 | 龍谷大学短期大学部 | ○ 北 村 眞佐美 |
| P-A-1-12 | 子ども向け電子玩具の評価に関する一考察 | 三条市立大学 | ○ 伴 浩 美 |
| P-A-1-13 | 身近な地域環境と関わる子どもの育ち ―おさんぽ活動を通して― | 西原町立坂田保育所 沖縄キリスト教短期大学 保育科 | ○ 岩 崎 良 亮 照 屋 建 太 |

P-A-2 乳児保育（0、1、2 歳児の保育）など

5月14日（土） 14:00～14:30

ポスター会場

座長：宮 崎

豊・岡 部 祐 子

| | | | |
|----------|---|--|--|
| P-A-2-01 | 小規模保育における保護者の満足感に関する研究 —家庭的できめ細かな保育に着目して— | 名古屋市立大学 愛知県立大学 あいち保育研究所 愛知淑徳大学 | ○ 羽 根 由美子 加 藤 信 子 島 田 郁 世 長 尾 美佐子 |
| P-A-2-02 | 保育者養成校の保育実習Ⅰ・Ⅱにおける乳児クラスでの体験の意義と課題 | （学）新潟こども医療専門学校 新潟青陵大学短期大学部 | ○ 原 田 明 子 上 原 由 美 |
| P-A-2-03 | 0 歳児の音探索に関する研究 | 帝京平成大学 | ○ 乙 部 はるひ |
| P-A-2-04 | 新任保育者の実践に見る担当制保育の意義と課題 —最初の6 か月をたどる語りの分析より— | 西南学院早緑子供の園 | ○ 土 田 珠 紀 |
| P-A-2-05 | 保育者の子どもとの関わりについての悩み —3 歳未満児保育と3 歳以上児保育における違いを探る— | 和洋女子大学 | ○ 小 山 朝 子 |
| P-A-2-06 | 0 歳児の食事場面における心地よさの育み —特定の保育者による関わりを通して— | 大阪総合保育大学大学院 東忠岡保育所 | ○ 川 中 義 博 |
| P-A-2-07 | コロナ禍における保育によって把握された育児担当制の特性 | 梅花女子大学 帝塚山大学 西南学院早緑子供の園 玉川学園大学非常勤講師 | ○ 鎮 朋 子 西 村 真 実 土 田 珠 紀 水枝谷 奈 央 |
| P-A-2-08 | わが国における乳児保育と育児担当制の歴史的検討 | 帝塚山大学 | ○ 西 村 真 実 |
| P-A-2-09 | 乳児の育ちを捉えた個別指導計画 | 大阪総合保育大学大学院 | ○ 新 井 明 子 |
| P-A-2-10 | 中国における三歳未満児の托育サービスに関する文献レビュー | 大阪総合保育大学 | ○ 于 丹 |
| P-A-2-11 | 0 歳児の試行錯誤を見出し育てる記録の検討① | （学）星置学園 札幌国際大学 | ○ 長谷川 景 子 岡 部 祐 子 |
| P-A-2-12 | ICT を用いた乳児の身体活動評価について | 九州産業大学 | ○ 田 中 沙 織 |
| P-A-2-13 | 0、1、2 歳の保育所における看護師の役割に対する認識についての検討 | 聖徳大学 大学院 教職研究科 聖徳大学 | ○ 永 田 幸 枝 腰 川 一 恵 |

P-A-3 発達論・心身の発達など 1

5月14日（土） 14:00～14:30

ポスター会場

座長：高 玉 和 子・塚 越 亜希子

| | | | |
|----------|---|---|--|
| P-A-3-01 | 幼児が好きな絵本とその年齢差と性差 | 甲南女子大学 | ○ 上 田 淑 子 |
| P-A-3-02 | 日常保育におけるわらべうたの実践 ① —人間関係に視点において— | 静岡福祉大学 子ども学部 子ども学科 静岡福祉大学 子ども学部 子ども学科 さくらママ | ○ 永 田 恵実子 二 木 秀 幸 加 藤 真智子 |
| P-A-3-03 | 日常保育におけるわらべうたの実践 ② —子どもの発達と保育者の選曲— | 静岡福祉大学 静岡福祉大学 さくらママ | ○ 二 木 秀 幸 永 田 恵実子 加 藤 真智子 |
| P-A-3-04 | 幼児の遊びの実態に関する要因と運動能力の関係 (1) 保育所での遊びの実態をもとに | 倉敷市立短期大学 | ○ 及 川 直 樹 |
| P-A-3-05 | 保育・教育現場からみえる新型コロナウイルス感染症の影響に関する調査研究 | 目白大学 目白大学 松蔭大学 松蔭大学 目白大学 横浜国立大学大学院 駒沢女子短期大学 横浜高等教育専門学校 東京家政学院大学 横須賀市立望洋小学校 | ○ 高 橋 弥 生 谷田貝 公 昭 大 沢 裕 野 川 智 子 大 崎 利紀子 室 矢 真 弓 高 玉 和 子 橋 本 樹 和 田 美 香 藤 野 淳 子 |
| P-A-3-06 | 棒回転課題の遂行からみた5歳児の自己身体認知 | 奈良女子大学 | ○ 成 瀬 九 美 |
| P-A-3-07 | 乳幼児運動分析技法の保育現場における活用に関する一考察 | 武庫川女子大学短期大学部幼児教育学科 | ○ 崎 山 ゆかり |
| P-A-3-08 | コロナ禍が子どもの発達や保護者支援にどのような影響を与えたか —保育者への調査結果から— | 平安女学院大学短期大学部 | ○ 清 水 里 美 |

P-A-4 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現）など1

5月14日（土） 14:00～14:30

ポスター会場

座長：尾 崎 公 彦・田 爪 宏 二

| | | | |
|----------|--|--------------------------------------|--|
| P-A-4-01 | 保育者養成校と保育現場との保育内容の連携Ⅱ―① ―ICTを活用した保育園との交流― | 聖徳大学大学院博士後期課程（通信教育課程） 社会福祉法人なぜの木会 | ○ 岸 久美子 関 口 由季子 |
| P-A-4-02 | コロナ禍で生じた新しい運動会への取り組み① ～発展的成果を見据えて～ | 守口東幼稚園まこと保育園 | ○ 布 施 仁 |
| P-A-4-03 | 保育者養成校と保育現場との保育内容の連携Ⅱ―② ―ICTを活用した保育者養成校との交流― | （福）なぜの木会 聖徳大学大学院生 | ○ 関 口 由季子 岸 久美子 |
| P-A-4-04 | 保育者養成校における特色ある演劇表現活動 ―公式 WEB・SNS の調査を通して― | 長野県立大学 | ○ 山 本 直 樹 |
| P-A-4-05 | 保育における田んぼビオトープの意義 ―環境教育の観点から― | 大阪大谷大学 登美丘西こども園 | ○ 井 上 美智子 大 仲 美智子 |
| P-A-4-06 | 五感と表現 ―感触を描く試み― | 神戸松蔭女子学院大学 | ○ 奥 美佐子 |
| P-A-4-07 | 「保育実習指導」における手あそびに関する学生 と保育士の相違点 ―「選んだ理由」と「導入部分のつけ方」について― | 愛知県立大学・非 社会福祉法人野並福祉会 | ○ 原 友 美 西 出 悦 子 |
| P-A-4-08 | イメージの実現に向けて歌う子ども：身体の調 整から見る歌唱行為の発達 | 東京藝術大学 共栄大学 白梅学園短期大学 聖心女子大学 | ○ 市 川 恵 伊 原 小百合 長 井 覚 子 今 川 恭 子 |
| P-A-4-09 | 木育教材を活用した地域連携 | 京都女子大学 京都教育大学 熊本学園大学 | ○ 矢 野 真 田 爪 宏 二 吉 津 晶 子 |
| P-A-4-10 | 造形表現活動の発展に伴う幼児の発話の変化に ついて | 神戸親和女子大学 神戸親和女子大学 | ○ 高 橋 一 夫 須 増 啓 之 |
| P-A-4-11 | 感触を楽しむ造形活動に関する実践的研究 | 日本福祉大学 至学館大学 | ○ 江 村 和 彦 西 村 志 磨 |
| P-A-4-12 | 5歳児の話し合い場面における保育者の援助（1） ―日常の保育全体の文脈性に着目して― | 聖心女子大学大学院生 | ○ 宮 下 愛 子 |
| P-A-4-13 | 5歳児における新聞紙を用いた身体表現遊びの手 立てについて | 福岡こども短期大学 福岡女学院大学 福岡こども短期大学 | ○ 瀧 信 子 高 原 和 子 矢 野 咲 子 |
| P-A-4-14 | オンライン授業における総合的表現の試み | 秋草学園短期大学 秋草学園短期大学 秋草学園短期大学 | ○ 長谷川 恭 子 塩 崎 みづほ 小 口 偉 |

P-A-5 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現）など2

5月14日（土） 14:00～14:30

ポスター会場

座長：砂 上 史 子・津 田 奈保子

| | | | |
|----------|--|--|---|
| P-A-5-01 | 素材の違いにおける主体的な身体表現遊び —素材（ダンボール・布・新聞紙）の比較— | 福岡女学院大学 福岡こども短期大学 福岡こども短期大学 | ○ 高 原 和 子 瀧 信 子 矢 野 咲 子 |
| P-A-5-02 | 保育実習Ⅰおよび教育実習Ⅰを通じた人間関係 に関する学びについての考察 —実習生が見た保育者と子どものかかわりの幼 保の比較を通して— | 愛国学園保育専門学校 帝京平成大学 静岡産業大学 | ○ 浅 見 優 哉 田 中 卓 也 |
| P-A-5-03 | 虫の命で遊ぶ園児たち（4）：保育者の理解と関 わり | 兵庫教育大学 | ○ 藤 崎 亜由子 |
| P-A-5-04 | 子ども・保育者と講師がオンラインでつながる 音楽・造形ワークショップの試み | 植草学園大学 | ○ 高 木 夏奈子 |
| P-A-5-05 | 4歳児の豊かなイメージ・表現を育む保育者の役 割 | 文京学院大学ふじみ野幼稚園 文京学院大学 | ○ 安 達 祐 亮 梶 島 香 代 |
| P-A-5-06 | 自然と関わる保育者のねらいと保育者の関わり | 兵庫教育大学大学院 兵庫教育大学大学院 | ○ 松 本 陽 子 藤 崎 亜由子 |
| P-A-5-07 | ハンガリーの音楽教育におけるサイレント・シ ンギングの特質 | 常磐会短期大学 | ○ 小 谷 朋 子 |
| P-A-5-08 | 幼稚園5歳児3学期における遊び集団の特質 ～幼児の相互作用に着目して～ | 奥州市立広瀬保育所 | ○ 高 橋 公 子 |
| P-A-5-09 | 幼児の歌唱における相対的な音程の変化 | 金城大学 金城大学 | ○ 枝 村 美 夏 岡 部 智 子 |
| P-A-5-10 | 幼児の生活習慣 —タオルから個人持ちハンカチ使用への移行— | 新潟青陵大学短期大学部 新潟青陵大学短期大学部 | ○ 梨 本 竜 子 山 城 いつき |
| P-A-5-11 | 5歳児の表現遊びの足部形態への影響 —わらべうた「あんたがたどこさ」を事例として— | 日本体育大学 大阪芸術大学 | ○ 松 本 真 咲 津 田 奈保子 |
| P-A-5-12 | 多重感情に対する幼児のオノマトペの選択 —園生活に即した物語と音声によるオノマトペの提示— | 千葉大学大学院生 千葉大学大学院生 千葉大学大学院生 千葉大学教育学部 千葉大学教育学部 | ○ 林 冬 実 清 水 響 香 兜 森 千 可 砂 上 史 子 中 道 圭 人 |
| P-A-5-13 | 幼児の投げる・受ける動作獲得に向けた取り組み —新聞ボールによる実践報告— | 北陸学院大学 北陸学院第一幼稚園 | ○ 田 邊 圭 子 坂 井 貴 子 |

P-A-6 保育者の資質能力・保育者の専門性など 1

5月14日（土） 14:00～14:30

ポスター会場

座長：神 長 美津子・鶴 宏 史

| | | | |
|----------|---|---|--|
| P-A-6-01 | アメリカにおける保育者の倫理的ジレンマの分析 —NAEYC の Young Children 掲載事例を手がかりに— | 十文字学園女子大学 武庫川女子大学 | ○ 亀 崎 美沙子 鶴 宏 史 |
| P-A-6-02 | コロナ禍におけるクラッピング活動の可能性 | 京都光華女子大学 京都光華女子大学 | ○ 田 中 慈 子 和 田 幸 子 |
| P-A-6-03 | 領域「表現」に関連する保育者の専門性の養成 —表現の芽ばえの理解と、表現が豊かに芽ばえる環境の構成という観点から— | 聖心女子大学 共栄大学 聖心女子大学 | ○ 杉 原 真 晃 伊 原 小百合 今 川 恭 子 |
| P-A-6-04 | 保育における描画アセスメントの有効性について：新任保育者を対象として | 静岡県立大学短期大学部 | ○ 小 林 佐知子 |
| P-A-6-05 | 離職保育者の復職に至る要件の検討 —復職保育者へのインタビューに基づいて— | 中部学院大学短期大学部 中部学院大学 修文大学短期大学部 鈴鹿大学短期大学 | ○ 杉 山 祐 子 植 松 勝 子 友 永 良 子 南 谷 悠 子 |
| P-A-6-06 | 園内研修会のあり方の検討（1） | 富山国際大学 | ○ 本 江 理 子 |
| P-A-6-07 | 園庭の大型遊具における幼児の挑戦的活動 3 —保育者の援助に関するインタビュー調査の分析— | 千葉大学教育学部附属幼稚園 | ○ 根 橋 杏 美 |
| P-A-6-08 | コロナ禍における保育現場の実態と対応への工夫 | 静岡産業大学 大地教育研究所 静岡産業大学 静岡産業大学 静岡産業大学 静岡産業大学 | ○ 漁 田 俊 子 塩 川 寿 平 酒 井 範 子 宮 地 由紀子 佐 藤 寛 子 山 田 悟 史 |
| P-A-6-09 | 総合表現の授業展開 ～オノマトペの表現を機軸として～ | 京都光華女子大学 京都光華女子大学 京都光華女子大学 京都光華女子大学 | ○ 和 田 幸 子 智 原 江 美 下 口 美 帆 田 中 慈 子 |
| P-A-6-10 | コロナ禍での歌唱指導の一考察 | 東京家政大学 和光大学 | ○ 古 川 和 代 |
| P-A-6-11 | 保育者と子どもの関係性を可視的に描く意義とは | 桜花学園大学 | ○ 上 村 晶 |
| P-A-6-12 | 保育職に意欲を持ち継続する要因を探る ～早期離職に関する先行研究の概観～ | 名古屋経済大学人間生活学部 名古屋学芸大学 名古屋学芸大学 | ○ 堀 美 鈴 渡 辺 桜 林 麗 子 |
| P-A-6-13 | 即興性を視点にした保育者のタイプ類型の一考察 | 岐阜聖徳学園大学 | ○ 西 川 正 晃 |

P-A-7 保育者の資質能力・保育者の専門性など 2

5月14日（土） 14:00～14:30

ポスター会場

座長：三宅茂夫・駒久美子

| | | | |
|----------|---|----------------------------|----------------------|
| P-A-7-01 | 保育者に必要とされる人間関係の力とは何か。 ～実践者と学生の意識の違いから考える～ | 神戸海星女子学院大学 | ○ 成 木 智 子 |
| P-A-7-02 | アフターコロナ時代における保育士のニュー ノーマルな取り組みの一考察 —保育士の語りから— | 福岡県立大学 | ○ 伊 勢 慎 |
| P-A-7-03 | 豊かな言葉表現を育む取り組みⅡ | 愛知文教女子短期大学 保育士 | ○ 真 下 あさみ 真 下 恵 実 |
| P-A-7-04 | 保育者が“モチーフ”をもとに保育実践を紡ぐ 過程の考察（2） | 京都教育大学大学院生 京都市立中京もえぎ幼稚園 | ○ 中 岡 雄 介 |
| P-A-7-05 | 保育者のバーンアウトと生活リズムの関係 —コロナ禍における保育の状況に着目して— | 高知大学 | ○ 川 俣 美砂子 |
| P-A-7-06 | 保育者養成課程における表現教育に関する研究 （12） | 國學院大學 千葉大学 | ○ 島 田 由紀子 駒 久美子 |
| P-A-7-07 | クラスに「気になる子ども」がいる保育者への 支援 | 昭和女子大学現代教育研究所 昭和女子大学 | ○ 鈴 木 祥 子 石 井 正 子 |
| P-A-7-08 | 保育学生による保育者の褒め場面からの気づき に関する研究 —実習後におけるエピソード記録での振り返り をもとに— | 金沢学院短期大学 高松大学 | ○ 日 光 恵 利 川 口 めぐみ |
| P-A-7-09 | 音楽関連分野の保育者研修と相談に関する一考察 —保育現場での鍵盤楽器による音楽研修を通して— | びわこ学院大学短期大学部 | ○ 竹 下 則 子 |
| P-A-7-10 | 楽器遊びの可能性を広げる保育者の関わり方 | 京都教育大学大学院 京都教育大学 | ○ 川 邊 音 生 平 井 恭 子 |
| P-A-7-11 | 社会の変化に対応した、オペレッタ創作による 非認知能力の獲得度評価ツールの開発について | 慈恵福祉保育専門学校 豊橋創造大学 | ○ 佐々木 友 里 葛 谷 潔 昭 |
| P-A-7-12 | 保育者養成短期大学生の保護者対応力における 学年による違い | 愛知文教女子短期大学 | ○ 祢 宜 佐統美 |
| P-A-7-13 | 幼稚園教諭における情報収集の困り感に着目して —インタビューを通して見えてきた多様性・同 僚性とそれらを支える園文化— | 福岡県立大学 福岡県立大学 | ○ 井 手 裕 子 伊 勢 慎 |

P-A-8 保育専門職の養成など 1

5月14日（土） 14:00～14:30

ポスター会場

座長：名須川 知 子・山 田 悠 莉

| | | | |
|----------|---|---------------------------------------|----------------------|
| P-A-8-01 | スウェーデンの持続可能性のための教育方法に関する一考察 —ストックホルム大学での受講経験を通じて— | 元・愛知淑徳大学院生 教育学研究科 修士課程 | ○ 杉 山 和 |
| P-A-8-02 | 造形・音楽・身体表現を連携させた保育内容「表現」の指導法に関する研究 —コロナ禍での表現の工夫について— | 岡崎女子短期大学 岡崎女子短期大学 | ○ 滝 沢 ほだか 山 田 悠 莉 |
| P-A-8-03 | 保育系学生の専門性習得に影響する要因 ～学生の人格的特性を中心に～ | 船橋情報ビジネス専門学校 | ○ 生 越 雅 志 |
| P-A-8-04 | 「創造的音楽表現」の授業分析 —オルフの教育理念に基づく実践— | 愛知学泉短期大学 名古屋経営短期大学 | ○ 本 多 峰 和 加 藤 希 央 |
| P-A-8-05 | 「自分を知る」から始める保育者育成のススメ | (福) 福翠会 第二いちご保育園 ㈱グローバルキッズ 蒲田第二保育園 | ○ 岩 井 英 之 西 出 涼 太 |
| P-A-8-06 | 保育士養成校における ICT 活用の在り方 (2) —学生が考える保育現場でいかに ICT への意識— | 育英大学 育英短期大学 | ○ 望 月 文 代 大 屋 陽 祐 |
| P-A-8-07 | 保育者養成における領域「表現」の学習内容の検討 —身体表現・造形表現・音楽表現の共通性に着目して— | 共立女子大学 千葉明德短期大学 | ○ 村 上 康 子 田 中 葵 |
| P-A-8-08 | 保育者を目指す学生が教育実習で学んだ実践力について —5分のできる遊びからの考察— | 愛国学園保育専門学校 | ○ 森 川 みゆき |
| P-A-8-09 | 保育養成課程における保健教育に関する一考 | 埼玉純真短期大学 埼玉純真短期大学 | ○ 三 友 玲 子 花 島 慶 子 |
| P-A-8-11 | 保育実践における省察過程に関する研究Ⅰ —日本保育学会における発表に関する動向— | 大阪青山大学 大阪青山大学 | ○ 林 富公子 徳 留 由 貴 |
| P-A-8-10 | 保育実践における省察過程に関する研究Ⅱ —PDCA サイクルとの関連について— | 大阪青山大学 大阪青山大学 | ○ 徳 留 由 貴 林 富公子 |
| P-A-8-12 | 保育者養成課程における音楽表現教育の授業デザイン (2) | 川村学園女子大学教育学部幼児教育学科 | ○ 古 山 律 子 |

P-A-9 保育専門職の養成など 2

5月14日（土） 14:00～14:30

ポスター会場

座長：守

巧・脇

信 明

| | | | |
|----------|--|--|--|
| P-A-9-01 | 保育実習 I での学生の学び：事後指導における自己評価シートの分析 | 植草学園大学 植草学園大学 植草学園大学 | ○ 北 田 沙也加 金 子 功 一 實 川 慎 子 |
| P-A-9-02 | 保育職としてのキャリア形成への見通しに対する意識の変化について (2) —養成校間の比較調査を通して— | 中村学園大学 教育学研究科 | ○ 久 行 唯 之 |
| P-A-9-03 | 保育士養成校における ICT 活用の在り方 (1) —学生が考える保育の学びを深める ICT への意識— | 育英短期大学 育英大学 | ○ 大 屋 陽 祐 望 月 文 代 |
| P-A-9-04 | 保育者養成における実習日誌に関する考察Ⅱ —保育現場へのヒアリング調査から見えてきたもの— | 別府大学短期大学部 長崎大学 精華女子短期大学 南九州大学 熊本学園大学 西南女学院大学短期大学部 西南女学院大学短期大学部 南九州大学 | ○ 島 田 知 和 脇 信 明 古 林 ゆ り 金 子 幸 上 原 真 幸 阿 南 寿美子 末 寄 雅 美 藤 本 朋 美 |
| P-A-9-05 | 保育者養成における保育・教育制度の教授法についての一考察 | 名古屋短期大学 | ○ 小 柳 雅 子 |
| P-A-9-06 | 保育者養成におけるブレンディドラーニングを用いた保護者との関係構築力の育成を目指した授業実践について | 仙台白百合女子大学 共立女子大学 田園調布学園大学 | ○ 三 浦 主 博 小 原 敏 郎 恒 川 丹 |
| P-A-9-07 | 子ども主体の保育実習指導案作成に関する授業方法 (3) —音楽に関する保育指導案の問題点— | 金沢星稜大学 金沢星稜大学 | ○ 三 好 伸 子 連 桃季恵 |
| P-A-9-08 | 子ども主体の保育実習指導案作成に関する授業方法 (4) —音楽に関する学生の保育指導案からの考察— | 金沢星稜大学 金沢星稜大学 | ○ 連 桃季恵 三 好 伸 子 |
| P-A-9-09 | ベテラン保育者のフルーツバスケットをテーマにした実践事例 —保育者研修における簡易型マイクロティーチングの有効性— | 文京学院大学 | ○ 金 子 智栄子 |
| P-A-9-10 | 実践的な演習系授業（グループ実習）においての社会人基礎力の育ちの一考察 | 札幌大谷大学短期大学部 札幌大谷大学附属幼稚園 札幌大谷大学短期大学部 | ○ 森 川 由 衣 清 和 友 美 |
| P-A-9-11 | 実習園と協働した写真活用による計画立案の指導 —検討過程の可視化にむけて— | 東洋英和女学院大学 東洋英和女学院大学 社会福祉法人 湘南福祉センター 明石町保育園 社会福祉法人 湘南福祉センター 明石町保育園 社会福祉法人 湘南福祉センター 平塚保育園 社会福祉法人 湘南福祉センター 平塚保育園 | ○ 星 順 子 廣 部 朋 美 落 合 美 穂 河 端 敬 法 上 田 理 恵 作 田 千 夏 |
| P-A-9-12 | 保育者養成校におけるリスクマネジメント教育 —実習指導の視点から— | 小田原短期大学 | ○ 木 戸 直 美 |

P-A-10 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など 1

5月14日（土） 14:00～14:30

ポスター会場

座長：大 澤 洋 美・水 野 智 美

| | | | |
|-----------|---|--|---------------------------------|
| P-A-10-01 | コロナ禍における大学生による地域子育て支援活動に関する学び ーリモート模擬保育を通してー | 高知大学 高知大学 高知大学 | ○ 玉 瀬 友 美 三ッ石 行 宏 川 俣 美砂子 |
| P-A-10-02 | 連絡帳を介した保護者の悩みと保育者間の話し合いの場に関する研究 I | 東京都立大学大学院 | ○ 須 永 真 理 |
| P-A-10-03 | 保育者養成課程における子育て支援を実践的に学ぶ授業モデルの提案 | 岡山県立大学 岡山県立大学 | ○ 新 山 順 子 京 林 由季子 |
| P-A-10-04 | 就学前の子ども（5歳児）をもつ保護者への「親の育ち」支援について ～就学時健診・説明会を活用したコロナ禍でのワークショップ～ | ①至学館大学 ②東京福祉大学・東京福祉大学短期大学部 ③保育・介護・ビジネス名古屋専門学校（すべて非常勤講師） | ○ 定 行 加保里 |
| P-A-10-05 | コロナ禍における父親の子育てに関する一考察 ～地域子育て支援センターの来所を中心に～ | 愛知東邦大学 | ○ 鈴 木 順 子 |
| P-A-10-06 | 東アジアの父親の意識・育児環境調査より ～日本、台湾、韓国、中国の比較検討～ | 大阪教育大学 | ○ 小 崎 恭 弘 |
| P-A-10-07 | 乳幼児の系統的な保育の取組み ーベビーマッサージとわらべうたを活用してー | 秋草学園短期大学 秋草学園短期大学 | ○ 鳥 海 弘 子 長谷川 恭 子 |
| P-A-10-08 | 音楽アウトリーチの今後の課題 ー活動の振り返りとこれからの方向性ー | 大阪キリスト教短期大学 聖和短期大学 | ○ 川 畑 尚 子 山 内 信 子 |
| P-A-10-09 | 短大子育て支援広場の保護者と学生の参画の試み ーコロナ下における「親子クッキング」を通してー | 桜の聖母短期大学 | ○ 狩 野 奈緒子 |
| P-A-10-10 | ICT ツールを活用した連絡帳の実態に関する研究 | 学校法人増田学園 千葉女子専門学校 | ○ 綿 貫 文 野 |
| P-A-10-11 | 児童館の可能性 ー切れ目のない支援と中高生の居場所づくり | 池坊短期大学 大谷大学 | ○ 吉 島 紀 江 川 北 典 子 |
| P-A-10-12 | 幼稚園年少児の母親は、母親の役割をどのように捉えているか ー母親の自由記述よりー | 椙山女学園大学 | ○ 服 部 沙 織 |
| P-A-10-13 | 寺社仏閣のバリアフリー状況 ー乳幼児が訪れる場所としてー | 筑波大学 筑波大学 富山大学 | ○ 徳 田 克 己 水 野 智 美 西 館 有 沙 |

P-A-11 多文化教育・異文化理解・ジェンダーなど

5月14日（土） 14:00～14:30

ポスター会場

座長：門 田 理 世・立 本 千寿子

| | | | |
|-----------|---|--------------------|----------------------|
| P-A-11-01 | 教育ドキュメンテーションの役割と可能性 ～多文化共生への期待～ | 小田原短期大学 小田原短期大学 | ○ 谷 口 征 子 竹 内 直 美 |
| P-A-11-02 | 園での食事場面における幼児のジェンダー意識 の検討 | 秋田大学 | ○ 瀬 尾 知 子 |
| P-A-11-03 | 外国にルーツをもつ幼児への個別支援の実践 ―就学につながる日本語力の育成を目指して― | 愛知教育大学大学院 | ○ 田 中 寛 美 |
| P-A-11-04 | 中国人保育者の遊びに対する概念について ―遊びを楽しむ意義に焦点をあてて― | 聖徳大学 | ○ 岡 本 聡 子 |
| P-A-11-05 | フランスにおける近年のl' école maternelle 教育 プログラムの変遷に関する検討 | 福山市立大学 | ○ 大 庭 三 枝 |
| P-A-11-06 | イギリスにおける自然を活かした保育に関する 研究 | 郡山女子大学短期大学部 | ○ 柴 田 卓 |
| P-A-11-07 | 外国籍の子どもの保育に関する基礎的研究 | 佛教大学 佛教大学 | ○ 柏 ま り 佐 藤 和 順 |

ポスター発表 B

P-B-1 保育環境・保育教材 2

5月14日（土） 15:15～15:45

ポスター会場

座長：田 澤 里 喜・山 本 麻 美

| | | | |
|----------|--|---|---|
| P-B-1-01 | 保育における総合遊具の歴史的変遷 | 植草学園短期大学 | ○ 久留島 太 郎 |
| P-B-1-02 | 保育の場における歌唱指導プログラム内容の検討 —音高と歌詞に着目して— | 帝塚山大学 | ○ 瀧 田 陽 子 |
| P-B-1-03 | 幼児の遊び場面における探究過程の位相 | 長崎純心大学 兵庫大学 神戸女子大学 | ○ 田 中 珠 美 ○ 小 林 みどり 三 宅 茂 夫 |
| P-B-1-04 | 芸術士®の実践における光を使った遊びに関する —考察 —ルミボードを用いた活動事例から— | 香川大学 | ○ 吉 川 暢 子 |
| P-B-1-05 | 材料を自由に使える環境で制作活動を繰り返す 体験による学生の造形活動への効果 | 名古屋女子大学 名古屋女子大学 | 松 田 ほなみ 山 本 麻 美 |
| P-B-1-06 | 「ねんど場」における幼児の土遊び 2 —粘土質土「スーパークレイ」の含水率から見た土遊びの可能性— | 同志社女子大学 同志社女子大学 同志社女子大学 | ○ 真 宮 美奈子 竹 井 史 笠 間 浩 幸 |
| P-B-1-07 | 適切な粒度の「砂」の導入による砂遊びの展開 に関する考察 | 同志社女子大学 同志社女子大学 同志社女子大学 | ○ 笠 間 浩 幸 真 宮 美奈子 竹 井 史 |
| P-B-1-08 | 「ねんど場」における幼児の土遊び 1 —「利用土」から「スーパークレイ」の開発及び 「ねんど場」の設置まで— | 同志社女子大学 同志社女子大学 同志社女子大学 | ○ 竹 井 史 笠 間 浩 幸 真 宮 美奈子 |
| P-B-1-09 | 子どもが暮らす園舎と心地よさを感じる体験 —「ゆらぎ」の保育学をめざして— | 白梅学園大学 | ○ 村 上 博 文 |
| P-B-1-10 | 砂場と造形教育 | 千葉大学 淑徳大学 | ○ 小 橋 暁 子 楨 英 子 |
| P-B-1-11 | 幼児にとって園の『廊下』は、何をもたらすのかⅡ | 出雲崎こども園 | ○ 松 延 毅 |
| P-B-1-12 | 幼児の生活と情報活動 —幼児の遊びを豊かにする ICT 活用の試み②— | 京都教育大学附属幼稚園 京都教育大学附属幼稚園 京都教育大学附属幼稚園 京都教育大学附属幼稚園 京都教育大学附属幼稚園 | ○ 山 際 美 喜 樫 山 ゆかり 高 野 史 朗 遠 藤 静 香 北 山 千嘉子 |
| P-B-1-13 | 幼児における羊毛教材の実践と可能性 その2 | 東京家政大学 | ○ 岡 本 恵 |

P-B-2 発達論・心身の発達など2

5月14日(土) 15:15~15:45

ポスター会場

座長：小 林

真・今 村 麻 子

| | | | |
|----------|---|---|--|
| P-B-2-01 | 園での仲間遊びにみる他者理解に関わるやりとりについての検討 10 | 千葉大学 | ○ 岩 田 美 保 |
| P-B-2-02 | コロナ禍における保育環境の変化が幼児期の発達に及ぼす影響 (2) —過年度の幼児の発達との比較から— | 十文字学園女子大学 印西ひかりこども園 船橋情報ビジネス専門学校 | ○ 長 田 瑞 恵 押 部 直 也 生 越 雅 志 |
| P-B-2-03 | 幼児期における金銭教育について | 宇都宮共和大学 宇都宮共和大学 相山女学園大学 | ○ 蟹 江 教 子 今 村 麻 子 室 雅 子 |
| P-B-2-04 | コロナ禍における保育環境の変化が幼児期の発達に及ぼす影響 (1) —3、4 歳児期の発達傾向から— | 印西ひかりこども園 十文字学園女子大学 船橋情報ビジネス専門学校 東京福祉大学非常勤講師 | ○ 押 部 直 也 長 田 瑞 恵 生 越 雅 志 関 口 はつ江 |
| P-B-2-05 | 遊びの中から運動機能の向上を目指す ～裸足あそびから変化する心身の発達をもとに～ | 江南市立古知野西保育園 | ○ 後 藤 春 美 |
| P-B-2-06 | 発熱時など体調がよくないときの乳児の微視的発達 —日誌法による検討— | 武庫川女子大学 | ○ 萱 村 俊 哉 |
| P-B-2-07 | 東日本大震災後 10 年、保育者、教員が感じる子どもの発達への影響 | 松本短期大学 | ○ 鈴 木 美枝子 |
| P-B-2-08 | コロナ禍における幼児の脳活動の発達に及ぼす影響 | 藤枝市立青島東小学校 | ○ 渡 邊 宣 明 |

P-B-3 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解）など1

5月14日（土） 15:15～15:45

ポスター会場

座長：上 村 晶・下 里 里 枝

| | | | |
|----------|--|--|--|
| P-B-3-01 | 「コロナ禍慣れ」の克服についての考察 | 東京未来大学 | ○ 佐 藤 久 恵 |
| P-B-3-02 | コロナ禍における行事のあり方を考える —3歳以上児の運動会に着目して— | 高松大学 関西国際大学 兵庫教育大学大学院 | ○ 川 口 めぐみ 下 里 里 枝 石 野 秀 明 |
| P-B-3-03 | 幼児と教師が共に主体となる保育 —運動会の取組から考える— | 千葉大学教育学部附属幼稚園 千葉大学教育学部附属幼稚園 千葉大学教育学部附属幼稚園 千葉大学教育学部附属幼稚園 千葉大学教育学部附属幼稚園 千葉大学教育学部附属幼稚園 | ○ 小 林 直 実 田 中 幸 関 根 映 子 井 上 郁 斎 藤 晶 海 根 橋 杏 美 |
| P-B-3-04 | 認定こども園におけるラーニングストーリーの活用と効果 その2 ：園全体の取り組みへと移行して | 淑徳大学短期大学部 はぐはぐキッズこども園東上野 はぐはぐキッズこども園東上野 はぐはぐキッズこども園東上野 はぐはぐキッズこども園東上野 | ○ 佐 藤 純 子 富 田 ちひろ 川 村 啓 子 鈴 木 あゆみ 小 島 菜緒子 |
| P-B-3-05 | ライトテーブルに初めて出会った5歳児の創造的想像に関する研究 | 大阪総合保育大学大学院 | ○ 尾 花 創 |
| P-B-3-06 | 「保育現場でのマスク保育における保育者の意識と課題」 | 東京福祉大学 東京福祉大学 | ○ 荒 木 由紀子 関 口 はつ江 |
| P-B-3-07 | 主体としての子どもを支える —コロナ禍の運動会を子どもと共に楽しむために— | (学) 揖斐幼稚園 (学) 揖斐幼稚園 | ○ 佐 木 玲 水 佐 木 彩 水 |
| P-B-3-08 | 幼児が失敗を受け止め乗り越えていく過程と保育者の援助の在り方に関する考察 —幼児期に身につけたい生き抜く力という観点から— | 中部学院大学 中部学院大学 中部学院大学短期大学部 中部学院大学短期大学部 | ○ 西 垣 吉 之 梅 田 裕 介 西 垣 直 子 小木曾 友 則 |
| P-B-3-09 | 幼保小連携の本質を問う | 中部学院大学 中部学院大学 中部学院大学短期大学部 | ○ 梅 田 裕 介 西 垣 吉 之 西 垣 直 子 |
| P-B-3-10 | 子どもの育ちを保障する活動の連続性に関する研究 | 中部学院大学短期大学部 | ○ 西 垣 直 子 |
| P-B-3-11 | 幼児教育における音楽的遊びの有効性に関する調査研究 6 ～保育現場における歌唱指導方法について～ | 豊岡短期大学 玄海ゆりの樹幼稚園 吉塚ゆりの樹幼稚園 | ○ 石 川 ますみ 高 杉 洋 史 高 杉 美稚子 |
| P-B-3-12 | 日本の保育者からみたドイツの森の幼稚園における保育場面：子どもの自律性に着目して | 広島大学大学院 東洋英和女学院大学 学研アカデミー保育士養成コース 目白大学 | ○ 大 道 香 織 山 下 久 美 落 合 進 井 門 彩 織 |
| P-B-3-13 | 森のようちえんの保育者意識が子どもの育ちに与える影響 | 芦屋大学 | ○ 大 谷 彰 子 |
| P-B-3-14 | 子どもの姿を共有する保育記録の試み | 青山学院大学 | ○ 久保寺 節 子 |

P-B-4 保育内容 I（保育内容総論・遊び）など

5月14日（土） 15:15～15:45

ポスター会場

座長：腰 川 一 恵・星 野 秀 樹

| | | | |
|----------|--|--|--|
| P-B-4-01 | 「楽しさ」に関する基礎的研究（その 11） | 愛知東邦大学 ユマニテク短期大学 椋山女学園大学 | ○ 堀 建 治 松 本 亜香里 小 杉 裕 子 |
| P-B-4-02 | 保育者が考える鬼ごっこで育つもの（2） —幼稚園と保育園の担任が捉える総合的な育ちの要因— | 日本女子体育大学 日本女子体育大学 | ○ 並 木 真理子 桐 川 敦 子 |
| P-B-4-03 | 遊び場面における子どもと保育者の織りなす共 主体性にかかる一考察 ～幼児期における主体的・対話的で深い学びへの問い～ | 中村学園大学 中村学園大学 | ○ 古 賀 萌 子 那 須 信 樹 |
| P-B-4-04 | 子どもの遊びに関する調査 —保育士・幼稚園教諭・保育教諭の視点から— | 沖縄キリスト教短期大学 沖縄キリスト教短期大学 沖縄キリスト教短期大学 | ○ 照 屋 建 太 糸 洲 理 子 宮 平 隆 央 |
| P-B-4-05 | 持続可能な社会づくりのために必要となる能力 とはなにか —幼児教育の視点から捉える ESD— | （福）葛飾福祉館 | ○ 富 田 泰 介 |
| P-B-4-06 | 保育所における子どもの主体的な遊び | 比治山大学短期大学部 | ○ 児 玉 理 紗 |
| P-B-4-07 | こども園における保育内容と活動量との関係 | 愛知文教女子短期大学 愛知文教女子短期大学 愛知文教女子短期大学 愛知文教女子短期大学 愛知文教女子短期大学 愛知文教女子短期大学 | ○ 岡 田 摩 紀 星 野 秀 樹 国 藤 真理子 朴 賢 晶 伊 藤 久美子 玉 田 裕 人 |
| P-B-4-08 | STEAM 教育の視点から見た遊びの変化と育ち に関する事例分析 —積み木遊びに見られる 5 歳児の姿を基に— | 学校法人大宮学園 大宮幼稚園 兵庫教育大学 大阪市立味原小学校 大阪市立東桃谷小学校 大阪市立古市小学校 | ○ 流 田 絵 美 溝 邊 和 成 岩 本 哲 也 坂 田 紘 子 平 川 晃 基 |

P-B-5 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現）など3

5月14日（土） 15:15～15:45

ポスター会場

座長：山 本 理 絵・崎 山 ゆかり

| | | | |
|----------|--|----------------------------------|-------------------------------|
| P-B-5-01 | 幼児の科学的思考の芽生えを育む保育者の援助 —現職保育者への質問紙調査— | 千葉大学大学院 | ○ 高 橋 佳 代 |
| P-B-5-02 | 幼児の食べる力と運動能力との関係 | 武庫川女子大学 食物栄養科学部 武庫川女子大学 短期大学部 | ○ 北 村 真 理 崎 山 ゆかり |
| P-B-5-03 | 様々な素材や表現の仕方に親しむ保育の探究 —音楽表現からのアプローチに着目して— | 帝京大学 | ○ 若 谷 啓 子 |
| P-B-5-04 | 保育現場における聴く活動 ～フルート演奏による実践～ | 小田原短期大学 小田原短期大学 | ○ 澤 田 優 子 山 本 華 子 |
| P-B-5-05 | 5領域の科目間連携授業の試み —お化け屋敷製作の過程を通して— | 園田学園女子大学 園田学園女子大学 園田学園女子大学 | ○ 黒 木 晶 田 窪 玲 子 中 野 圭 子 |
| P-B-5-06 | 子どもの視点から捉える他者への興味関心 ～レンズ付きフィルムカメラの被写体に着目して～ | 愛知文教女子短期大学 愛知学泉大学 | ○ 伊 藤 久美子 田 村 佳 世 |
| P-B-5-07 | 幼児期の3色食品群の食育と自然の恩恵を繋ぐ 保育実践の提案 | 大阪大谷大学 富田林市立彼方幼稚園 | ○ 富 永 美 香 辻 元 由希子 |
| P-B-5-08 | 保育内容の領域「健康」における食育活動について —模擬保育と振り返りからの検討— | 香川大学 | ○ 藤 元 恭 子 |
| P-B-5-09 | 日本画材を用いた保育実践③ —保育者養成校での実践・アンケートをもとに— | 常葉大学短期大学部 | ○ 木 下 藍 |
| P-B-5-10 | 身体表現において動きをナッジする音楽的要素Ⅰ | 植草学園大学 植草学園大学 | ○ 鈴 木 瑛 貴 高 木 夏奈子 |
| P-B-5-11 | 新入園児の主体性を引き出す援助 —4歳児の事例から— | 文京学院大学ふじみ野幼稚園 文京学院大学 | ○ 早 瀬 仁 美 栳 島 香 代 |
| P-B-5-12 | 異年齢児の伝え合いに着目した粘土の造形表現 | 大阪成蹊大学 | ○ 白波瀬 達 也 |
| P-B-5-13 | サウンドペインティングの保育への導入の検討 —保育者養成校の学生の体験から— | 修文大学短期大学部 修文大学短期大学部 | ○ 友 永 良 子 浅 川 正 堂 |

P-B-6 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現）など4

5月14日（土） 15:15～15:45

ポスター会場

座長：花 輪

充・石 沢 順 子

| | | | |
|----------|---|--------------------------------------|---------------------------------|
| P-B-6-01 | 母体心拍音の聴取への反応と幼児の気質との関連性 | 兵庫大学 | ○ 立 本 千寿子 |
| P-B-6-02 | 保育系学生の鑑賞に関する意識 —授業作品の鑑賞に関するアンケート結果を基に— | 中村学園大学 中村学園大学 | ○ 倉 原 弘 子 渡 邊 有 美 |
| P-B-6-03 | ピアノで奏でる絵本の世界 ～未就学児親子対象の実践例～ | 仁愛女子短期大学 | ○ 木 下 由 香 |
| P-B-6-04 | オンライン授業におけるピアノ技術習得のための取り組み（2） | 札幌国際大学短期大学部 | ○ 伊 藤 桂 子 |
| P-B-6-05 | 「保育者養成における音楽を用いた領域表現の学び —心から気持ちが湧き出る表現活動を目指して—」 | 岡崎女子短期大学 岡崎女子短期大学 | ○ 平 尾 憲 嗣 滝 沢 ほだか |
| P-B-6-06 | 創造的表現活動の実践について（2） —保育者の音楽的アプローチは子どもの創造的身体表現を引き出すか— | 豊橋創造大学短期大学部 東京都市大学 豊橋創造大学短期大学部 | ○ 井 中 あけみ 高 橋 うらら 朝 元 尊 |
| P-B-6-07 | ICT を用いた音の視覚化による子どもの音楽表現活動支援に関する研究 | 東北生活文化大学短期大学部 | ○ 佐 藤 和 貴 |
| P-B-6-08 | 赤十字幼児安全法講習受講による保育者の事故予防に対する意識の変容 | 愛知教育大学大学院生 広島大学附属幼稚園 | ○ 横 井 良 憲 渡 邊 拓 真 |
| P-B-6-09 | 絵本を活用した表現活動の一考察 —レッジョ・エミリアの実践事例を基に— | 関西学院聖和短期大学 | ○ 手良村 昭 子 |
| P-B-6-10 | 0歳児クラスの複数担任間の相互理解プロセス ～保育者の保育行為に着目して～ | 名古屋市立大学 大学院 | ○ 亀 井 慶 子 |
| P-B-6-11 | 幼児初期の「身体活動に関わる保育環境尺度」の作成（3） | 千葉大学 白百合女子大学 白百合女子大学 | ○ 松 嵩 洋 子 石 沢 順 子 土 橋 久美子 |
| P-B-6-12 | 身体表現授業における模擬保育の振り返りに関する実践報告 | 秋草学園短期大学 | ○ 塩 崎 みづほ |
| P-B-6-13 | 森の保育を通した「いのち」へのまなざしに関する考察 | 公益財団法人キープ協会 清里聖ヨハネ保育園 | ○ 大 谷 望 海 |

P-B-7 保育者の資質能力・保育者の専門性など 3

5月14日（土） 15:15～15:45

ポスター会場

座長：片 山 美 香・小 野 友 紀

| | | | |
|----------|---|---|---|
| P-B-7-01 | 幼稚園での園内研修におけるマイクロティーチングの研究Ⅴ —のんびり役を演じた心情理解に着目して— | 植草学園大学 文京学院大学 植草学園短期大学 | ○ 金 子 功 一 金 子 智栄子 植 草 一 世 |
| P-B-7-02 | 保育の質の構造と保育者の心理的特性との関連に関する検討（2） | 桜花学園大学 | ○ 小 原 倫 子 |
| P-B-7-03 | 少子化社会に関する大学生の意識 | 明治大学大学院 フェリシアこども短期大学 | ○ 橋 元 知 子 中 村 麻衣子 |
| P-B-7-04 | 実践コミュニティとしての園外研修における保育職場の学びに関する研究 | 名古屋文化学園保育専門学校 | ○ 川 合 真由美 |
| P-B-7-05 | 子ども主体の保育を問い直す（2） —堀合文子氏の保育実践を通して— | 東京福祉大学 東京福祉大学 | ○ 望 月 之 美 太 田 節 子 |
| P-B-7-06 | 保育者は4歳児の拒否場面における自己主張をどのようにとらえているのか | 名古屋市立大学 | ○ 石 濱 丈 司 |
| P-B-7-07 | 乳児クラスを担当する保育士の保育行為スタイル—ELANによる保育行為の分析— | 神戸女子短期大学 宮城教育大学 大阪総合保育大学 | ○ 永 井 久美子 香曾我部 琢 渡 辺 俊太郎 |
| P-B-7-08 | 唾液アミラーゼ分析から考察する保育者の職務毎のストレス | 仁愛大学 | ○ 森 俊 之 |
| P-B-7-09 | 保護者と共につくる保育 ～保育者と保護者との協働のあり方を探る～ | 川村学園女子大学附属保育園 川村学園女子大学 淑徳大学短期大学部 | ○ 山 崎 久 江 菅 井 洋 子 藤 川 志つ子 |
| P-B-7-10 | 保育のリフレクションを続けることで保育の質は変化するか | 京都女子大学 大妻女子大学 認定こども園かほる保育園 幼保連携型認定こども園羽茂こども園 認定こども園星の子保育園 | ○ 村 井 尚 子 坂 田 哲 人 落 合 陽 子 松 野 敬 中 西 淳 也 |
| P-B-7-11 | 女性保育者のマザリーズ表出特徴に関する研究 | 名古屋女子大学短期大学部 名古屋大学 愛知学泉短期大学 名古屋女子大学短期大学部 | ○ 神 崎 奈 奈 宇都木 昭 児 玉 珠 美 大 嶽 さと子 |
| P-B-7-12 | コロナ禍における園内研修の課題 ～食に関する園内の協働に着目して～ | 昭和女子大学 大妻女子大学短期大学部 | ○ 遠 藤 純 子 小 野 友 紀 |

P-B-8 保育者の資質能力・保育者の専門性など 4

5月14日（土） 15:15～15:45

ポスター会場

座長：小 屋 美 香・鳥 海 弘 子

| | | | |
|----------|---|--|--|
| P-B-8-01 | 子ども主体の保育を問い直す―(1)― ―堀合文子氏の保育実践を通して― | 東京福祉大学・非 東京福祉大学・非 | ○ 太 田 節 子 望 月 之 美 |
| P-B-8-02 | 保育者のいざこざへの関わりにおける一考察 | 横浜創英大学 | ○ 福 田 真 奈 |
| P-B-8-03 | フレーベルの「予感」概念に基づいた質の高い 幼児教育に関する研究 ―領域「環境」の視点から― | なし | ○ 信 田 る い |
| P-B-8-04 | 保育者が「その子の食物アレルギー対応」から 学び得たもの | 愛知学泉大学 | ○ 田 村 佳 世 |
| P-B-8-05 | 保護者の保育者に対する信頼感に影響を及ぼす 保育者の保護者対応行動 | 愛知教育大学大学院 愛知教育大学大学院 | ○ 福 井 千 夏 寫 田 弘 子 |
| P-B-8-06 | 表現活動におけるイメージの共有と課題Ⅱ ―コロナ禍の表現教育を考える― | 埼玉東萌短期大学 | ○ 金 子 亜 弥 |
| P-B-8-07 | ケア論からみた保育の専門性 | 華頂短期大学 ユマニテク短期大学 ユマニテク短期大学 | ○ 洪 谷 郁 子 山 野 栄 子 小 島 佳 子 |
| P-B-8-08 | 保育者養成校における新型コロナウイルス禍での 保育・幼稚園教育実習中止に伴う代替授業と 授業外における学生指導と対応 ―学生対象アンケート分析を中心に― | 静岡産業大学 育英短期大学 常磐短期大学 秋草学園短期大学 東洋英和女学院大学 浜松学院大学 東京家政大学 白鷗大学 清和大学短期大学部 彰栄保育福祉専門学校 | ○ 田 中 卓 也 小 屋 美 香 木 村 由 希 鳥 海 弘 子 廣 部 朋 美 石 野 純 子 五十嵐 淳 子 山 路 千 華 加 藤 緑 山 梨 有 子 |
| P-B-8-09 | エピソード記録から読み取る保育者の熟達化に 関する研究 | 中部学院大学短期大学部 | ○ 小 木 曾 友 則 |
| P-B-8-10 | 子どもの主体的活動を促す環境づくりの検討 ―保育内容「環境」における学生の学びから― | 札幌国際大学短期大学部 | ○ 小 川 久 恵 |
| P-B-8-11 | 保育士の困難感に対するレジリエンス・実践 力・効力感の影響の検討 ―保育士のキャリアごとの比較― | 太宰府市立ごじょう保育所 福岡女学院大学 | ○ 緒 方 麻 里 赤 間 健 一 |
| P-B-8-12 | 保育所保育実習指導者のための自己評価尺度活 用の効果 | 愛知教育大学大学院 愛知教育大学 | ○ 寫 田 弘 子 鈴 木 裕 子 |
| P-B-8-13 | 公開保育を通じた保育の質向上の変容プロセス | (福)養秀福祉会 首里当蔵保育園 | ○ 大 城 祥 恵 |

P-B-9 保育専門職の養成など 3

5月14日（土） 15:15～15:45

ポスター会場

座長：榎 沢 良 彦・山 西 加 織

| | | | |
|----------|---|---|--|
| P-B-9-01 | 学生の子ども理解を深める実習記録への試み | 高崎健康福祉大学 高崎健康福祉大学 高崎健康福祉大学 | ○ 今 井 邦 枝 山 西 加 織 内 田 祥 子 |
| P-B-9-02 | 自然との関わりを指導できる保育者養成 —地域資源の活用— | 大阪大谷大学 大阪大谷大学 大阪大谷大学 | ○ 地 下 まゆみ 富 永 美 香 井 上 美智子 |
| P-B-9-03 | 養成校、学生、実習現場の3者の連携を通じた 実習プログラムの実現による実習生の専門性の 意識の向上 | フェリシアこども短期大学 学校法人岩谷学園エクレスすみれ保育園 | ○ 山 下 晶 子 飯 塚 大 輔 |
| P-B-9-04 | 保育者養成課程における実習事前活動としての 「ボランティア活動」③ —コロナ禍における物を介しての地域貢献— | 小田原短期大学 小田原短期大学 小田原短期大学 | ○ 山 本 華 子 東 元 り か 武 山 美 子 |
| P-B-9-05 | 保育学生から見た絵本（1） —保育・教職実践演習における絵本ノートの取 り組みから— | 静岡産業大学経営学部 福岡こども短期大学 名寄市立大学保健福祉学部 | ○ 日 隈 美代子 柳 生 明 子 中 澤 幸 子 |
| P-B-9-06 | 「成長し続ける保育者」を養成するプログラム （6） —子どもの行為を表現として見ることを通した学び— | 名古屋柳城女子大学 名古屋柳城女子大学 | ○ 野 田 さとみ 鬘 櫛 久美子 |
| P-B-9-07 | 子どもとかかわる体験をもとにした遊びマップ 型指導案作成の試み | 元聖セシリア女子短期大学 元聖セシリア女子短期大学 名古屋女子大学 | ○ 仲 明 子 桐 原 由 美 榊 原 剛 |
| P-B-9-08 | 「成長し続ける保育者」を養成するプログラム （5） —子どもの行為を表現として見るということ— | 名古屋柳城女子大学 名古屋柳城女子大学 | ○ 鬘 櫛 久美子 野 田 さとみ |
| P-B-9-09 | 「保育者養成における音楽教育についての一考察 （3） —旋律に着目して—」 | 小田原短期大学 小田原短期大学 小田原短期大学 | ○ 東 元 り か 今 泉 明 美 有 村 さやか 山 本 華 子 |
| P-B-9-10 | 保育者養成学生の職業意識と動機づけに関する 意識調査 —KIT の取り組みから見えてくるもの— | 神戸常盤大学 神戸元町こども専門学校 頌栄短期大学 | ○ 大 城 亜 水 川 島 直 子 渡 邊 恵梨佳 |
| P-B-9-11 | A 県内の社会的養護施設及び障害者支援施設に おける保育実習Ⅰ（施設）及び保育実習Ⅲ（施設） の実習プログラムの作成に関する現状と課題 | 中部学院大学短期大学部 | ○ 村 田 泰 弘 |
| P-B-9-12 | 体験を重視した保育の領域横断科目の試み | 淑徳大学 淑徳大学 淑徳大学 淑徳大学 | ○ 榎 英 子 末 永 昇 一 當 銀 玲 子 桃 枝 智 子 |

P-B-10 保育専門職の養成など 4

5月14日（土） 15:15～15:45

ポスター会場

座長：田 甫 綾 野・金 森 三 枝

| | | | |
|-----------|---|---|--|
| P-B-10-01 | 保育者養成校での学びが虫に対する意識に及ぼす影響 | 東洋英和女学院大学 兵庫教育大学大学院 | ○ 山 下 久 美 藤 崎 亜由子 |
| P-B-10-02 | 保育者養成における「乳児保育」の課題と展望 ～学生の子ども理解の理論と実践から～ | 池坊短期大学 | ○ 鵜 川 陽 子 |
| P-B-10-03 | 実習生から見た園における造形表現活動と思い描く理想像 —振り返りとマトリックス分析を通して— | 清和大学短期大学部 | ○ 畠 山 智 宏 |
| P-B-10-04 | 幼稚園教育実習の到達目標の達成をめざした実習記録の様式の変更と学生の学び | 相愛大学人間発達学部 相愛大学人間発達学部 | ○ 曲 田 映 世 中 井 清津子 |
| P-B-10-05 | 保育者養成校学生の自然への感性を育てるしかけづくり（10） —10年間の取組みの成果と展望— | 相愛大学人間発達学部 相愛大学人間発達学部 相愛大学人間発達学部 相愛大学人間発達学部 神戸常盤大学教育学部 | ○ 木 村 久 男 進 藤 容 子 曲 田 映 世 渡 部 理 恵 中 西 利 恵 |
| P-B-10-06 | 保育士の専門性に関する実習を通じた学生の認識 その1 | 相模女子大学 東洋英和女学院大学 | ○ 大和田 明 見 金 森 三 枝 |
| P-B-10-07 | 附属保育園の子どもたちとのオンライン交流2： 学生の振り返り記述からみる気づきと学び | 川村学園女子大学 川村学園女子大学 | ○ 菅 井 洋 子 近 藤 千 草 |
| P-B-10-09 | 実践知に触れる場としての教育・保育実習 ～保育職への意欲を育てるために～ | こども教育宝仙大学 玉川大学 國學院大學 | ○ 須 永 美 紀 田 甫 綾 野 廣 井 雄 一 |
| P-B-10-10 | 保育者養成校学生の保育職に対するモチベーションの変化 | 東京福祉大学短期大学部 東京福祉大学 町田南保育園 東京福祉大学・非 東京福祉大学・非 東京福祉大学・非 | ○ 鈴 木 美 子 関 容 子 井 上 利恵子 望 月 之 美 太 田 節 子 関 口 はつ江 |
| P-B-10-11 | 保護者支援を実践できる保育者を養成する教育方法の研究（6） | 神戸常盤大学 相愛大学 | ○ 中 西 利 恵 曲 田 映 世 |
| P-B-10-12 | フリー保育者が行える新人保育者支援について | ナーサリールームベリーベアー矢口 | ○ 松 山 綾 子 |

P-B-11 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など 2

5月14日（土） 15:15～15:45

ポスター会場

座長：新 井 美保子・西 村 実 穂

| | | | |
|-----------|---|--|--|
| P-B-11-01 | 幼稚園・保育所等における保護者への情報発信 方法の検討（5） —アフターコロナにつながる家庭・地域との連携実践— | 高浜市立高浜南部幼稚園 安城市立ゆたか保育園 保育の実践と研究・安城の会 愛知教育大学 | ○ 杉 江 栄 子 新 美 洋 祐 古 橋 さつ子 新 井 美保子 |
| P-B-11-02 | 「家庭で子どもが過ごす」ということ —保護者の遊びの捉え方より— | 名古屋柳城女子大学 こども教育宝仙大学 | ○ 菊 地 篤 子 宇佐美 かおる |
| P-B-11-03 | 保育園で実施した多職種によるグループ討論の 意義について —問題解決のツールとしての言説構造の理論的検討— | 日本女子大学 前日本女子大学 | ○ 吉 澤 一 弥 西 智 子 |
| P-B-11-04 | 子育て支援ルームにおけるオンライン活用 —子育て講座を配信する試み— | 兵庫教育大学 兵庫教育大学 | ○ 楠 本 洋 子 横 川 和 章 |
| P-B-11-05 | コロナ禍における大学発「地域子育て支援」の 果たす役割Ⅱ —学生の学びに見る保育者としての専門性の育ち— | 東京家政学院大学 共立女子大学 共立女子大学 富山短期大学 富山短期大学 東京家政学院大学 | ○ 柳 瀬 洋 美 白 川 佳 子 小 原 敏 郎 嶋 野 珠 生 明 柴 聰 史 吉 永 早 苗 |
| P-B-11-06 | 父親は子どもと地域でどのように過ごすのか： 地域子育て支援拠点を利用する父親へのインタ ビュー | 東京都健康長寿医療センター研究所 | ○ 田 中 元 基 |
| P-B-11-07 | 保育者同士の夫婦で取得する育休についての一 考察 —パパママ育休プラスを利用する効果について— | 名古屋芸術大学 | ○ 安 藤 香 |
| P-B-11-08 | 子育て支援につながる音楽表現アセスメントの 検討 —Zoomを用いたオンラインによる表現活動— | 高野山大学 兵庫大学 | ○ 植 田 恵理子 立 本 千寿子 |
| P-B-11-09 | 子が通う幼稚園・保育所に対する親の評価に関 連する諸要因の検討 その2 —親自身の幼保園経験評価と子に対する親の感 情を中心に— | 松山市教育支援センター 東海学園大学 | ○ 西 本 瞳 河 野 和 明 |
| P-B-11-10 | 地域子育て支援拠点事業において求められる支 援者の専門性 | 四国大学短期大学部 | ○ 姫 田 知 子 |
| P-B-11-11 | 発達障害傾向のある子どものヘルプマーク携帯 に関する保護者の認識 | 富山大学 東京未来大学 筑波大学 | ○ 西 館 有 沙 西 村 実 穂 徳 田 克 己 |
| P-B-11-13 | 孫育ての現状と課題（1） —祖父母から教えてもらった遊び— | 高田短期大学 鈴鹿大学 愛知みずほ短期大学 | ○ 榊 原 尉津子 小 川 真由子 杉 山 佳菜子 |
| P-B-11-12 | 孫育ての現状と課題（2） —育児に関する知識からの検討— | 鈴鹿大学 愛知みずほ短期大学 高田短期大学 | ○ 小 川 真由子 杉 山 佳菜子 榊 原 尉津子 |

ポスター発表 C

P-C-1 保育マネジメントなど

5月15日（日） 11:00～11:30

ポスター会場

座長：浜 口 順 子・吉 田 真 弓

| | | | |
|----------|---|--|---|
| P-C-1-01 | 明日の保育を拓く「保育マネジメント」の在り方 (1) ～地域・社会に開かれた園運営者の語りから捉えられたこと～ | お茶の水女子大学 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学 | ○ 宮 里 暁 美 浜 口 順 子 内 海 緒 香 辻 谷 真知子 松 島 のり子 |
| P-C-1-02 | 保育者のキャリアと成長を支えるマネジメントに関する研究 ～園長・主任・職員の三者のマッチングデータから捉える組織要因の分析～ | 洗足こども短期大学 大妻女子大学 | ○ 井 上 眞理子 坂 田 哲 人 |
| P-C-1-03 | 保育現場における管理職のマネジメントについて ―世襲制のメリットとデメリット― | 認定こども園槻田杉の実保育園 認定こども園ひびきの保育園 東京未来大学 | ○ 岡 本 一 橋 原 義 晃 藤 後 悦 子 |
| P-C-1-04 | 保育所等における防災教育の実態 ―K市の公立園と私立園の違い (2)― | 聖和短期大学 聖和短期大学 仁愛大学 仁愛大学 東大阪大学 名古屋柳城短期大学 仁愛大学 あまのこどもえん 帝塚山大学 | ○ 千 葉 武 夫 碓 水 ゆかり 西 村 重 稀 森 俊 之 吉 岡 真知子 成 田 朋 子 青 井 夕 貴 中 島 一 清 水 益 治 |
| P-C-1-05 | 2019 オリニジップ評価マニュアルの研究 | 愛知教育大学 九州産業大学 和洋女子大学 名古屋短期大学 名古屋市立大学 | ○ 新 井 美保子 清 水 陽 子 矢 藤 誠慈郎 吉 田 真 弓 丹 羽 孝 |
| P-C-1-06 | 保育を構造的に思考し、子どもの資質・能力の発揮、伸長を自覚的に支える保育力を醸成する指導案フォーマット | 神戸大学附属幼稚園 神戸大学附属幼稚園 神戸大学附属幼稚園 神戸大学附属幼稚園 神戸大学附属幼稚園 神戸大学附属幼稚園 神戸大学附属幼稚園 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 | ○ 田 中 孝 尚 浅 原 麻 美 吉 田 紘 子 川 東 佳 歩 久 保 裕 長 野 萌 映 吉 田 さくら 北 野 幸 子 |
| P-C-1-07 | ICTによる伴走型コンサルティング (1) 保育研修への活用可能性 | 聖和学園短期大学 岩手県立大学社会福祉学部 群馬大学大学院教育学研究科 | ○ 上 村 裕 樹 井 上 孝 之 音 山 若 穂 |
| P-C-1-08 | ICTによる伴走型コンサルティング (2) 保育研修における課題 | 岩手県立大学 聖和学園短期大学 群馬大学教育学研究科 | ○ 井 上 孝 之 上 村 裕 樹 音 山 若 穂 |
| P-C-1-09 | 保育現場における役職者の役割移行における葛藤 | 白梅大学大学院 | ○ 平 原 藍 |
| P-C-1-10 | 職場環境と園内研修の見直しによる、職員の保育の質の向上への意識の変容 | 社会福祉法人榊会レイモンド田無保育園 | ○ 花 原 眞理子 |

P-C-2 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解）など2

5月15日（日） 11:00～11:30

ポスター会場

座長：河 合 優 子・西 隆 太 朗

| | | | |
|----------|--|--|--|
| P-C-2-01 | 子ども主体の行事をつくるプロセス（2） —A 園における運動会のエピソード分析から— | 日本女子体育大学 東洋大学 日本女子体育大学附属みどり幼稚園 日本女子体育大学附属みどり幼稚園 | ○ 桐 川 敦 子 中 道 直 子 大 平 春 美 山 本 幸 |
| P-C-2-02 | 実習生が捉えた保育における子どもの参画 —幼稚園と保育園の比較に着目して— | 元・愛知淑徳大学大学院教育学研究科修士課程 | ○ 岩 田 百合香 |
| P-C-2-03 | 位置測位システムを活用した保育者の幼児理解 への支援方法の開発 | 神戸大学大学院 神戸大学附属幼稚園 神戸大学附属幼稚園 神戸大学附属幼稚園 神戸大学附属幼稚園 神戸大学附属幼稚園 神戸大学附属幼稚園 神戸大学附属幼稚園 | ○ 北 野 幸 子 田 中 孝 尚 浅 原 麻 美 吉 田 紘 子 川 東 佳 歩 久 保 裕 長 野 萌 映 吉 田 さくら |
| P-C-2-04 | 異年齢保育における子どもの育ちと保育者のか かわり(2) —遊びの多様性とその展開 | ノートルダム清心女子大学 ノートルダム清心女子大学 | ○ 伊 藤 美保子 西 隆太郎 |
| P-C-2-05 | 0-5 歳児の異年齢保育における関係性の考察 | 社会福祉法人東香会 上町しぜんの国保育園 | ○ 阿 部 仁 美 |
| P-C-2-06 | イタリア、ピストイア市の保育実践から 0～2 歳 の教育を考える（5）共鳴箱としての保育者 | 十文字学園女子大学 十文字学園女子大学 十文字学園女子大学 | ○ 上垣内 伸 子 向 井 美 穂 星 三和子 |
| P-C-2-07 | 子ども一人一人のこだわりが世界を広げる保育 の実践 —そのプロセスをドキュメンテーションで検証する— | 東京家政大学短期大学部 宮前幼稚園・宮前おひさまこども園 | ○ 佐 藤 康 富 亀ヶ谷 元 譲 |
| P-C-2-08 | 幼稚園の「森にいる空想上の存在」に対する幼 児の意味付け | 広島大学附属幼稚園 愛知教育大学大学院生 愛知学泉大学 | ○ 渡 邊 拓 真 横 井 良 憲 渡 辺 ユリナ |
| P-C-2-09 | 保育者が「子どもの人権を尊重できていない」 事例から捉える「人権」 | 名古屋市立おりべ幼稚園 | ○ 磯 村 正 樹 |
| P-C-2-10 | 保育における「子ども理解」の枠組と解釈の変 遷 | 岡崎女子短期大学 愛知教育大学 | ○ 木 田 千 晶 鈴 木 裕 子 |
| P-C-2-11 | 子ども哲学（p4c） ～小学校就学前 2 年間の取り組み～ | 神戸常盤大学 姫路市立城西幼稚園 | ○ 多 田 琴 子 坂 根 早 織 |
| P-C-2-12 | 一人一人の良さを生かした集団形成の研究動向 | 愛知教育大学 | ○ 加 藤 千 奈 |
| P-C-2-13 | 中堅保育者における「子ども理解」に変化をも たらす契機について | 和洋女子大学 | ○ 佐 藤 有 香 |
| P-C-2-14 | 生活基盤型保育における協働志向性の育ちに関 する研究（2） —民主的な価値観に注目して— | 有明教育芸術短期大学 | ○ 菊 地 大 介 |

P-C-3 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現）など5

5月15日（日） 11:00～11:30

ポスター会場

座長：岩 田 恵 子・水 谷 誠 孝

| | | | |
|----------|--|--|--|
| P-C-3-01 | 保育士から見た保育実習生の手あそびについて —保育士へのアンケート調査から— | 社会福祉法人野並福祉会 愛知県立大学（非） | ○ 西 出 悦 子 原 友 美 |
| P-C-3-02 | 造形遊びの経験と遊びへの積極性に関する一考察 | 福山平成大学 | ○ 佐 伯 岳 春 |
| P-C-3-03 | 音に着目した遊びの展開に関する研究動向 | 拓殖大学北海道短期大学 | ○ 永 津 利 衣 |
| P-C-3-04 | 現場を見据えた音楽表現の授業実践による試み | 江戸川学園おおたかの森専門学校 | ○ 櫻 井 知 子 |
| P-C-3-05 | 保育者養成校における歌唱指導に関する一考察 (5) —コロナ禍での歌唱指導について— | 十文字学園女子大学 | ○ 薮 崎 伸一郎 |
| P-C-3-06 | 幼児の主体性を育む表現活動について —身近な素材を用いた「おとをつくろう」の活動から— | 名古屋柳城女子大学 名古屋柳城短期大学附属三好丘聖マリーガレット幼稚園 | ○ 三 輪 雅 美 北 野 明 子 |
| P-C-3-07 | 年少児の情動調整の変容プロセスに関する研究 —子どもと保育者の関係性に着目して— | 名古屋市立大学研究員 | ○ 勝 野 愛 子 |
| P-C-3-08 | 保育現場における図鑑・科学絵本の活用実態に関する研究 | 白梅学園大学 | ○ 仲 本 美 央 |
| P-C-3-09 | 幼児期の子どもの生活習慣と健康に関する研究 | 近畿大学九州短期大学 近畿大学九州短期大学 近畿大学九州短期大学 近畿大学九州短期大学 近畿大学九州短期大学 近畿大学九州短期大学 | ○ 堀 田 亮 垂 見 直 樹 高 木 義 栄 橋 本 翼 上 田 浩 平 原 口 喜 充 |
| P-C-3-10 | 子どもとはぐくむ表現活動（12） | 金沢めぐみ幼稚園 | ○ 多保田 治 江 |
| P-C-3-11 | 保育者養成における栽培活動について | 聖和学園短期大学 | ○ 宮 本 美和子 |
| P-C-3-12 | 好きな遊びの時間における幼児のオノマトペ発話 —表出状況の整理から— | | ○ 秋 國 郁 |
| P-C-3-13 | 即興的音楽表現活動における劇的視点からのアプローチ —奏者が“演じる”ことによって生まれる音楽的展開— | 愛知教育大学 名古屋学芸大学 名古屋学芸大学 | ○ 麓 洋 介 水 谷 誠 孝 岡 田 暁 子 |

P-C-4 児童文化・児童文化財など

5月15日（日） 11:00～11:30

ポスター会場

座長：清 水 陽 子・柿 沼 芳 枝

| | | | |
|----------|--|---|---|
| P-C-4-01 | 児童文化財の保育における効用に関する考察 4 —幼年文学を中心に— | 国立音楽大学 | ○ 八 幡 真由美 |
| P-C-4-02 | 豊かな感性と表現を育てるための教材研究 ～紙芝居づくりをとおして～ | 群馬医療福祉大学 | ○ 岡 部 千 尋 |
| P-C-4-03 | 保育環境における「手芸」の考察 | 小田原短期大学 | ○ 水 野 道 子 |
| P-C-4-04 | 幼児のスマートフォン遊びと生活習慣及び依存 傾向との関係 | 鳴門教育大学 | ○ 湯 地 宏 樹 |
| P-C-4-05 | パネルシアターの教材特性に関する検討（2） —“戻り”の特性を生かした展開— | 聖学院大学 東京家政大学 | ○ 田 中 正 代 柿 沼 芳 枝 |
| P-C-4-06 | 子どもが取り込む絵本の世界について —保育者の気づきからの分析— | 別府大学短期大学部初等教育科 | ○ 大 元 千 種 |
| P-C-4-07 | 土着文化・信仰と保育の関連性：沖縄の保育施 設におけるシーサーの調査 | 共立女子大学 コスモストーリー保育園 コスモストーリー保育園 | ○ 境 愛一郎 天 願 順 優 宇都宮 貴 之 |
| P-C-4-08 | （続報）保育現場に流布する「三びきのこぶた」 のルーツに関する一考察 —川崎大治の2つの紙芝居を中心に— | 名古屋女子大学 | ○ 村 田 あゆみ |
| P-C-4-09 | 保育者による自由研究：保育の時間性・主体性を 問い直す | 認定こども園 清心幼稚園 | ○ 栗 原 啓 祥 |
| P-C-4-10 | 大正期の子どもの歌に関する研究 | 帝京科学大学 | ○ 飯 泉 祐美子 |
| P-C-4-11 | 園内で行われる親子の絵本読みに関する一考察 | 大阪健康福祉短期大学 | ○ 大内田 真 理 |
| P-C-4-12 | 読み聞かせボランティアが抱える困難さとその 支援 —質問紙による実態調査を通して— | 大阪信愛学院大学 彰栄保育福祉専門学校 奈良学園大学 倉敷市立短期大学 中部大学 清和大学短期大学部 静岡産業大学 | ○ 谷 原 舞 野見山 直 子 岡 野 聡 子 小久保 圭一郎 中 島 真 吾 加 藤 緑 田 中 卓 也 |
| P-C-4-13 | 保育における紙芝居の今日的意義と可能性（3） —保育学生の経験と理解— | 実践女子大学 | ○ 松 田 純 子 |

P-C-5 保育者の資質能力・保育者の専門性など 5

5月15日（日） 11:00～11:30

ポスター会場

座長：高 嶋 景 子・村 上 博 文

| | | | |
|----------|---|---|--|
| P-C-5-01 | 保育者の成長契機の研究 —オンラインでの保育実践を開く営みへの参加経験— | | ○ 相 馬 靖 明 |
| P-C-5-02 | 学童保育（放課後児童健全育成事業）における、 行動に気がかりがある子どもの保育コンサル テーションの実践 —エピソード分析による保育者の子ども理解と 支援行動の変容— | 山梨県立大学 | ○ 阿 部 美穂子 |
| P-C-5-03 | 保育者の食育実践力評価の視点（3） | 相愛大学 相愛大学 大阪人間科学大学 認定こども園湊川短期大学附属北摂中央幼稚園 | ○ 進 藤 容 子 中 井 清津子 横 島 三和子 原 口 富美子 |
| P-C-5-04 | 生涯現役の道を選択した保育者の語りの分析： 保育者としてのキャリア形成やキャリア展望の 観点から | 福井大学大学院 | ○ 宮 本 雄 太 |
| P-C-5-05 | 保育者が記録に書きとめたいと思う時の感覚 | 広島都市学園大学 認定こども園武庫愛の園幼稚園 佼成育子園 | ○ 本 岡 美保子 濱 名 潔 水 野 佳津子 |
| P-C-5-06 | 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を指標 にした学生の体験的な学びⅡ ～実習記録における「印象に残ったこと」から～ | 植草学園短期大学 植草学園短期大学 植草学園大学 | ○ 松 原 敬 子 植 草 一 世 金 子 功 一 |
| P-C-5-07 | 保育者が意識する幼児教育における深い学びと は（Ⅲ） —深い学びと捉えた事例の分析から— | 相愛大学 滋賀大学 | ○ 中 井 清津子 菅 眞佐子 |
| P-C-5-08 | 保育者養成課程における表現教育に関する研究 （11） | 千葉大学 國學院大學 | ○ 駒 久美子 島 田 由紀子 |
| P-C-5-09 | 保育における見守りと声かけの葛藤 —自己語りから— | 富士市立松野こども園 白梅学園大学 | ○ 石 川 智 子 村 上 博 文 |
| P-C-5-10 | 保育者による保育内容の理解と評価Ⅲ ～10の姿を基にした保育の省察を通して～ | 東京家政大学 立正大学 愛隣幼稚園 | ○ 鈴 木 彬 子 高 橋 洋 行 浅 井 広 |
| P-C-5-11 | 幼児教育における劇活動の評価と課題2 —「劇あそび」の実践に着目して— | 東京家政大学 | ○ 花 輪 充 |

P-C-6 保育者の資質能力・保育者の専門性など 6

5月15日（日） 11:00～11:30

ポスター会場

座長：平 沼 博 将・石 倉 卓 子

| | | | |
|----------|---|--|--|
| P-C-6-01 | 北米における未就学児のトラウマ・インフォ ムド・ケアの考察2 —最新の研究・実践の紹介— | 子育て支援ソーシャルワーク研究所 | ○ 加 藤 夕 貴 |
| P-C-6-02 | 同僚性形成に向けた取り組みの変化と保育者の 葛藤 —コロナ禍前後の比較より— | 純真短期大学 | ○ 高 口 知 浩 |
| P-C-6-03 | 初期キャリアにある障害児支援者を対象とした 研修プログラムの開発 | 山口県立大学社会福祉学部 | ○ 藤 田 久 美 |
| P-C-6-04 | 自治体における探究型研修の実施とその評価Ⅱ | 香川大学 香川大学 香川大学 香川大学 | ○ 片 岡 元 子 松 井 剛 太 松 本 博 雄 吉 川 暢 子 |
| P-C-6-05 | 0歳児クラスにおける保育の質の探索的検討 —保育の環境と保育者のかかわりから— | 金沢大学 東京大学 千葉大学 大阪教育大学 宮城教育大学 香川大学 九州産業大学 | ○ 滝 口 圭 子 野 澤 祥 子 淀 川 裕 美 小 崎 恭 弘 香曾我部 琢 松 井 剛 太 渡 邊 由 恵 |
| P-C-6-06 | コロナ禍における子どもの身体産生物に対する 好悪感情 | 松本短期大学 | ○ 山 藤 宏 子 |
| P-C-6-07 | 新たな園内研修への取り組み ～保育者等の主体性の尊重と組織力 | 湘南ケアアンドエデュケーション研究所 学校法人 こどもむら | ○ 増 田 まゆみ 柿 沼 平太郎 |
| P-C-6-08 | 乳幼児の重大事故に関するリスク認知と対応状 況 —保護者と保育者を対象とした調査にもとづいて— | 京都府立大学 大阪電気通信大学 | ○ 服 部 敬 子 平 沼 博 将 |
| P-C-6-09 | 園庭評価指標を活用した園内研修の試み | 東京家政学院大学 富山国際大学 宮城教育大学 富山国際大学 | ○ 中 田 範 子 石 倉 卓 子 香曾我部 琢 竹 田 好 美 |
| P-C-6-10 | 保育のリフレクションの継続的な取り組みがも たらす保育者の変容を見出す試み | 大妻女子大学 京都女子大学 かほる保育園 羽茂こども園 星の子保育園 | ○ 坂 田 哲 人 村 井 尚 子 落 合 陽 子 松 野 敬 中 西 淳 也 |
| P-C-6-11 | 保育者養成における情報機器操作に関する一考 察 | 聖和学園短期大学 聖和学園短期大学 | ○ 石 森 真由子 山 本 信 |

P-C-7 障害児保育・障害のある子どもを含む保育 1

5月15日（日） 11:00～11:30

ポスター会場

座長：勝 浦 眞 仁・茂 井 万里絵

| | | | |
|----------|---|---|---|
| P-C-7-01 | 衝動・多動傾向の子どもに関する保育者に対する研修プログラム内容の構成 | 東京家政学院大学 筑波大学 | ○ 和 田 美 香 水 野 智 美 |
| P-C-7-02 | インクルーシブな保育実践における ICF-CY の活用 ^⑫ | 東京家政大学・東京家政大学短期大学部 文京学院大学 人間学部 児童発達学科 | ○ 石 川 昌 紀 茂 井 万里絵 |
| P-C-7-03 | 保育現場における巡回相談の事前準備に関する調査 —外部専門家に伝える情報に着目して— | 星美学園短期大学 | ○ 遠 藤 愛 |
| P-C-7-04 | 日本におけるインクルーシブ保育に関わる制度・政策の課題と展望 —障害児と家族の生きづらさ解消を目指して— | 相愛大学 | ○ 直 島 正 樹 |
| P-C-7-05 | 統合保育からインクルーシブ保育へ —協働的あそびにおける支援の考察— | 愛知東邦大学 名古屋市立大学 | ○ 那 須 とよみ 酒 井 教 子 |
| P-C-7-06 | 保育者が捉える発達が気になる幼児の笑いに関する研究 | 帝京大学 柚木武蔵野幼稚園 | ○ 佐々木 沙和子 小 林 千 鶴 |
| P-C-7-07 | 就学移行期における障害のある子どもの保護者が併行通園先に求める支援 —保護者のインタビューを通して— | 神戸元町こども専門学校 神戸常盤大学教育学部こども教育学科 神戸常盤大学教育学部こども教育学科 頌栄短期大学 | ○ 川 島 直 子 橋 本 好 市 大 城 亜 水 渡 邊 恵梨佳 |
| P-C-7-08 | 新任保育者が心理専門職と協働しながら特別支援教育に取り組む意義 | 大阪府キンダーカウンセラー 近畿大学九州短期大学 大阪府キンダーカウンセラー 大阪府キンダーカウンセラー 富山短期大学 | ○ 浅 井 映美子 原 口 喜 充 太 田 千 景 矢 本 洋 子 嶋 野 珠 生 |
| P-C-7-09 | 「障害のある子どもを持つ親への支援に関する研究（2）」 ～母親の障害受容過程に着目した質的調査の分析～ | 西九州大学大学院生 西九州大学大学院 | ○ 坂 元 美 帆 田 中 麻 里 |
| P-C-7-10 | 障がいのある子どもを育てる保護者が保育に求める内容に関する研究 | 富山短期大学 | ○ 明 柴 聰 史 |
| P-C-7-11 | 韓国の統合保育における障がい児と健常児のかかわりと保育士の支援の在り方 | 創価大学大学院 | ○ 安 世 羅 |
| P-C-7-12 | 障害のある幼児に対する情動を軸とした活動参加と移行支援に関する予備的検討 | 千葉大学教育学部 | ○ 真 鍋 健 |
| P-C-7-13 | 医療型重症心身障害児入所施設で勤務する保育士が認識する業務内容、遣り甲斐、困難感の特徴 | 埼玉医科大学 東洋大学 | ○ 川 合 美 奈 内 田 千 春 |

P-C-8 保育専門職の養成など 5

5月15日（日） 11:00～11:30

ポスター会場

座長：中 川 智 之・江 津 和 也

| | | | |
|----------|---|---|--|
| P-C-8-01 | 幼児期における自然環境との関わりに関する一考察 —戦前に発行された「観察の実際」の記述から— | 神戸常盤大学 | ○ 大 森 雅 人 |
| P-C-8-02 | 持続可能な開発のための教育を目指した学生指導 | 鈴鹿大学短期大学部 | ○ 田 中 裕 子 |
| P-C-8-03 | 園と大学の連携協働による実習教育内容の検討 ～観察の在り方を中心に～ | 神戸大学附属幼稚園 神戸大学 神戸大学附属幼稚園 神戸大学附属幼稚園 神戸大学附属幼稚園 神戸大学附属幼稚園 神戸大学附属幼稚園 神戸大学附属幼稚園 | ○ 川 東 佳 歩 北 野 幸 子 田 中 孝 尚 浅 原 麻 美 吉 田 紘 子 久 保 裕 吉 田 さくら 長 野 萌 映 |
| P-C-8-04 | 保育所実習における経験から見てきた学生の乳児保育観 | つくば国際短期大学 | ○ 三 宅 美千代 |
| P-C-8-05 | 保育専門職を目指す配慮の必要な学生の学外実習における困難事例の検討 | フェリシアこども短期大学 お茶の水女子大学大学院 | ○ 中 村 麻衣子 松 田 こずえ |
| P-C-8-06 | 障害者施設における保育実習の意味に関する研究 | こども教育宝仙大学 淑徳大学 | ○ 松 倉 佳 子 江 津 和 也 |
| P-C-8-07 | 〈実践報告〉保育士養成課程（短期大学）における自炊塾の取り組み | 大阪城南女子短期大学 | ○ 丸 目 満 弓 |
| P-C-8-08 | 家政福祉学を基盤とした保育士養成の取り組み —コース設置3年の報告と展望— | 和洋女子大学 和洋女子大学 和洋女子大学 和洋女子大学 和洋女子大学 和洋女子大学 和洋女子大学 | ○ 弓削田 綾 乃 丸 谷 充 子 佐 藤 有 香 大 沼 良 子 二 宮 祐 子 池 谷 真梨子 飯 村 愛 |
| P-C-8-09 | オンラインによる公開保育の試み | （学）緑ヶ丘学園 東京家政大学 | ○ 難 波 忠 弘 佐 藤 康 富 |
| P-C-8-10 | 保育実習の代替としての「オンライン保育実習」の効果と課題 | 秋草学園短期大学 秋草学園短期大学 秋草学園短期大学 秋草学園短期大学 秋草学園短期大学 | ○ 志濃原 亜 美 浅 井 拓久也 小 口 偉 鳥 海 弘 子 北 澤 明 子 |
| P-C-8-11 | 保育実習指導における手作り教材を通した学生の学びに関する一考察 ～模擬保育後の振り返りに焦点を当てて～ | 東京未来大学 東京未来大学 大妻女子大学 | ○ 浅 井 かおり 北 濱 千枝子 岩 井 真 澄 |
| P-C-8-12 | 保育者養成課程における「子どもの権利条約」の意義と位置を考える —保育者養成課程のテキストに見る同条約の取り扱いの分析から— | フェリシアこども短期大学 十文字学園女子大学 フェリシアこども短期大学 | ○ 岡 本 弘 子 矢 野 景 子 金 田 利 子 |

P-C-9 保育専門職の養成など 6

5月15日（日） 11:00～11:30

ポスター会場

座長：日 浦 直 美・弘 田 陽 介

| | | | |
|----------|--|--|--|
| P-C-9-01 | 実習のふりかえりに関する一考察 ～保育実習・教育実習終了学生のロールレタリングから～ | 福岡こども短期大学 | ○ 空 閑 ゆき子 古 野 愛 子 |
| P-C-9-02 | 保育士の専門性に関する実習を通した学生の認識 その2 | 東洋英和女学院大学 相模女子大学 | ○ 金 森 三 枝 大和田 明 見 |
| P-C-9-03 | 子どもの歌の演奏に必要な運指技術の検討 —旋律部分の分析をととして— | 京都文教短期大学（非常勤講師） | ○ 松 井 萌 |
| P-C-9-04 | ノルウェーの保育における遊びと「民主的であること」の関係についての一考察 —保育者養成の視点から— | ユマニテク短期大学 | ○ 伊 藤 喬 治 |
| P-C-9-05 | 保育科学生の学内教育実習における学習内容の検討 —実習記録の分析— | 沖縄キリスト教短期大学 沖縄キリスト教短期大学 沖縄キリスト教短期大学 沖縄キリスト教短期大学 | ○ 平 中 尚 子 照 屋 建 太 佐久本 邦 華 大 城 り え |
| P-C-9-06 | コロナ禍で保育学生が抱く不安に関する研究 —実習経験を踏まえた児童文学の授業実践に向けて— | 豊岡短期大学 豊岡短期大学 札幌大谷大学短期大学部 | ○ 渡 邊 舞 井 口 美 和 横 田 由紀子 |
| P-C-9-07 | 学びの多い実習の取り組みに向けて —実習生の困り感から見える養成校と実習園の課題— | 長野県立大学 | ○ 渡 邊 望 |
| P-C-9-08 | 保育者養成校で学ぶ学生の食・生活習慣の実態から食育を考える | 愛知文教女子短期大学 | ○ 小野内 初 美 |
| P-C-9-09 | 保育者養成における劇的活動の実践と考察 | 上田女子短期大学 | ○ 佐 藤 厚 |
| P-C-9-10 | ICT 導入と保育の質向上の関連についての一考察 | 大阪城南女子短期大学 福山市立大学 大阪城南女子短期大学 | ○ 中 津 功一朗 弘 田 陽 介 玉 川 朝 子 |
| P-C-9-11 | レポート分析を通してみる保育学生の文書能力の諸相 ～既有知識と言葉がけに着目して～ | 奈良保育学院 奈良保育学院 | ○ 後 藤 紀 子 大 竹 留 美 |
| P-C-9-12 | 保育者養成校における指導案の作成 —「現在の子どもの姿」に着目して— | 目白大学 目白大学 | ○ 西 田 希 佐 藤 牧 子 |

P-C-10 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など3

5月15日(日) 11:00~11:30

ポスター会場

座長：若 月 芳 浩・大 森 弘 子

| | | | |
|-----------|--|--------------------------------------|--|
| P-C-10-01 | 幼年期の子どもをうけもつ父親に対する地域の 子育て支援の現状と課題 | 兵庫教育大学大学院生 兵庫教育大学大学院 | ○ 藤 井 真 人 水 落 洋 志 |
| P-C-10-02 | 小児慢性特定疾病児を受け持つ養育者の心の変 容 | 国立大学法人兵庫教育大学院 国立大学法人兵庫教育大学院 | ○ 橘 高 真紀子 水 落 洋 志 |
| P-C-10-03 | 岡山市就学前親子の居場所づくりの現状と課題 (その2) | 新見公立大学健康科学部地域福祉学科 | ○ 八重樫 牧 子 |
| P-C-10-04 | 自粛生活下における家庭での子どもの生活と遊 びに関する事例的検討 | 環太平洋大学(非常勤) 東京女子大学 | ○ 森 美佐紀 平 工 志 穂 |
| P-C-10-05 | 子育て支援のとりくみ ～子育てサロン開設・園庭開放の在り方に着目して～ | 広島大学附属幼稚園 | ○ 掛 志 穂 |
| P-C-10-06 | 「木育」を取り入れた音楽アウトリーチ活動の試 み(1) —保育学生による親子対象のワークショップの 実践をもとに— | 高田短期大学 | ○ 山 本 敦 子 |
| P-C-10-07 | 子育て支援室における支援の質を高めるための 「利用者カルテ」の活用 | 聖心女子大学 聖心女子大学 聖心女子大学 聖心女子大学 | ○ 牧 野 順 子 河 邊 貴 子 矢 尾 千比呂 青 山 理 恵 |
| P-C-10-08 | ペアレンティングに関する保護者のニーズ | 大阪成蹊大学 | ○ 高 尾 淳 子 |
| P-C-10-09 | 大学間の連携・協働的な実践としての子ども元 気プロジェクト2021 —ポストコロナ時代における共創関係の構築をめざして— | 文教大学 十文字学園女子大学 十文字学園女子大学 | ○ 宮 野 周 鈴 木 康 弘 藪 崎 伸一郎 |
| P-C-10-10 | 孫育ての現状と課題(3) —祖父母世代の孫育てに対する態度— | 愛知みずほ短期大学 高田短期大学 鈴鹿大学 | ○ 杉 山 佳菜子 榊 原 尉津子 小 川 真由子 |
| P-C-10-11 | 外出自粛期間中における家庭での伝承遊びにつ いて | 東京福祉大学 | ○ 関 容 子 |
| P-C-10-12 | 多様化する子育て支援のあり方について —子育て支援の現状を探る— | 奈良学園大学 奈良学園大学 | ○ 間井谷 容 代 高 橋 千香子 |

P-C-11 保育制度・保育行財政など&児童福祉・児童の人権など

5月15日（日） 11:00～11:30

ポスター会場

座長：今 津 尚 子・齋 藤 有

| | | | |
|-----------|---|---|--|
| P-C-11-01 | 保育者からみた保護者と子どもの変化（続報） | 親心を育む会 保育の安全研究・教育センター 親心を育む会 親心を育む会 親心を育む会 親心を育む会 親心を育む会 親心を育む会 | ○ 高 木 早智子 掛 札 逸 美 高 田 綾 大 谷 光 代 浅 川 弘 子 保 泉 裕 美 滝 本 真理子 園 部 浅 子 |
| P-C-11-02 | 1963 年「幼稚園と保育所との関係について（通知）」の政策的意図 | お茶の水女子大学 | ○ 松 島 のり子 |
| P-C-11-03 | 公立保育所保育士が担う多様な保育ニーズと労働実態からみる職場改善・負担軽減に関する一考察 —語りから見えてきた立場を超えた職員間の協働— | 福岡県立大学 福岡県立大学 | ○ 森 山 也 子 伊 勢 慎 |
| P-C-11-04 | 保育所、オリニジップ（韓国）の第三者評価制度における日韓比較 | 日本文理大学 | ○ 古 野 愛 子 |
| P-C-11-05 | 千葉県市川市の認定こども園普及に関する行政の取り組みに関する研究 | 聖徳大学 大学院 | ○ 菊 地 正 登 |
| P-C-11-06 | 外国につながるのある子どもと社会的養育（2） —母子生活支援施設の調査に基づいて— | 相愛大学 静岡県立大学短期大学部 | ○ 松 島 京 松 浦 崇 |
| P-C-11-07 | ブラジルにおける、市内初めての保育所の卒園生のその後からみる、保育所の果たす役割を考える | （特非）光の子どもたちの会 | ○ 鈴 木 真由美 |
| P-C-11-08 | 冒険遊び場の運営者と利用者（未就学児）を対象とした横断的調査 —子どもの遊ぶ環境の課題の分析 | 八洲学園大学 千葉こども専門学校 | ○ 小 関 慶 太 |
| P-C-11-09 | 児童養護施設における継続的な養育に向けた方策の検討 | 名古屋芸術大学 岡崎女子大学 | ○ 吉 村 美由紀 吉 村 譲 |
| P-C-11-10 | 母子生活支援施設の支援に関する研究の動向 | 白鷗大学 こども教育宝仙大学 | ○ 佐 藤 ちひろ 松 倉 佳 子 |
| P-C-11-11 | 子どもの権利をめぐる OMEP 日本委員会の変遷と取り組み —日本保育学会発表内容を中心に— | 十文字学園女子大学 フェシリアこども短期大学 静岡大学名誉教授 埼玉学園大学 松本短期大学 白梅学園短期大学 田園調布学園大学 尚綱学院大学名誉教授 | ○ 矢 野 景 子 岡 本 弘 子 金 田 利 子 川喜田 晶 代 鈴 木 美枝子 瀧 口 優 内 藤 知 美 野 呂 ア イ |
| P-C-11-12 | LMS と知識構成型ジグソー法を活用した人権理解教育の授業展開 | 東京家政大学 | ○ 金 城 悟 |

ポスター発表 D

P-D-1 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解）など 3

5月15日（日） 13:45～14:15

ポスター会場

座長：田代幸代・溝邊和成

| | | | |
|----------|---|---|--|
| P-D-1-01 | 「保育課題絵本」の活用提案 ～食に関する絵本をととして Part2～ | （福）鶴坂福祉会 富山市立保育所 富山市立保育所 | ○ 村崎千津子 大村純子 伊澤路子 |
| P-D-1-02 | 幼児の遊びや友だち関係において立ち現れる思 いや考えの生成過程に関する一考察 —4歳児の相互主体的な姿の事例検討から— | 公立認定こども園 | ○ 網島大輔 |
| P-D-1-03 | 活動への意欲を高める導入に関する一考察 | 愛国学園保育専門学校 愛国学園保育専門学校 | ○ 石井久美子 船田鈴子 |
| P-D-1-04 | 3歳児の1年間の遊びと関係の変容 —関係活動モデルによる分析を通して— | 高松市公立こども園 大阪総合保育大学大学院生 | ○ 志食陽平 |
| P-D-1-05 | 幼児の集中・没頭する姿の変容 | 国立教育政策研究所 お茶の水女子大学附属幼稚園 お茶の水女子大学附属幼稚園 | ○ 掘越紀香 杉浦真紀子 佐々木麻美 |
| P-D-1-06 | 3歳未満児のための保育の環境構成に関する研究 | 吉美風の子保育園 | ○ 彦坂美希 |
| P-D-1-07 | 科学的な見方や考え方の芽生えを培う保育実践 の試み —STEAM教育を志向する保育者のかかわりに着目して— | 大阪市立味原小学校 兵庫教育大学 学校法人大宮学園大宮幼稚園 大阪市立東桃谷小学校 大阪市立古市小学校 | ○ 岩本哲也 溝邊和成 流田絵美 坂田紘子 平川晃基 |
| P-D-1-08 | 幼稚園での保育場面における保育者及び子ども のタブレット活用調査 | 大阪総合保育大学 | ○ 松山由美子 |
| P-D-1-09 | 子どもの視点を活用した保育評価の試み | 富山短期大学 | ○ 石動瑞代 |
| P-D-1-10 | 子どもが「ちょうどよい」を獲得するプロセス に関する一考察 —3歳児の試行錯誤する姿に焦点をあてて— | 田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科 | ○ 舟生直美 |
| P-D-1-11 | 「子ども同士が繋がっていく為の保育者の関わり」 ～友との心地よい経験を積み重ねる～ | 葛飾こどもの園幼稚園 葛飾こどもの園幼稚園 葛飾こどもの園幼稚園 千葉経済大学短期大学部 | ○ 山崎優 加藤美世子 小出馨 浅川蘭子 |
| P-D-1-12 | 保育の自覚化実践研究Ⅷ —管理職の立場から— | 姫路市城西幼稚園 | ○ 坂根早織 多田琴子 |
| P-D-1-13 | インクルーシブ保育の理念を活かした保育の方法 —A県のこども園での実践から課題をみつける— | 群馬医療福祉大学 | ○ 吉澤幸 |

P-D-2 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現）など6

5月15日（日） 13:45～14:15

ポスター会場

座長：原 孝 成・野 上 俊 一

| | | | |
|----------|---|---|--|
| P-D-2-01 | 学生の言葉の表現力の育ち① ～言葉遊びの表現活動を通して～ | 中村学園大学 | ○ 野 中 千 都 |
| P-D-2-02 | 子育て支援団体における自然体験活動と自然遊びに対する意識の変化についての一考察 | 岡崎女子短期大学 | ○ 奥 蘭 知 明 |
| P-D-2-03 | 5歳児の集団遊びにおける自己状況の表出 | 中村学園大学大学院教育学研究科 中村学園大学教育学部 | ○ 池 上 奈 摘 野 上 俊 一 |
| P-D-2-04 | 幼児の声を聴きとるⅡ —手紙の内容とやりとりの発展から— | 香川大学 香川大学 香川大学 香川大学 | ○ 松 本 博 雄 片 岡 元 子 吉 川 暢 子 藤 元 恭 子 |
| P-D-2-05 | 幼児の規範意識の芽生えについての考察 —友だちに「注意」する行為に着目して— | 清和大学短期大学部 | ○ 加 藤 緑 |
| P-D-2-06 | 足指動作反応と足指筋力の関係性 —2020年と2021年の比較— | （福）フィロス 名古屋市立大学大学院人間文化研究科 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 | ○ 田 淑 姫 上 田 敏 丈 水 落 洋 志 |
| P-D-2-07 | 音楽表現に対する保育者と小学校教諭の「豊か」の捉え方 | 愛知学泉大学 愛知学泉大学 | ○ 渡 辺 ユリナ 田 村 佳 世 |
| P-D-2-08 | 保育者養成における植物栽培活動の教育的意義とその効果についてⅢ —コロナ禍におけるオンライン授業での取り組み— | 群馬医療福祉大学 | ○ 塚 越 亜希子 |
| P-D-2-09 | SDGsとこどもの歌の関連性 ～領域表現（音楽）の可能性～ | 鈴鹿大学短期大学部 | ○ みやざき 美 栄 |
| P-D-2-10 | 子どもと楽器や音具との関わり —「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を視点として— | 國學院大學栃木短期大学 認定こども園國學院大學栃木二杉幼稚園 認定こども園國學院大學栃木二杉幼稚園 | ○ 早 川 富美子 中 山 年 江 手呂内 幸 代 |
| P-D-2-11 | 事例分析を通してみる保育内容「環境」の学びの成果 | 奈良保育学院 奈良保育学院 | ○ 大 竹 留 美 後 藤 紀 子 |
| P-D-2-12 | 子どもの「表現」を捉える保育学生の視点の分析 —保育者養成課程における領域「表現」に関する授業の充実を目指して— | 駒沢女子短期大学 東北大学 | ○ 佐 藤 晶 子 宮 本 友 弘 |
| P-D-2-13 | 絵本の読み聞かせ演習における学習効果の検討 —保育学生の演習授業を対象として— | 聖徳大学幼児教育専門学校 | ○ 星 野 美穂子 |

P-D-3 保育内容Ⅱ（健康・人間関係・環境・言葉・表現）など7

5月15日（日） 13:45～14:15

ポスター会場

座長：田 村 隆 宏・林 牧 子

| | | | |
|----------|---|------------------------------------|--------------------|
| P-D-3-01 | 領域「表現」に関する研究 —大場牧夫の実践に着目して— | 北翔大学短期大学部 | ○ 清 水 桂 子 |
| P-D-3-02 | システムアプローチから見る個々の自己発揮と 保育者の在り方 | 愛知教育大学 教職大学院 愛知教育大学 | ○ 畔 柳 佳 奈 林 牧 子 |
| P-D-3-03 | 子どもの表現活動における育ちのプロセス | 認定こども園 立花愛の園幼稚園 認定こども園 武庫愛の園幼稚園 | ○ 濱 名 浩 濱 名 潔 |
| P-D-3-04 | 現行の幼稚園教育要領から読み解く劇あそびの 意義 | 東京家政大学 | ○ 尾 根 秀 樹 |
| P-D-3-05 | 自然と親しむ表現活動「風」を題材として | 名古屋女子大学短期大学部 | ○ 河 合 玲 子 |
| P-D-3-06 | 焼成を取り扱う造形表現活動からの保育者養成 課程の学生の学び —七輪陶芸の実践を通して— | 岡崎女子短期大学 | ○ 本 田 郁 子 |
| P-D-3-07 | 幼稚園4歳児におけるクラス替えに伴う環境移 行への対処とそれに対する保育者の援助 | 関西学院大学 日本学術振興会特別研究員 PD | ○ 松 原 未 季 |
| P-D-3-08 | 伝え合い共につくる —5歳児「お化け屋敷」ごっこから見える子ども の創造的行為の過程— | 田園調布学園大学 | ○ 新 井 貴 子 |
| P-D-3-09 | 領域「言葉」における幼保小接続の課題 —小学校教諭へのインタビューからの一考察— | 愛国学園保育専門学校 | ○ 新 海 智 子 |
| P-D-3-10 | 保育における環境のとらえ方に関する一考察 ～保育内容の指導法「環境」の授業を通して～ | 十文字学園女子大学 | ○ 曾 野 麻 紀 |
| P-D-3-11 | 保育専攻学生の幼少期における昆虫との関わり が人間形成に及ぼす影響 —「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や保 育内容「環境」に着目して— | 神戸女子短期大学 | ○ 川 村 高 弘 |
| P-D-3-12 | 預かり保育における保育内容「環境」の検討 —保育日誌に着目して— | 中村学園大学 | ○ 山 田 朋 子 |
| P-D-3-13 | 保育者養成における学生の身体表現に関する学 びの深まり | 東京成徳大学 | ○ 羽 岡 佳 子 |

P-D-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など 7

5月15日（日） 13:45～14:15

ポスター会場

座長：岩 立 京 子・松 永 愛 子

| | | | |
|----------|---|--|---|
| P-D-4-01 | 新人保育者が捉える保護者支援の構えと実際 —保護者面談場面に着目して— | 東京家政大学かせい森ののうち 東京家政大学かせい森ののうち | ○ 井 上 裕美子 片 口 桂 |
| P-D-4-02 | ドキュメンテーション作成を通じた保育者・保護者支援（5） —導入・定着における配慮と工夫に関する考察— | 野中こども園 | ○ 中 村 章 啓 |
| P-D-4-03 | 地区の保育研究会が30年近く継続しているわけ —「我が保育者人生」の語りを中心に探る— | 札幌国際大学 | ○ 木 村 彰 子 |
| P-D-4-04 | 保育の質向上を目指した取り組み④ —写真記録の共有化に着目して— | ふたばこども園 和洋女子大学 出雲崎こども園 こどもなーと保育園 野中こども園 フリーランス さくら認定こども園 | ○ 吉 田 茂 田 島 大 輔 松 延 毅 和 泉 誠 中 村 章 啓 相 馬 靖 明 永 田 文 子 |
| P-D-4-06 | 砂場における幼児の育ちを捉える視点（1） —保育者の記録から— | 大阪教育大学 武蔵野大学 ひかり幼稚園 | ○ 中 橋 美 穂 箕 輪 潤 子 平 林 祥 |
| P-D-4-05 | 砂場における幼児の遊びを捉える視点（2） —幼稚園の若手管理職の語りから— | 武蔵野大学 大阪教育大学 ひかり幼稚園 | ○ 箕 輪 潤 子 中 橋 美 穂 平 林 祥 |
| P-D-4-07 | 保育者におけるワーク・ライフ・バランスと保育者効力感の関係 | 奈良学園大学 奈良学園大学 | ○ 岡 村 季 光 間井谷 容 代 |
| P-D-4-08 | 5歳児の集団所属感と保護者による担任保育者評価との関連 | 静岡県立大学短期大学部 | ○ 名 倉 一 美 |
| P-D-4-09 | 幼児の自然との関わりに関する保育者の意識 | 四天王寺大学 | ○ 小 磯 久美子 |
| P-D-4-10 | 新人保育士のキャリア形成における「理想とする保育士が身近にいること」の影響 —中堅保育士が振り返る新人期の保育実践と省察の視点から— | 社会福祉法人三篠会 | ○ 近 藤 啓 太 |
| P-D-4-11 | 保育者としての成長を支える保育のやりがい —省察の向上に関する聞き取りを通して— | 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 | ○ 中 川 智 之 橋 本 勇 人 |

P-D-5 障害児保育・障害のある子どもを含む保育 2

5月15日（日） 13:45～14:15

ポスター会場

座長：金 田 利 子・武 藤 久 枝

| | | | |
|----------|---|---|--|
| P-D-5-01 | 韓国の統合保育のヌリ課程と日本のインクルーシブ保育との比較 | 日本福祉大学 | ○ 工 藤 英 美 |
| P-D-5-02 | 放課後等デイサービスにおける余暇活動の現状と課題 | 名古屋学芸大学 多機能型事業所 あおぞら 京都光華女子大学 桜花学園大学 | ○ 渡 辺 桜 蔭 浦 美 揮 松 本 しのぶ 勝 浦 真 仁 |
| P-D-5-03 | 重症心身障害児との関わり合いを促すインクルーシブ保育自己評価項目の提案 | 桜花学園大学 こども発達支援センターひかりっこ | ○ 小柳津 和 博 野々山 貴 |
| P-D-5-04 | インクルーシブ保育がIDDのある幼児を育てる親の well-being に与える影響の検討 | 桜花学園大学 | ○ 勝 浦 真 仁 |
| P-D-5-05 | 感覚異常のある大人が幼児期に感じていた困り感 | 筑波大学 筑波大学 | ○ 水 野 智 美 徳 田 克 己 |
| P-D-5-06 | 特別な支援を要する幼児が複数在籍する学級の運営における保育者の実践と振り返り(3) —保育者の語りから援助のプロセスを探る— | 練馬区立北大泉幼稚園 | ○ 篠 原 直 子 |
| P-D-5-07 | 公立保育園における医療的ケア児保育の事例研究 | 和洋女子大学 | ○ 二 宮 祐 子 |
| P-D-5-08 | 保育者の困り感に着目した気になる子への支援(3) —チェックリストの導入による保育者への影響— | 幼保連携型認定こども園 やまなみ幼稚園 常磐会短期大学 | ○ 田 中 文 昭 糠 野 亜 紀 |
| P-D-5-09 | 障害児の保護者支援に関する面接調査 (2) —若手保育者を対象とした予備調査— | 岡崎女子大学 中部大学 | ○ 岸 本 美 紀 武 藤 久 枝 |
| P-D-5-10 | 「療育」と「保育所・幼稚園・認定こども園」に通う子どもたち ～インクルーシブ教育・保育に向けて、今できることとは～ | 発達療育研究所 | ○ 峰 村 紀 子 |
| P-D-5-11 | 保育者養成校におけるインクルーシブ保育に関する科目の教授内容と授業の効果について | 豊橋創造大学短期大学部 | ○ 熊 谷 享 子 |
| P-D-5-12 | 医療ケア児のきょうだい支援の取り組み | あいち小児保健医療総合センター | ○ 棚 瀬 佳 見 |
| P-D-5-13 | 支援が必要な子どもの保護者がとらえた園生活(3) | 帝京平成大学 | ○ 瀬 戸 淳 子 |

P-D-6 教育計画・保育計画・指導計画・評価など

5月15日（日） 13:45～14:15

ポスター会場

座長：清水益治・上村裕樹

| | | | |
|----------|---|---|--|
| P-D-6-01 | 子どもの遊びを評価する（第2報） —保育者は子どもの遊びをどのように見ているのか— | 九州産業大学 九州産業大学 | ○ 阿部敬信 渡邊由恵 |
| P-D-6-02 | 保育環境を評価する（1）「5つの視点」創案と視点「社会が生まれている」について | お茶の水女子大学 保育のデザイン研究所 お茶の水女子大学こども園 | ○ 内海緒香 川辺尚子 松尾杏菜 |
| P-D-6-03 | 保育環境を評価する（2）「社会が生まれている」という視点に着目して | 文京区立お茶の水女子大学こども園 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学 保育のデザイン研究所 | ○ 松尾杏菜 宮里暁美 内海緒香 川辺尚子 |
| P-D-6-04 | 韓国におけるオリニジップ評価政策研究 | 九州産業大学 名古屋市立大学 名古屋短期大学 福岡県立大学 | ○ 清水陽子 丹羽孝 吉田真弓 大久保淳子 |
| P-D-6-05 | 保育所等における防災教育の実態 —K市の公立園と私立園の違い（1） | 聖和短期大学 仁愛大学 東大阪大学 仁愛大学 名古屋柳城短期大学 仁愛大学 天野山保育園 聖和短期大学 帝塚山大学 | ○ 碓氷ゆかり 西村重稀 吉岡真知子 森俊之 成田朋子 青井夕貴 中島一 千葉武夫 清水益治 |
| P-D-6-06 | 保育の質向上に向けたICTの活用（5） —園内研修における伴走型コンサルテーションの可能性— | 群馬大学教育学研究科 聖和学園短期大学 岩手県立大学社会福祉学部 | ○ 音山若穂 上村裕樹 井上孝之 |
| P-D-6-07 | 地域への親しみを育む保育実践（2） —認定こども園における自己評価の実態— | 聖徳大学短期大学部 大東文化大学 東京未来大学 和光大学 聖徳大学短期大学部 | ○ 金ミン志 岩崎淳子 及川留美 粕谷亘正 春日保人 |
| P-D-6-08 | 国内ラーニング・ストーリーの特徴：計量テキスト分析による検討 | 北海道教育大学教育学部 高知大学教育学部 北海道教育大学教育学部 佛教大学社会福祉学部 札幌国際大学人文学部 | ○ 川端美穂 玉瀬友美 二井仁美 中西さやか 木村彰子 |
| P-D-6-09 | コロナ過における乳幼児期の認知・非認知能力への影響について | 桜美林大学 社会福祉法人省我会 新宿せいがこども園 社会福祉法人いるま福祉会 いるまこども園 社会福祉法人福翠会 第二いちご保育園 | ○ 爾寛明 藤森平司 小川勝利 高野真智子 |
| P-D-6-10 | 尾張旭市保育所自己評価研究 —自己評価指標開発研究 | 尾張旭市立藤池保育園 尾張旭市立川南保育園 名古屋市立大学 | ○ 澤村桂 寺本暁子 丹羽孝 |
| P-D-6-11 | 保育雑誌における日案の変遷 —掲載カリキュラムの記述内容に注目して— | 至学館大学 | ○ 金森由華 |

P-D-7 幼保一体化・幼保小連携など

5月15日（日） 13:45～14:15

ポスター会場

座長：北 野 幸 子・信 太 寿 理

| | | | |
|----------|---|---------------------------|----------------------|
| P-D-7-01 | 保育要録の新様式 —要録の有効活用と保育者の働き方改革を目指して— | 中京学院大学 中京学院大学 | ○ 栗 岡 洋 美 信 太 寿 理 |
| P-D-7-02 | 幼児期と児童期の言語環境の現状 —物的・人的環境を中心に— | 愛知淑徳大学大学院 | ○ 中 西 由香里 |
| P-D-7-03 | 学生の音楽意識Ⅳ | 名古屋芸術大学 | ○ 星 野 英 五 |
| P-D-7-04 | 幼小接続における音楽表現活動の可能性（1） —歌唱表現の教材研究を中心に— | 園田学園女子大学 園田学園女子大学 | ○ 中 野 圭 子 中 村 愛 |
| P-D-7-05 | 幼小接続期における伝承物語の読み聞かせに関する一考察 | 淑徳大学 | ○ 國府田 祐 子 |
| P-D-7-06 | 幼小接続における音楽表現活動の可能性（2） —器楽表現の教材研究を中心に— | 園田学園女子大学短期大学部 園田学園女子大学 | ○ 中 村 愛 中 野 圭 子 |
| P-D-7-07 | 小学校管理職による読み聞かせの教育実践 ～小学校入学に向けた幼保小連携の取り組み～ | 名古屋大学大学院・院生 | ○ 元 木 廉 |
| P-D-7-08 | 「5歳児カリキュラム」についての考察 —雑巾がけの取り組みから— | 名古屋芸術大学 | ○ 小 田 良 枝 |
| P-D-7-09 | 「かなざわ幼児教育みちしるべ」活用に関する研究 | 金沢星稜大学 | ○ 開 仁 志 |
| P-D-7-10 | 幼保小連携・接続の視点で観る「参加型演奏会」のあり方 | 帝京大学 | ○ 田 崎 教 子 |
| P-D-7-11 | 自治体におけるオンラインを活用した保育者研修に関する検討 —担当者的心声から— | 共立女子短期大学 東京大学 | ○ 一 前 春 子 天 野 美和子 |
| P-D-7-12 | 小規模校における幼保小連携 —生活科の単位における小学校と保育所の事例— | 花園大学 | ○ 笹 谷 絵 里 |
| P-D-7-13 | 幼児が用いる擬人化のパターン —幼保小連携を見据えた身近な環境とのかかわりの側面に着目して— | 明治学院大学 | ○ 木 村 優 里 |

P-D-8 保育専門職の養成など7

5月15日(日) 13:45~14:15

ポスター会場

座長：寺 見 陽 子・村 石 理恵子

| | | | |
|----------|---|-------------------------------------|---------------------------------|
| P-D-8-01 | 保育学生から見た絵本(2) —造形表現の指導における絵本カードの取り組みから— | 福岡こども短期大学 静岡産業大学 名寄市立大学 | ○ 柳 生 明 子 日 隈 美代子 中 澤 幸 子 |
| P-D-8-02 | 短期大学の保育学生にみられる非認知的能力の特徴と保育者養成教育課題に関する一考察 —O 短期大学の PROG データに基づいて— | 大阪成蹊短期大学 | ○ 榊 原 志 保 |
| P-D-8-03 | 保育者養成でのマイクロティーチングにおけるルーブリック活用Ⅱ —「MT 版ルーブリック」を導入した実践と評価— | 鎌倉女子大学 文京学院大学人間学部 | ○ 金 子 智 昭 金 子 智栄子 |
| P-D-8-04 | 保育現場における養成校の学びを考える —身体表現遊びを通して— | 岡崎女子短期大学 | ○ 小 原 幹 代 |
| P-D-8-05 | 保育実践とSDGsの学修が連動する授業プログラムの検討 | 東京女子体育短期大学 東京女子体育短期大学 | ○ 土 井 晶 子 村 石 理恵子 |
| P-D-8-06 | コロナ禍における弾き歌い授業から得たこと —対面授業、非対面授業の利点や今後の課題について— | 福岡こども短期大学 福岡こども短期大学 福岡こども短期大学 | ○ 岸 川 良 子 中 川 淳 一 眞 島 加奈絵 |
| P-D-8-07 | 子育て支援授業における子育て疑似体験についての一考察 | 金沢星稜大学人間科学部 | ○ 天 野 佐知子 |
| P-D-8-09 | 音楽と造形を融合した実践的授業に関する研究(1) —表現活動に対する学生の意識調査— | 大阪千代田短期大学 大阪教育大学 | ○ 大 浦 知 加 松 井 祐 |
| P-D-8-08 | 音楽と造形を融合した実践的授業に関する研究(2) —表現活動に対する学生の意識調査— | 大阪教育大学 大阪千代田短期大学 | ○ 松 井 祐 大 浦 知 加 |
| P-D-8-10 | 実習における学生にとって有用な巡回指導のあり方について | 山村学園短期大学 山村学園短期大学 山村学園短期大学 | ○ 橋 本 淳 一 巢 立 佳 宏 酒 井 誠 |
| P-D-8-11 | 保育者養成校における「保育実習Ⅰ(保育所)」の学内演習の実践と課題 | 埼玉東萌短期大学 | ○ 奥 恵 |

P-D-9 保育思想・保育理論・保育史など

5月15日（日） 13:45～14:15

ポスター会場

座長：豊田和子・片山伸子

| | | | |
|----------|--|---|---|
| P-D-9-01 | 1950年代アンフォルメル時期を取り巻く児童美術の円環について ～ミシェル・タピエと吉原治良、F. ニーチェの言説を基に～ | 倉敷市立短期大学保育学科 | ○ 金山和彦 |
| P-D-9-02 | 大場牧夫の表現論 —音楽表現にかかわる思想と実践— | 白梅学園短期大学 | ○ 長井覚子 |
| P-D-9-03 | ドイツにおける Kaiserswerth 学園の歴史的意義と保育者の専門性 | 京都文教大学 | ○ 大森弘子 |
| P-D-9-04 | クララ・ハッターマンのバイオグラフィー研究 —資料調査の結果から— | 川村学園女子大学 | ○ 近藤千草 |
| P-D-9-05 | 昭和初期の保育者養成機関における教育内容と生徒の力量形成過程に関する歴史的研究（1） | 名古屋柳城女子大学 名古屋柳城女子大学 名古屋柳城女子大学 名古屋柳城女子大学 名古屋女子大学 | ○ 青山佳代 豊田和子 片山伸子 山本聡子 村田あゆみ |
| P-D-9-06 | 戦前における保育者向け講習会へのアプローチ④ | 甲子園短期大学 | ○ 堀田浩之 |
| P-D-9-07 | 戦後初期のキリスト教の園におけるカリキュラム | 名古屋柳城短期大学 名古屋柳城女子大学 愛知県立大学名誉教授 愛知学泉短期大学（非） | ○ 榊原菜々枝 豊田和子 清原みさ子 寺部直子 |
| P-D-9-08 | 倉橋惣三における芸術教育観 —時代背景・関連文献に着目して— | 新潟県立大学 | ○ 神谷睦代 |
| P-D-9-09 | 昭和期における子育て支援と地域の役割 —秋山和夫の論考を中心として— | 福山平成大学福祉健康学部 | ○ 小野順子 |
| P-D-9-10 | 大正期初期の東京府女子師範学校附属幼稚園の保育記録（3） —大正初期の日誌の教生記録を中心に— | 東京学芸大学附属幼稚園竹早園舎 青山学院大学 | ○ 神山雅美 福元真由美 |

P-D-10 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など 4

5月15日(日) 13:45~14:15

ポスター会場

座長：上垣内 伸 子・柳 瀬 洋 美

| | | | |
|-----------|--|--|--|
| P-D-10-01 | 子育て支援においてチャペルコンサートは何をもたらすか | 名古屋学院大学 | ○ 横 井 志 保 |
| P-D-10-02 | 乳幼児を持つ保護者の親性と育児環境 | 東京家政大学短期大学部 | ○ 平 野 順 子 |
| P-D-10-03 | 子どもの「らしさ」を構成する要素に関する保育園の取り組み —子育て支援の視点から— | 株式会社アイ・エス・シー らしさ研究所 所長 | ○ 喰 田 直 美 |
| P-D-10-04 | コロナ禍における保護者の子育て意識 | 長野県立大学 長野県立大学 福島大学 四国大学 長野県立大学 長野県立大学 | ○ 加 藤 孝 士 太 田 光 洋 原 野 明 子 姫 田 知 子 渡 邊 望 中 山 智 哉 |
| P-D-10-05 | 幼児の保護者における地域子育て指向性の特徴 —循環型子育て支援社会の実現を目指して— | 東京YMCA社会体育・保育専門学校 埼玉大学 | ○ 笹 井 美 佐 首 藤 敏 元 |
| P-D-10-06 | 自分の子育てを語る保護者の意識に関する研究 —保育士養成校の学生との会話を通して— | 洗足こども短期大学 | ○ 上 田 よう子 |
| P-D-10-07 | 新型コロナウイルス禍における社会的子育ての課題 —民生児童委員の抱える悩み— | 東京未来大学 東京家政学院大学 東京未来大学 | ○ 藤 後 悦 子 柳 瀬 洋 美 及 川 留 美 |
| P-D-10-08 | 子育て支援チームアプローチに関する研究 —フィンランドのオープンダイアログに焦点を当てて— | 仙台大学 | ○ 柴 田 千賀子 |
| P-D-10-09 | 日本の少子化対策における公園整備と地域子育て支援センターの設置促進に関わる一考察 | 柴田学園大学 | ○ 安 川 由貴子 |
| P-D-10-10 | 外国人子育て家庭の現状についての一考察 —自治体調査に着目して— | 東洋大学 | ○ 岡 村 泰 敬 |
| P-D-10-11 | 地域子育て支援の現状と課題 —名古屋市天白区における活動より— | 東海学園大学 | ○ 木 本 有 香 |
| P-D-10-12 | 子育て支援の場での子どものための「音楽紙芝居」についての検討Ⅲ —都市型子育て支援ルームを中心に— | 明石市立明石養護学校 四天王寺大学 | ○ 田 中 万 紀 小 川 圭 子 |

6. 人名索引

人名索引

A-Z

Gunilla Dahlberg 実行委員会企画シンポジウム3
Mercedes Mayol Lassalle 国際シンポジウム
Louise Lowings 実行委員会企画シンポジウム3
Shing Marn-Ling J-B-5
Sum Chee Wah J-B-5

あ

相澤 京子 K-D-2-152
會退 友美 K-B-4-069
K-B-4-070
青井 夕貴 P-C-1-04
P-D-6-05
青木 一永 J-B-4
青木美智子 K-B-6-082
青山 佳代 P-D-9-05
青山 理恵 P-C-10-07
赤木 公子 J-B-2
赤津 裕子 J-B-1
赤間 健一 P-A-1-09
P-B-8-11
秋國 郁 P-C-3-12
秋田喜代美 J-B-5
K-A-6-028
K-B-9-095
明柴 聰史 P-B-11-05
P-C-7-10
浅井映美子 P-C-7-08
浅井かおり P-C-8-11
浅井 幸子 実行委員会企画シンポジウム3
J-A-4
K-D-6-173
浅井拓久也 P-C-8-10
浅井 広 P-C-5-10
浅香 聡彦 J-F-2
浅川 淳司 J-D-8
浅川 弘子 P-C-11-01
浅川 正堂 P-B-5-13
浅川 繭子 P-D-1-11
浅田明日香 J-C-2
浅野 俊幸 K-A-6-030
浅原 麻美 P-C-1-06
P-C-2-03
P-C-8-03
朝比奈太郎 J-B-7
浅見 優哉 P-A-5-02
浅見 佳子 J-B-6

朝元 尊 P-B-6-06
芦澤 清音 J-A-5
安達 祐亮 P-A-5-05
阿南寿美子 P-A-9-04
安部高太朗 K-B-3-061
安部 祥子 K-D-5-167
阿部 敬信 P-D-6-01
阿部 仁美 P-C-2-05
阿部 美波 K-B-7-084
阿部美穂子 P-C-5-02
天野佐知子 P-D-8-07
天野 珠路 J-D-5
天野美和子 P-D-7-11
網島 大輔 P-D-1-02
新井 明子 P-A-2-09
新井しのぶ K-A-6-031
新井 貴子 P-D-3-08
新井美保子 学会企画課題研究委員会シンポジウム
P-B-11-01
P-C-1-05
荒尾 貞一 K-D-7-177
荒木由紀子 P-B-3-06
有村さやか P-B-9-09
安 世羅 P-C-7-11
安藤 香 P-B-11-07
安東 善子 K-B-8-093

い

飯泉祐美子 P-C-4-10
飯田 明 K-B-5-076
飯塚 大輔 P-B-9-03
飯野 雄大 J-A-5
飯村 愛 P-C-8-08
五十嵐淳子 P-B-8-08
五十嵐元子 J-A-5
井口 眞美 P-A-1-04
井口 美和 P-C-9-06
池上 奈摘 P-D-2-03
池野 麻矢 K-B-7-084
池谷真梨子 K-B-4-069
K-B-4-070
P-C-8-08
P-C-8-08
P-A-6-08
P-D-1-01
K-B-7-084
J-C-9
K-A-9-046
J-B-8

石井久美子 P-D-1-03
石井 正子 P-A-7-07
石井 光子 実行委員会企画シンポジウム2
石川 隆行 K-A-9-045
石川 智子 P-C-5-09
石川 昌紀 P-C-7-02
石川ますみ P-B-3-11
石川 康代 実行委員会企画シンポジウム1
石川由美子 K-A-9-045
K-C-3-115
P-C-6-09
石倉 卓子 J-A-4
石黒 広昭 K-D-1-147
石沢 順子 P-B-6-11
石田 佳織 K-A-1-006
K-B-9-095
K-D-6-174
石田 雅一 J-F-1
石野 純子 P-B-8-08
石野 秀明 P-B-3-02
石濱 丈司 P-B-7-06
伊志嶺美津子 J-C-5
石森真由子 P-C-6-11
石山 幸恵 K-D-7-178
泉 紗恵 K-C-5-122
和泉 誠 P-D-4-04
石動 瑞代 P-D-1-09
伊勢 慎 P-A-7-02
P-A-7-13
P-C-11-03
磯村 正樹 P-C-2-09
市川奈緒子 J-E-5
市川 恵 P-A-4-08
一前 春子 P-D-7-11
伊坪有紀子 K-D-2-151
井出麻里子 K-B-6-080
井手 裕子 P-A-7-13
伊藤 一統 J-C-6
伊藤久美子 P-B-4-07
P-B-5-06
伊藤 桂子 P-B-6-04
伊藤 賢 J-F-1
伊藤 喬治 P-C-9-04
伊藤美保子 P-C-2-04
伊藤美和子 K-D-1-150
伊藤 優 K-B-4-069
K-B-4-070
伊藤 綾子 J-F-3
伊藤 路香 K-A-5-026

糸洲 理子 P-B-4-04
井中あけみ P-B-6-06
犬塚 典子 K-C-2-109
伊能 恵子 K-D-5-170
井上 郁 P-B-3-03
井上 果子 K-B-5-077
井上 聖子 K-B-8-092
井上 孝之 P-C-1-07
P-C-1-08
P-D-6-06
井上 知香 J-A-4
井上真理子 J-D-9
K-D-8-183
P-C-1-02
井上美智子 P-A-4-05
P-B-9-02
井上裕美子 P-D-4-01
井上利恵子 P-B-10-10
伊原小百合 J-B-1
P-A-4-08
P-A-6-03
今井 邦枝 P-B-9-01
今泉 明美 P-B-9-09
今川 恭子 J-B-1
P-A-4-08
P-A-6-03
今津 香 K-A-5-025
今村 麻子 P-B-2-03
井村 礼恵 K-B-2-056
鑄物 太朗 P-A-1-01
井門 彩織 P-B-3-12
岩井 英之 P-A-8-05
岩井 真澄 P-C-8-11
岩倉 政城 K-D-7-177
岩崎 淳子 P-D-6-07
岩崎 良亮 P-A-1-13
岩田 恵子 J-B-9
岩田 遵子 K-C-9-143
岩田 美保 P-B-2-01
岩田百合香 P-C-2-02
岩本 貴永 J-E-6
岩本 哲也 P-B-4-08
P-D-1-07

う

于 丹 P-A-2-10
上木 美佳 J-B-2
植草 一世 P-B-7-01
P-C-5-06
植田恵理子 P-B-11-08
上田 浩平 P-C-3-09

上田 敏丈 P-D-2-06
上田よう子 P-D-10-06
上田 淑子 P-A-3-01
上田 理恵 P-A-9-11
上野佳奈子 J-F-5
上原 真幸 P-A-9-04
上原 由美 P-A-2-02
植松 勝子 P-A-6-05
植松加奈子 K-B-7-084
上村 晶 P-A-6-11
上村 加奈 J-C-6
植村 朋弘 J-D-1
上村 裕樹 P-C-1-07
P-C-1-08
P-D-6-06
鵜川 陽子 P-B-10-02
請川 滋大 J-A-7
宇佐美かおる P-B-11-02
臼井 奈緒 K-B-9-097
碓氷ゆかり P-C-1-04
P-D-6-05
宇杉美絵子 K-D-2-151
宇田川久美子 J-B-9
打越みゆき K-B-6-080
内田 祥子 J-A-4
P-B-9-01
内田 千春 J-C-3
P-C-7-13
内野 彰裕 J-D-5
内山伊知郎 J-D-7
内山 沙知 K-C-9-141
宇都木 昭 P-B-7-11
宇都宮貴之 K-B-9-096
P-C-4-07
内海 緒香 P-C-1-01
P-D-6-02
P-D-6-03
生越 雅志 P-A-8-03
P-B-2-02
P-B-2-04
梅田 裕介 P-B-3-08
P-B-3-09
浦木 智子 J-C-1
浦中 浩一 K-D-1-148
海野 展由 J-B-3

え

枝村 美夏 P-A-5-09
榎沢 良彦 学会企画編集常任委員会シンポジウム
榎本 恵理 K-C-4-116
K-C-4-117

鰐澤 裕子 J-A-4
江村 和彦 P-A-4-11
遠藤 愛 K-B-6-080
P-C-7-03
遠藤 晶 K-C-5-124
K-C-5-125
遠藤 静香 P-B-1-12
遠藤 純子 P-B-7-12
遠藤 利彦 J-E-9
K-B-8-089
基調講演

お

及川 直樹 P-A-3-04
及川 留美 P-D-10-07
P-D-6-07
王 未 K-A-9-045
大井 美緒 K-A-5-026
K-B-6-080
大石 茜 J-E-2
大内田真理 P-C-4-11
大浦 知加 P-D-8-08
P-D-8-09
大方 美香 J-B-4
大久保淳子 P-D-6-04
大崎 志保 J-E-6
大崎利紀子 P-A-3-05
大沢 裕 P-A-3-05
大城 祥恵 P-B-8-13
大城 亜水 P-B-9-10
P-C-7-07
大城 りえ P-C-9-05
太田 節子 P-B-7-05
P-B-8-01
P-B-10-10
太田 千景 P-C-7-08
太田 美鈴 J-D-7
太田 光洋 P-D-10-04
太田 素子 K-B-3-060
大嶽さと子 J-D-7
P-B-7-11
大竹 留美 P-C-9-11
P-D-2-11
大谷 彰子 P-B-3-13
大谷 望海 P-B-6-13
大谷真理子 K-B-1-050
大谷 光代 P-C-11-01
大塚 紫乃 J-F-2
K-A-8-041
大坪 祥子 J-D-4
大仲美智子 P-A-4-05

| | | | | | |
|--------|----------------|-------|-----------|-------|----------------|
| 大成 哲雄 | 実行委員会企画シンポジウム1 | 小川 由美 | J-C-8 | 蔭浦 美揮 | P-D-5-02 |
| 大西 明実 | J-C-7 | 荻野真知子 | K-A-7-036 | 掛札 逸美 | P-C-11-01 |
| 大貫 麻美 | K-D-1-147 | 荻原ひろみ | K-C-5-122 | 葛西 健治 | K-D-2-153 |
| 大沼 良子 | P-C-8-08 | 奥 美佐子 | P-A-4-06 | 笠間 浩幸 | P-B-1-06 |
| 大野 歩 | K-C-5-122 | 奥 恵 | P-D-8-11 | | P-B-1-07 |
| 大野じゅん | K-B-5-076 | 奥蘭 知明 | P-D-2-02 | | P-B-1-08 |
| 大庭 三枝 | P-A-11-05 | 奥田 沙耶 | K-A-1-005 | 鍛冶 礼子 | K-D-1-147 |
| 大橋さつき | K-C-3-114 | | K-B-1-051 | 鹿島 房子 | 実行委員会企画シンポジウム2 |
| 大平 春美 | P-C-2-01 | 小口 偉 | P-A-4-14 | 柏 まり | P-A-11-07 |
| 大豆生田芽吹 | K-A-6-029 | | P-C-8-10 | 春日 保人 | P-D-6-07 |
| 大海 由佳 | K-A-1-001 | 奥村智香子 | J-B-2 | 粕谷 亘正 | P-D-6-07 |
| 大道 香織 | P-B-3-12 | 奥村 典子 | K-A-8-041 | 片岡 元子 | P-C-6-04 |
| 大村 純子 | P-D-1-01 | 小倉 定枝 | K-C-2-107 | | P-D-2-04 |
| 大元 千種 | P-C-4-06 | 尾崎 司 | J-C-7 | 片川 智子 | J-F-5 |
| 大森 弘子 | P-D-9-03 | 小澤 拓大 | K-B-4-067 | 片口 桂 | P-D-4-01 |
| 大森 雅人 | P-C-8-01 | 押部 直也 | P-B-2-02 | 片平 祐 | K-D-4-162 |
| 大屋 陽祐 | P-A-8-06 | | P-B-2-04 | | K-D-4-163 |
| | P-A-9-03 | 小田 良枝 | P-D-7-08 | 片山 伸子 | P-D-9-05 |
| 大和田明見 | P-B-10-06 | 小田桐早苗 | J-D-6 | 勝浦 眞仁 | J-E-1 |
| | P-C-9-02 | 小田崎結衣 | K-C-1-101 | | P-D-5-02 |
| 岡 健 | J-B-7 | 落合 進 | P-B-3-12 | | P-D-5-04 |
| 岡田 暁子 | P-C-3-13 | 落合 美穂 | P-A-9-11 | 勝田 みな | K-A-7-035 |
| 岡田 摩紀 | P-B-4-07 | 落合 陽子 | P-B-7-10 | 勝野 愛子 | P-C-3-07 |
| 緒方 麻里 | P-B-8-11 | | P-C-6-10 | 勝見 慶子 | J-D-2 |
| 岡野 聡子 | P-C-4-12 | 乙部はるひ | P-A-2-03 | 加藤 篤彦 | J-A-6 |
| 岡花祈一郎 | K-D-4-161 | 音山 若穂 | P-C-1-07 | 加藤 和成 | J-A-1 |
| | K-D-8-181 | | P-C-1-08 | | K-B-8-093 |
| 岡部 千尋 | P-C-4-02 | | P-D-6-06 | 加藤 希央 | P-A-8-04 |
| 岡部 智子 | P-A-5-09 | 尾根 秀樹 | P-D-3-04 | 加藤 孝士 | P-D-10-04 |
| 岡部 祐輝 | J-F-8 | 尾野 明美 | K-A-1-001 | 加藤 千奈 | P-C-2-12 |
| 岡部 祐子 | P-A-2-11 | 小野 順子 | P-D-9-09 | 加藤 望 | J-C-3 |
| 岡正 寛子 | K-A-7-036 | 小野 愛実 | K-B-8-093 | | K-C-6-127 |
| 岡村 季光 | P-D-4-07 | 小野 友紀 | P-B-7-12 | 加藤 信子 | P-A-2-01 |
| 岡村 泰敬 | P-D-10-10 | 小野内初美 | P-C-9-08 | 加藤真智子 | P-A-3-02 |
| 岡本 聡子 | P-A-11-04 | 尾花 創 | P-B-3-05 | | P-A-3-03 |
| 岡本 一 | P-C-1-03 | 小原 敏郎 | J-D-3 | 加藤 緑 | J-D-6 |
| 岡本 晴美 | J-C-6 | | P-A-9-06 | | P-B-8-08 |
| 岡本 弘子 | P-C-8-12 | | P-B-11-05 | | P-C-4-12 |
| | P-C-11-11 | 小原 倫子 | P-B-7-02 | | P-D-2-05 |
| 岡本 恵 | P-B-1-13 | 小原 幹代 | P-D-8-04 | 加藤美世子 | P-D-1-11 |
| 小川 勝利 | J-F-1 | 小柳津和博 | P-D-5-03 | 加藤 夕貴 | P-C-6-01 |
| | P-D-6-09 | 小山 望 | J-A-1 | 門田 理世 | J-B-5 |
| 小川 圭子 | P-D-10-12 | 遠座 未菜 | K-C-3-113 | 金井 純子 | K-C-2-108 |
| 小川 知晶 | J-D-6 | | | 金井 玲奈 | J-E-6 |
| 小川 直茂 | J-A-9 | | | 金岩 俊明 | J-B-2 |
| | K-B-9-094 | | | 金森 三枝 | P-B-10-06 |
| 小川 久恵 | P-B-8-10 | 柿崎 次子 | K-C-3-112 | | P-C-9-02 |
| 小川真由子 | P-B-11-12 | 蠣崎 尚美 | K-D-5-169 | 金森 由華 | P-D-6-11 |
| | P-B-11-13 | 柿沼平太郎 | P-C-6-07 | 金山英莉花 | J-D-7 |
| | P-C-10-10 | 柿沼 芳枝 | P-C-4-05 | 金山 和彦 | P-D-9-01 |
| 小川美由紀 | J-D-4 | 角地 佳子 | K-A-2-012 | 蟹江 教子 | P-B-2-03 |
| | K-B-4-067 | 掛 志穂 | P-C-10-05 | 金子 亜弥 | P-B-8-06 |

か

| | | | | | |
|---|---|--|---|---|--|
| 金子 功一 | P-A-9-01 P-B-7-01 P-C-5-06 | 川端 美穂 川東 佳歩 | P-D-6-08 P-C-1-06 P-C-2-03 P-C-8-03 | 木戸 直美 木下 藍 木下 由香 金 ミン志 木村 彰子 | P-A-9-12 P-B-5-09 P-B-6-03 P-D-6-07 P-D-4-03 P-D-6-08 |
| 金子 幸 金子智栄子 | P-A-9-04 P-A-9-09 P-B-7-01 P-D-8-03 | 河邊 貴子 | 学会企画編集常任委員会シンポジウム J-F-4 P-C-10-07 | 木村 久男 木村 充子 木村 優里 | P-B-10-05 J-B-1 K-B-1-052 K-B-1-053 P-D-7-13 |
| 金子 智昭 金田 利子 | P-D-8-03 国際シンポジウム J-C-5 P-C-8-12 P-C-11-11 | 川辺 尚子 川邊 音生 川俣美砂子 | P-D-6-02 P-D-6-03 P-A-7-10 P-A-7-05 P-A-10-01 | 木村 由希 木本 有香 喜屋武 央 京林由季子 刑部 育子 清原みさ子 桐川 敦子 | P-B-8-08 P-D-10-11 K-D-4-161 P-A-10-03 J-C-1 P-D-9-07 P-B-4-02 P-C-2-01 |
| 金戸 憲子 加納 拓朗 狩野奈緒子 梶島 香代 | K-C-3-111 K-A-3-013 P-A-10-09 K-A-1-002 P-A-5-05 P-B-5-11 | 河南佐和呼 川村 啓子 川村 高弘 神崎 奈奈 菅野 良美 | K-C-5-121 P-B-3-04 P-D-3-11 P-B-7-11 K-C-1-099 | 桐原 由美 金城 悟 | P-B-9-07 J-C-7 P-C-11-12 |
| 兜森 千可 神尾美香子 上垣内伸子 神谷 睦代 神山 雅美 亀井 慶子 亀ヶ谷元讓 | P-A-5-12 J-B-7 P-C-2-06 P-D-9-08 P-D-9-10 P-B-6-10 J-D-9 K-D-8-183 P-C-2-07 | き | | | |
| 亀崎美沙子 亀山 秀郎 加山 美佐 萱村 俊哉 軽部 妙子 河合 清美 川井 敬二 川合真由美 川合 美奈 河合 玲子 川池 智子 川上 りえ 川北 典子 川喜田晶代 川口めぐみ | P-A-6-01 J-C-4 J-C-3 P-B-2-06 K-C-8-138 K-B-7-084 J-F-5 P-B-7-04 P-C-7-13 P-D-3-05 K-C-6-131 J-A-4 P-A-10-11 P-C-11-11 P-A-7-08 P-B-3-02 | 菊地 篤子 菊地加奈子 菊地 大介 菊地 知子 菊地 正登 岸 久美子 | P-B-11-02 J-F-4 P-C-2-14 J-C-1 P-C-11-05 P-A-4-01 P-A-4-03 実行委員会企画シンポジウム2 K-A-2-012 P-D-8-06 P-D-5-09 K-D-1-148 K-A-8-039 K-A-8-042 K-A-8-043 | 空閑ゆき子 楠本 洋子 葛谷 潔昭 工藤 英美 国藤真理子 久保 健太 久保 裕 | P-C-9-01 P-B-11-04 P-A-7-11 P-D-5-01 P-B-4-07 J-A-8 P-C-1-06 P-C-2-03 P-C-8-03 |
| 川合真由美 川合 美奈 河合 玲子 川池 智子 川上 りえ 川北 典子 川喜田晶代 川口めぐみ | P-B-7-04 P-C-7-13 P-D-3-05 K-C-6-131 J-A-4 P-A-10-11 P-C-11-11 P-A-7-08 P-B-3-02 | 來住るみ子 岸川 里美 岸川 良子 岸本 美紀 岸本 満 木曾 陽子 | P-A-4-01 P-A-4-03 K-A-2-012 P-D-8-06 P-D-5-09 K-D-1-148 K-A-8-039 K-A-8-042 | 久保田健一郎 久保寺節子 久保山茂樹 熊谷 享子 熊田 凡子 久米裕紀子 | K-C-2-106 P-B-3-14 J-A-6 P-D-5-11 J-B-3 K-C-5-124 K-C-5-125 |
| 川崎 徳子 | J-F-3 K-D-3-159 | 木田 千晶 北澤 明子 北沢 昌代 北田沙也加 北野 明子 北野 幸子 | P-C-2-10 P-C-8-10 実行委員会企画シンポジウム1 P-A-9-01 P-C-3-06 国際シンポジウム P-C-1-06 P-C-2-03 P-C-8-03 P-C-8-11 | 倉橋 和雄 倉橋 麻生 倉橋 耀子 倉畑 萌 倉原 弘子 栗岡 洋美 栗原 啓祥 久留島太郎 呉屋奈都子 黒岩 茉由 黒木 晶 | J-A-8 J-A-8 J-A-8 K-A-5-024 P-B-6-02 P-D-7-01 P-C-4-09 P-B-1-01 J-F-6 K-D-2-155 P-B-5-05 |
| 川島 直子 | P-B-9-10 P-C-7-07 | 北濱千枝子 北村眞佐美 北村 真理 北山千嘉子 | P-A-1-11 P-B-5-02 J-E-1 P-B-1-12 P-C-10-02 K-A-4-021 P-C-1-03 | | |
| 川中 義博 河野 和昭 河野 和明 河端 敬法 川畑 尚子 | P-A-2-06 J-E-7 P-B-11-09 P-A-9-11 P-A-10-08 | 橋高真紀子 橋高 佳恵 橋原 義晃 | P-C-10-02 K-A-4-021 P-C-1-03 | | |

畔柳 佳奈 P-D-3-02
郡司 明子 J-D-1

こ

小泉 広子 国際シンポジウム
小磯久美子 P-D-4-09
小出 馨 P-D-1-11
香曾我部琢 P-B-7-07
P-C-6-05
P-C-6-09
國府田祐子 P-D-7-05
江津 和也 P-C-8-06
糠野 亜紀 P-D-5-08
河野 律子 J-A-7
古賀 萌子 P-B-4-03
小木曾友則 P-B-3-08
P-B-8-09
小久保圭一郎 P-C-4-12
小崎 恭弘 J-E-9
P-A-10-06
P-C-6-05
腰川 一恵 P-A-2-13
小嶋 泰輔 J-F-1
小島千恵子 J-D-6
小島菜緒子 P-B-3-04
小島 佳子 P-B-8-07
小島 好美 K-D-3-158
輿水 基 J-F-4
越山沙千子 J-B-1
小杉 裕子 P-B-4-01
小関 慶太 P-C-11-08
小谷 朋子 P-A-5-07
小谷 正登 K-D-5-171
児玉 珠美 J-D-7
P-B-7-11
児玉 理紗 P-B-4-06
小玉 亮子 K-D-8-184
K-D-8-185
後藤 紀子 K-A-2-008
後藤 紀子 P-C-9-11
P-D-2-11
後藤 春美 P-B-2-05
後藤 祐子 K-B-4-067
古野 愛子 P-C-9-01
P-C-11-04
小橋 暁子 P-B-1-10
小林佐知子 P-A-6-04
小林さゆり K-B-8-093
小林 千鶴 P-C-7-06
小林 直実 P-B-3-03
小林麻以子 J-A-9

小林みどり J-B-2
P-B-1-03
駒 久美子 P-A-7-06
P-C-5-08
駒井 哲郎 J-B-4
小松 秀茂 K-D-7-177
小湊 真衣 K-A-1-001
小屋 美香 P-B-8-08
小柳 雅子 P-A-9-05
小山 朝子 P-A-2-05
小山 玲子 K-D-3-160
近藤 啓太 P-D-4-10
近藤 千草 P-B-10-07
P-D-9-04
近藤 直恵 J-E-7

さ

斎藤 晶海 P-B-3-03
齋藤 亜矢 J-F-7
齋藤 めい K-C-6-128
齋藤 有 K-A-8-041
齋藤 由佳 K-B-8-093
佐伯 岳春 P-C-3-02
佐伯 胖 J-B-9
境 愛一郎 K-B-9-096
P-C-4-07
坂井 貴子 P-A-5-13
酒井 範子 P-A-6-08
酒井 教子 P-C-7-05
酒井 治子 K-B-4-069
K-B-4-070
酒井 誠 K-D-7-176
K-D-7-179
P-D-8-10
境 佑二 J-F-2
榊原尉津子 P-B-11-12
P-B-11-13
P-C-10-10
榊原 志保 P-D-8-02
榊原 剛 P-B-9-07
榊原 知美 J-D-8
榊原菜々枝 P-D-9-07
逆井 直紀 J-B-8
坂田 哲人 P-B-7-10
P-C-1-02
P-C-6-10
坂田 知子 K-A-7-038
坂田 紘子 P-B-4-08
P-D-1-07
坂根 早織 P-C-2-11
P-D-1-12

阪本 満 K-C-5-126
坂元 美帆 P-C-7-09
相樂真樹子 K-A-4-022
佐木 彩水 K-B-8-090
P-B-3-07
佐木 玲水 P-B-3-07
崎山ゆかり P-A-3-07
P-B-5-02
作田 千夏 P-A-9-11
佐久本邦華 P-C-9-05
櫻井 知子 P-C-3-04
桜井ますみ J-C-8
迫田 圭子 K-D-6-173
笹井 美佐 P-D-10-05
佐々木 晃 学会企画課題研究委員会シンポジウム
佐々木麻美 J-F-3
P-D-1-05
佐々木恵理 K-C-8-139
佐々木沙和子 P-C-7-06
佐々木美和 K-C-4-118
K-C-4-120
佐々木由美子 K-B-1-050
K-D-2-152
佐々木友里 P-A-7-11
笹瀬ひと美 K-B-5-074
笹谷 絵里 P-D-7-12
定行加保里 P-A-10-04
佐藤 厚 P-C-9-09
佐藤 勇武 J-C-8
佐藤 和貴 P-B-6-07
佐藤 和順 P-A-11-07
佐藤 里美 実行委員会企画シンポジウム2
佐藤 純子 P-B-3-04
佐藤 晶子 P-D-2-12
佐藤ちひろ P-C-11-10
佐藤 久恵 P-B-3-01
佐藤 寛子 J-F-3
K-B-2-058
P-A-6-08
佐藤 浩代 J-B-3
K-B-3-066
佐藤 牧子 実行委員会企画シンポジウム1
P-C-9-12
佐藤 康富 P-C-2-07
P-C-8-09
佐藤 有香 P-C-2-13
P-C-8-08
座間味愛理 K-D-5-167
鮫島 輝美 J-E-1
澤田 優子 P-B-5-04
澤村 桂 P-D-6-10
参納 初夏 J-E-4

| し | | |
|-------|-----------|--|
| 塩川 寿平 | P-A-1-05 | |
| | P-A-6-08 | |
| 塩崎みづほ | P-A-4-14 | |
| | P-B-6-12 | |
| 汐見 和恵 | K-D-4-162 | |
| | K-D-7-178 | |
| 汐見 稔幸 | K-B-3-062 | |
| 志方智恵子 | J-D-2 | |
| 地下まゆみ | P-B-9-02 | |
| 茂井万里絵 | P-C-7-02 | |
| 志食 陽平 | P-D-1-04 | |
| 鎮 朋子 | P-A-2-07 | |
| 信太 寿理 | P-D-7-01 | |
| 實川 慎子 | P-A-9-01 | |
| 志濃原亜美 | P-C-8-10 | |
| 篠原 俊明 | K-A-1-003 | |
| | K-C-1-100 | |
| | K-C-1-103 | |
| 篠原 直子 | P-D-5-06 | |
| 篠原 利沙 | J-F-6 | |
| 柴田 卓 | P-A-11-06 | |
| 柴田千賀子 | P-D-10-08 | |
| 柴田 直美 | K-D-4-162 | |
| | K-D-7-178 | |
| 渋谷 郁子 | P-B-8-07 | |
| 澁谷 拓吾 | K-A-9-048 | |
| 島田 郁世 | P-A-2-01 | |
| 島田 貞子 | K-A-4-018 | |
| 島田 知和 | P-A-9-04 | |
| 島田 弘子 | P-B-8-05 | |
| | P-B-8-12 | |
| 島田由紀子 | P-A-7-06 | |
| | P-C-5-08 | |
| 島貫 織江 | K-C-8-140 | |
| 嶋野 珠生 | P-B-11-05 | |
| | P-C-7-08 | |
| 島袋 智子 | J-A-9 | |
| 清水 文 | K-D-5-166 | |
| 清水かおり | K-B-4-072 | |
| 清水 桂子 | P-D-3-01 | |
| 清水 響香 | P-A-5-12 | |
| 清水 憲志 | K-A-1-004 | |
| 清水 里美 | P-A-3-08 | |
| 清水すみれ | K-D-7-178 | |
| 清水 益治 | P-C-1-04 | |
| | P-D-6-05 | |
| 清水 美紀 | K-C-2-110 | |
| 清水 陽子 | 国際シンポジウム | |
| | P-C-1-05 | |
| | P-D-6-04 | |

| | |
|-------|-----------|
| 下口 美帆 | P-A-6-09 |
| 下里 里枝 | P-B-3-02 |
| 下村 一彦 | K-C-2-104 |
| 首藤 敏元 | P-D-10-05 |
| 喰田 直美 | P-D-10-03 |
| 白石 淑江 | J-A-4 |
| | K-C-9-141 |
| | K-D-6-173 |
| 白川 佳子 | P-A-1-08 |
| | P-B-11-05 |
| 白波瀬達也 | P-B-5-12 |
| 新海 智子 | P-D-3-09 |
| 進藤 容子 | P-B-10-05 |
| | P-C-5-03 |
| 新保 雄希 | J-F-2 |

| す | | |
|-------|-----------|--|
| 水津 幸恵 | J-B-6 | |
| 末寄 雅美 | P-A-9-04 | |
| 末次絵里子 | K-A-5-023 | |
| 末永 昇一 | P-B-9-12 | |
| 末永美紀子 | J-E-1 | |
| 菅 眞佐子 | P-C-5-07 | |
| 菅井 洋子 | P-B-10-07 | |
| | P-B-7-09 | |
| 杉浦真紀子 | P-D-1-05 | |
| 杉江 栄子 | P-B-11-01 | |
| 杉原 真晃 | J-B-1 | |
| | P-A-6-03 | |
| 杉村伸一郎 | J-D-8 | |
| 杉本 栄子 | K-C-4-116 | |
| | K-C-4-117 | |
| 杉本 桂子 | J-A-9 | |
| 杉山佳菜子 | P-B-11-12 | |
| | P-B-11-13 | |
| | P-C-10-10 | |
| 杉山喜美恵 | P-A-1-06 | |
| | P-A-1-07 | |
| 杉山 和 | P-A-8-01 | |
| 杉山 祐子 | P-A-6-05 | |
| 杉山 隆一 | J-B-8 | |
| 鈴木 彬子 | P-C-5-10 | |
| 鈴木 敦子 | K-A-9-044 | |
| 鈴木あゆみ | P-B-3-04 | |
| 鈴木 祥子 | P-A-7-07 | |
| 鈴木 順子 | P-A-10-05 | |
| 鈴木 瑛貴 | P-B-5-10 | |
| 鈴木 眞廣 | J-E-5 | |
| 鈴木美枝子 | P-B-2-07 | |
| | P-C-11-11 | |
| 鈴木 美佳 | J-B-7 | |

| | |
|-------|-----------|
| 鈴木美里佳 | J-E-4 |
| 鈴木 康弘 | P-C-10-09 |
| 鈴木 裕子 | K-B-1-049 |
| | P-B-8-12 |
| | P-C-2-10 |
| 鈴木 美子 | P-B-10-10 |
| 鈴木 玲子 | K-B-5-076 |
| 鈴木真由美 | P-C-11-07 |
| 巢立 佳宏 | K-D-7-176 |
| | K-D-7-179 |
| | P-D-8-10 |
| 須永 真理 | P-A-10-02 |
| 須永 美紀 | P-B-10-09 |
| 砂上 史子 | P-A-5-12 |
| 須増 啓之 | P-A-4-10 |

| せ | | |
|-------|-----------|--|
| 清和 友美 | P-A-9-10 | |
| 関 容子 | P-B-10-10 | |
| | P-C-10-11 | |
| 関口はつ江 | J-D-3 | |
| | P-B-10-10 | |
| | P-B-2-04 | |
| | P-B-3-06 | |
| 関口由季子 | P-A-4-01 | |
| | P-A-4-03 | |
| 関根 映子 | P-B-3-03 | |
| 瀬古 杏南 | K-D-1-145 | |
| 瀬々倉玉奈 | K-D-5-166 | |
| 瀬戸 淳子 | P-D-5-13 | |
| 瀬沼 幹太 | J-D-5 | |
| 瀬尾 知子 | P-A-11-02 | |
| 妹尾 正教 | K-A-1-005 | |
| | K-B-1-051 | |
| 仙田 考 | J-D-5 | |
| | K-C-1-098 | |

| そ | | |
|-------|-----------|--|
| 相馬 靖明 | J-F-4 | |
| | P-C-5-01 | |
| | P-D-4-04 | |
| 副島 里美 | K-B-5-073 | |
| 爾 寛明 | J-F-1 | |
| | P-D-6-09 | |
| 曾野 麻紀 | P-D-3-10 | |
| 園田 巖 | J-B-7 | |
| 園部 浅子 | P-C-11-01 | |

| た | | |
|-------|-----------|--|
| 高井 由佳 | J-E-8 | |
| 高尾 淳子 | P-C-10-08 | |
| 高木 義栄 | P-C-3-09 | |
| 高木夏奈子 | P-A-5-04 | |
| | P-B-5-10 | |
| 高木早智子 | P-C-11-01 | |
| 高口 知浩 | P-C-6-02 | |
| 高杉 洋史 | P-B-3-11 | |
| 高杉美稚子 | P-B-3-11 | |
| 高田 綾 | P-C-11-01 | |
| 高田 憲治 | J-D-5 | |
| 高玉 和子 | P-A-3-05 | |
| 高野 史朗 | P-B-1-12 | |
| 高野真智子 | J-F-1 | |
| | P-D-6-09 | |
| 高橋うらら | P-B-6-06 | |
| 高橋 香織 | K-C-5-121 | |
| 高橋 一夫 | P-A-4-10 | |
| 高橋 佳代 | P-B-5-01 | |
| 高橋千香子 | P-C-10-12 | |
| 高橋 公子 | P-A-5-08 | |
| 高橋 実 | J-C-6 | |
| 高橋 弥生 | P-A-3-05 | |
| 高橋 陽子 | K-D-8-184 | |
| 高橋 洋行 | P-C-5-10 | |
| 高橋 依子 | K-B-2-059 | |
| 高畑 祐子 | J-C-7 | |
| 高原 和子 | P-A-4-13 | |
| 高原 和子 | P-A-5-01 | |
| 高原 佳江 | K-D-2-154 | |
| 高間 準 | K-A-3-016 | |
| 高村 真希 | J-F-2 | |
| 瀧 信子 | P-A-4-13 | |
| | P-A-5-01 | |
| 瀧川 光治 | J-F-8 | |
| 滝口 圭子 | J-A-2 | |
| | P-C-6-05 | |
| 瀧口 優 | J-C-5 | |
| | P-C-11-11 | |
| 滝沢ほだか | P-A-8-02 | |
| | P-B-6-05 | |
| 滝本真理子 | P-C-11-01 | |
| 田窪 玲子 | P-B-5-05 | |
| 竹井 史 | P-B-1-06 | |
| | P-B-1-07 | |
| | P-B-1-08 | |
| 竹内 直美 | P-A-11-01 | |
| 竹下 則子 | P-A-7-09 | |
| 竹田 恵 | K-C-7-134 | |
| 竹田 好美 | P-C-6-09 | |

| | | |
|-------|----------------|--|
| 武山 美子 | P-B-9-04 | |
| 田崎 教子 | P-D-7-10 | |
| 田澤 里喜 | J-D-9 | |
| | K-D-8-183 | |
| 田島 大輔 | J-F-4 | |
| | K-A-5-027 | |
| | K-D-4-163 | |
| | P-D-4-04 | |
| 田尻さやか | J-D-3 | |
| 多田 琴子 | P-C-2-11 | |
| | P-D-1-12 | |
| 多田 千尋 | J-E-7 | |
| 橘 麻希 | K-D-1-149 | |
| 田爪 宏二 | J-A-2 | |
| | P-A-4-09 | |
| 立本千寿子 | P-B-6-01 | |
| | P-B-11-08 | |
| 田中 葵 | P-A-8-07 | |
| 田中亜希子 | K-C-5-121 | |
| 田中 沙織 | P-A-2-12 | |
| 田中 孝尚 | P-C-1-06 | |
| | P-C-2-03 | |
| | P-C-8-03 | |
| 田中 卓也 | J-D-6 | |
| | P-A-5-02 | |
| | P-B-8-08 | |
| | P-C-4-12 | |
| 田中 珠美 | P-B-1-03 | |
| 田中 寛美 | P-A-11-03 | |
| 田中 文昭 | P-D-5-08 | |
| 田中 万紀 | P-D-10-12 | |
| 田中 正代 | P-C-4-05 | |
| 田中 麻里 | P-C-7-09 | |
| 田中 ミサ | K-C-6-131 | |
| 田中 幸 | P-B-3-03 | |
| 田中 元基 | P-B-11-06 | |
| 田中 慈子 | P-A-6-02 | |
| | P-A-6-09 | |
| 田中 裕子 | P-C-8-02 | |
| 田中るみこ | P-A-1-10 | |
| 棚瀬 佳見 | P-D-5-12 | |
| 田邊 圭子 | P-A-5-13 | |
| 谷口由希子 | J-C-2 | |
| 谷口 征子 | P-A-11-01 | |
| 谷口 良美 | K-B-7-085 | |
| | K-B-7-086 | |
| 谷田 純子 | K-A-2-009 | |
| 谷野 敦也 | J-F-6 | |
| 谷原 舞 | J-D-6 | |
| | P-C-4-12 | |
| 梶 瑞希子 | 実行委員会企画シンポジウム3 | |
| | K-B-3-064 | |

| | |
|-------|-----------|
| 多保田治江 | P-C-3-10 |
| 玉川 朝子 | P-C-9-10 |
| 玉瀬 友美 | P-A-10-01 |
| | P-D-6-08 |
| 玉田 裕人 | P-B-4-07 |
| 田村 和子 | K-B-5-077 |
| 田村 佳世 | P-B-5-06 |
| | P-B-8-04 |
| | P-D-2-07 |
| 垂見 直樹 | P-C-3-09 |
| 田甫 綾野 | P-B-10-09 |

| ち | | |
|-------|-----------|--|
| 崔 美美 | K-A-6-028 | |
| 千葉 琢磨 | J-E-4 | |
| 千葉 武夫 | P-C-1-04 | |
| | P-D-6-05 | |
| 智原 江美 | P-A-6-09 | |
| 中鉢 路子 | J-A-1 | |
| | K-A-8-040 | |

| つ | | |
|-------|-----------|--|
| 塚越亜希子 | P-D-2-08 | |
| 月澤 未来 | K-B-8-093 | |
| 辻谷真知子 | K-A-1-006 | |
| | K-B-9-095 | |
| | P-C-1-01 | |
| 辻元由希子 | P-B-5-07 | |
| 津田 純佳 | J-D-1 | |
| 津田奈保子 | K-A-2-007 | |
| | P-A-5-11 | |
| 土田 珠紀 | P-A-2-04 | |
| | P-A-2-07 | |
| 恒川 丹 | P-A-9-06 | |
| 鶴 宏史 | K-A-8-039 | |
| | K-A-8-043 | |
| | P-A-6-01 | |
| 鶴瀬 友理 | K-D-4-164 | |
| 鶴巻 直子 | K-B-8-093 | |

| て | | |
|-------|-----------|--|
| 寺島 明子 | K-B-8-091 | |
| 寺部 直子 | P-D-9-07 | |
| 手良村昭子 | P-B-6-09 | |
| 寺本 暁子 | P-D-6-10 | |
| 照屋 建太 | P-A-1-13 | |
| | P-B-4-04 | |
| | P-C-9-05 | |
| 手呂内幸代 | P-D-2-10 | |

| | | | | | |
|----------|-------------------|-------|-------------------|----------|-----------|
| 田 淑姫 | P-D-2-06 | 長井 覚子 | J-B-1 | 長野 萌映 | P-C-1-06 |
| 天願 順優 | K-D-4-161 | | P-A-4-08 | | P-C-2-03 |
| | K-D-8-181 | | P-D-9-02 | | P-C-8-03 |
| | P-C-4-07 | 中内 麻美 | K-B-6-080 | 中橋 美穂 | J-F-8 |
| と | | 長尾美佐子 | P-A-2-01 | | P-D-4-05 |
| 土井 晶子 | P-D-8-05 | 中岡 雄介 | P-A-7-04 | | P-D-4-06 |
| 當銀 玲子 | P-B-9-12 | 長岡 交子 | K-D-8-180 | 長橋 聡 | K-B-6-081 |
| 藤後 悦子 | P-C-1-03 | 中川 淳一 | P-D-8-06 | 中道 圭人 | P-A-5-12 |
| | P-D-10-07 | 中川 智之 | K-A-7-036 | 中道 直子 | P-C-2-01 |
| 遠田 里美 | J-B-7 | | P-D-4-11 | 長嶺久美子 | J-E-5 |
| 徳田 克己 | P-A-10-13 | 永倉みゆき | J-B-6 | 中村 愛 | P-D-7-04 |
| | P-B-11-11 | 中澤 幸子 | P-B-9-05 | | P-D-7-06 |
| | P-D-5-05 | | P-D-8-01 | 中村 章啓 | P-D-4-02 |
| 徳田 憲生 | J-D-1 | 中澤 智子 | J-C-1 | | P-D-4-04 |
| 徳留 由貴 | P-A-8-10 | 中島 眞吾 | J-D-6 | 中村 佐里 | K-B-6-083 |
| | P-A-8-11 | | P-C-4-12 | | K-C-7-132 |
| 戸田 雅美 | 学会企画課題研究委員会シンポジウム | 中嶋 一郎 | J-E-3 | 中村麻衣子 | P-B-7-03 |
| | 学会企画編集常任委員会シンポジウム | 中嶋千恵子 | K-B-6-080 | | P-C-8-05 |
| | J-D-3 | 中島 一 | P-C-1-04 | 中村 光絵 | K-D-2-151 |
| | K-B-3-063 | | P-D-6-05 | 中村美和子 | K-C-4-119 |
| 土橋久美子 | P-B-6-11 | 長瀬 正子 | J-C-2 | 中村 桃子 | J-A-9 |
| 富岡 量秀 | K-D-5-168 | 中田 範子 | P-C-6-09 | 仲本 美央 | J-E-5 |
| 富田 泰介 | P-B-4-05 | 永田恵実子 | P-A-3-02 | | P-C-3-08 |
| 富田ちひろ | P-B-3-04 | | P-A-3-03 | 中山 年江 | P-D-2-10 |
| 富田 久枝 | J-A-2 | 永田 文子 | P-D-4-04 | 中山 智哉 | P-D-10-04 |
| 富田 雅子 | K-C-7-133 | 長田 瑞恵 | P-B-2-02 | 流田 絵美 | P-B-4-08 |
| 富永 美香 | P-B-5-07 | | P-B-2-04 | | P-D-1-07 |
| | P-B-9-02 | 永田 幸枝 | P-A-2-13 | 名倉 一美 | P-D-4-08 |
| 友永 良子 | P-A-6-05 | 中武 亮子 | K-B-4-067 | 梨本 竜子 | P-A-5-10 |
| | P-B-5-13 | 中谷奈津子 | K-A-8-039 | 那須とよみ | P-C-7-05 |
| 豊田 和子 | P-D-9-05 | | K-A-8-042 | 那須 信樹 | P-B-4-03 |
| | P-D-9-07 | 中津功一朗 | K-A-8-043 | 名須川知子 | J-C-4 |
| 鳥居 希安 | K-B-3-063 | 永津 利衣 | P-C-9-10 | 並木真理子 | P-B-4-02 |
| 鳥海 弘子 | J-D-6 | | K-B-5-074 | 成木 智子 | P-A-7-01 |
| | P-A-10-07 | 中坪 史典 | P-C-3-03 | 成田 朋子 | P-C-1-04 |
| | P-B-8-08 | | 学会企画編集常任委員会シンポジウム | | P-D-6-05 |
| | P-C-8-10 | | J-C-3 | 成瀬 九美 | P-A-3-06 |
| な | | 中西さやか | P-D-6-08 | 難波 忠弘 | P-C-8-09 |
| 内藤 知美 | J-C-5 | 中西 淳也 | P-B-7-10 | 難波れい子 | J-D-4 |
| | P-C-11-11 | | P-C-6-10 | | K-B-4-067 |
| 直島 正樹 | P-C-7-04 | 中西由香里 | P-D-7-02 | 南谷 悠子 | P-A-6-05 |
| 猶原 和子 | K-D-1-146 | 中西 利恵 | P-B-10-05 | に | |
| 仲 明子 | P-B-9-07 | | P-B-10-11 | 二井 仁美 | P-D-6-08 |
| 中井佐栄子 | K-B-9-097 | 中野 圭子 | P-B-5-05 | 新島 一彦 | J-C-5 |
| 中井清津子 | P-B-10-04 | | P-D-7-04 | 新留 明子 | J-D-2 |
| | P-C-5-03 | | P-D-7-06 | 新美 洋祐 | P-B-11-01 |
| | P-C-5-07 | 中野 圭祐 | K-B-1-052 | 新美 洋祐 | P-B-11-01 |
| 永井久美子 | P-B-7-07 | | K-B-1-053 | 新山 順子 | P-A-10-03 |
| | | 中野 晋 | K-C-2-108 | 新山 順子 | P-A-10-03 |
| | | 長野 康平 | K-A-1-003 | 二木 秀幸 | P-A-3-02 |
| | | | K-C-1-100 | | P-A-3-03 |
| | | | K-C-1-103 | 西 智子 | P-B-11-03 |

| | | | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------|-------|----------------|
| 西 隆太郎 | P-C-2-04 | 野澤 祥子 | J-E-9 | 濱名 浩 | P-D-3-03 |
| 西井 宏之 | J-D-9 | | P-C-6-05 | 早川富美子 | P-D-2-10 |
| 西垣 直子 | P-B-3-08 | 野尻 美枝 | K-A-4-020 | 林 浩子 | J-B-9 |
| | P-B-3-09 | 野田さとみ | P-B-9-06 | 林 富公子 | P-A-8-10 |
| | P-B-3-10 | | P-B-9-08 | | P-A-8-11 |
| 西垣 浩文 | J-F-4 | 野田多佳子 | K-C-5-122 | 林 冬実 | P-A-5-12 |
| 西垣 浩康 | K-D-6-172 | 能登谷小町 | 実行委員会企画シンポジウム1 | 林 牧子 | P-D-3-02 |
| 西垣 吉之 | P-B-3-08 | 野中 千都 | P-D-2-01 | 林 恵 | J-A-5 |
| | P-B-3-09 | 野々山 貴 | P-D-5-03 | 林 悠子 | J-C-9 |
| 西川ひろ子 | J-C-6 | 信田 るい | P-B-8-03 | | K-A-9-046 |
| 西川 正晃 | P-A-6-13 | 野見山直子 | J-D-6 | 林 麗子 | P-A-6-12 |
| 西川由紀子 | J-E-8 | | P-C-4-12 | 早瀬 仁美 | P-B-5-11 |
| | K-B-4-068 | 野呂 アイ | P-C-11-11 | 原 友美 | P-A-4-07 |
| 西田 季里 | K-B-8-089 | は | | | P-C-3-01 |
| 西田 希 | K-A-1-002 | | | 原口 喜充 | K-B-7-087 |
| | P-C-9-12 | | | | P-C-3-09 |
| 西館 有沙 | P-A-10-13 | 羽岡 佳子 | P-D-3-13 | | P-C-7-08 |
| | P-B-11-11 | 萩野 道世 | P-A-1-06 | 原口富美子 | P-C-5-03 |
| 西出 悦子 | P-A-4-07 | | P-A-1-07 | 原口 るみ | K-B-1-052 |
| | P-C-3-01 | 萩原 元昭 | J-C-4 | | K-B-1-053 |
| 西出 涼太 | P-A-8-05 | 朴 賢晶 | P-B-4-07 | | K-D-1-147 |
| 西村 重稀 | P-C-1-04 | 橋本 彩子 | K-A-7-036 | 原島有紀乃 | K-D-4-162 |
| | P-D-6-05 | 橋本 好市 | P-C-7-07 | 原田 明子 | P-A-2-02 |
| 西村 志磨 | P-A-4-11 | 橋本 淳一 | P-D-8-10 | 原田 正平 | 実行委員会企画シンポジウム2 |
| 西村 真実 | P-A-2-07 | 橋本 樹 | P-A-3-05 | 原野 明子 | P-D-10-04 |
| | P-A-2-08 | 橋本 翼 | K-B-7-087 | 韓 在熙 | J-C-9 |
| 西村 実穂 | K-C-2-105 | | P-C-3-09 | | K-A-9-046 |
| | K-C-2-108 | 橋元 知子 | P-B-7-03 | 伴 浩美 | P-A-1-12 |
| | P-B-11-11 | 橋本 勇人 | K-A-7-036 | 板東愛理香 | K-A-6-032 |
| | P-B-11-09 | | P-D-4-11 | ひ | |
| 西本 瞳 | 学会企画課題研究委員会シンポジウム | 長谷川恭子 | P-A-4-14 | | |
| 西山 修 | P-A-7-08 | | P-A-10-07 | 東 義也 | J-B-3 |
| 日光 恵利 | K-B-2-057 | 長谷川景子 | P-A-2-11 | | K-D-7-177 |
| 二宮 貴之 | J-B-1 | 櫛山ゆかり | P-B-1-12 | 東村 知子 | J-E-1 |
| 二宮 紀子 | K-A-2-010 | 畠山 智宏 | P-B-10-03 | 東元 りか | P-B-9-04 |
| | P-C-8-08 | 波多野和彦 | K-B-6-083 | | P-B-9-09 |
| 二宮 祐子 | P-D-5-07 | | K-C-7-132 | 東山 幸恵 | J-F-7 |
| 丹羽 孝 | P-C-1-05 | 服部 敬子 | J-E-8 | 樋口 陽子 | K-B-4-071 |
| | P-D-6-04 | | P-C-6-08 | 日隈美代子 | P-B-9-05 |
| | P-D-6-10 | 服部 沙織 | P-A-10-12 | | P-D-8-01 |
| ね | | 花島 慶子 | K-B-5-076 | 彦坂 美希 | P-D-1-06 |
| | | | P-A-8-09 | 久行 唯之 | P-A-9-02 |
| 祢宜佐統美 | P-A-7-12 | 花原真理子 | P-C-1-10 | 姫田 知子 | P-B-11-10 |
| 根橋 杏美 | P-A-6-07 | 花輪 充 | 学会企画課題研究委員会シンポジウム | | P-D-10-04 |
| | P-B-3-03 | | P-C-5-11 | 平井 恭子 | P-A-7-10 |
| の | | 羽根由美子 | P-A-2-01 | 平井 互 | P-A-1-08 |
| | | 浜口 順子 | J-A-8 | 平出 朝子 | K-B-7-084 |
| | | | P-C-1-01 | 平尾 憲嗣 | P-B-6-05 |
| 野上 俊一 | P-D-2-03 | 浜谷 直人 | J-A-5 | 平川 晃基 | P-B-4-08 |
| 野川 智子 | P-A-3-05 | 濱名 潔 | K-A-7-034 | | P-D-1-07 |
| 野口 隆子 | J-A-2 | | P-C-5-05 | 開 仁志 | P-D-7-09 |
| | | | P-D-3-03 | | |

平工 志穂 P-C-10-04
 平中 尚子 P-C-9-05
 平沼 博将 J-E-8
 P-C-6-08
 平野 順子 P-D-10-02
 平林 祥 J-F-8
 P-D-4-05
 P-D-4-06
 平原 藍 P-C-1-09
 平松 知子 J-B-8
 廣井 雄一 P-B-10-09
 廣沢 仁美 K-A-1-002
 廣島 慎一 J-A-6
 廣瀬 団 K-A-3-015
 広瀬 由紀 J-A-6
 K-B-8-093
 弘田 陽介 P-C-9-10
 廣部 朋美 K-C-9-144
 P-A-9-11
 P-B-8-08
 髯櫛久美子 P-B-9-06
 P-B-9-08

ふ

フィールデン (野呂) 育未 K-B-5-075
 福井 千夏 P-B-8-05
 福岡 恩 K-D-1-148
 福澤 惇也 K-D-6-175
 福田 きよみ J-E-6
 福田 真奈 P-B-8-02
 福丸 直宏 J-F-4
 福元真由美 P-D-9-10
 福本 光夫 J-E-5
 藤井 修 J-C-4
 藤井くるみ K-D-1-149
 藤井 真人 P-C-10-01
 藤井 美保 J-C-2
 藤岡 郁子 K-A-3-014
 藤川志つ子 P-B-7-09
 藤崎亜由子 J-C-4
 P-A-5-03
 P-A-5-06
 P-B-10-01
 藤田 篤 J-A-9
 K-B-9-094
 藤田 久美 P-C-6-03
 藤田 雅也 K-B-2-055
 藤野 淳子 P-A-3-05
 藤野 正和 K-C-1-101
 藤元 恭子 P-B-5-08
 P-D-2-04

藤本 朋美 P-A-9-04
 藤森 平司 J-F-1
 P-D-6-09
 藤原 明子 K-D-2-151
 布施 仁 P-A-4-02
 渕田 陽子 P-B-1-02
 船瀬紗代子 J-A-7
 船田 鈴子 P-D-1-03
 舟山 千佳 J-E-3
 舟生 直美 P-D-1-10
 麓 洋介 P-C-3-13
 古川 和代 P-A-6-10
 古田美津子 K-B-7-085
 K-B-7-086
 古橋さつ子 P-B-11-01
 古林 ゆり P-A-9-04
 古屋あゆみ K-C-5-122
 古山 律子 P-A-8-12

ほ

方 麗蓉 J-E-2
 ボーター倫子 J-C-3
 星 順子 P-A-9-11
 星 三和子 P-C-2-06
 星野 英五 P-D-7-03
 星野さくら K-A-7-036
 星野 秀樹 P-B-4-07
 星野美穂子 P-D-2-13
 星野 優芽 K-B-5-078
 保泉 裕美 P-C-11-01
 細川かおり J-D-3
 堀田 博史 J-D-2
 堀田 浩之 P-D-9-06
 堀田 正央 K-A-7-038
 K-C-6-128
 堀田 亮 P-C-3-09
 堀 建治 P-B-4-01
 堀 祥子 J-F-7
 堀 智晴 J-A-1
 堀 美鈴 P-A-6-12
 堀内 亮輔 K-A-1-003
 K-C-1-100
 K-C-1-103
 堀越 紀香 J-A-6
 P-D-1-05
 本江 理子 P-A-6-06
 本田 郁子 P-D-3-06
 本多 峰和 P-A-8-04

ま

間井谷容代 P-C-10-12
 P-D-4-07
 前田亜由美 P-A-1-09
 前田 泰弘 J-A-7
 前徳 明子 K-A-1-001
 曲田 映世 P-B-10-04
 P-B-10-05
 P-B-10-11
 槇 英子 P-B-1-10
 P-B-9-12
 牧野 順子 P-C-10-07
 正平 辰男 K-D-4-165
 真下あさみ P-A-7-03
 真下 恵実 P-A-7-03
 眞島加奈絵 P-D-8-06
 増田 泉 K-D-8-182
 増田まゆみ J-E-9
 P-C-6-07
 町田 治 K-B-6-080
 松井 剛太 P-C-6-04
 P-C-6-05
 松井 典子 J-A-3
 松井 愛奈 P-A-1-03
 松井 萌 P-C-9-03
 松井 祐 P-D-8-08
 P-D-8-09
 松浦 崇 P-C-11-06
 松尾 杏菜 P-D-6-02
 P-D-6-03
 松岡 佳子 J-A-1
 松倉 佳子 P-C-8-06
 P-C-11-10
 松寄 洋子 P-B-6-11
 松下明日香 K-A-9-047
 松下 紫帆 K-A-1-005
 K-B-1-051
 松島 京 P-C-11-06
 松島のり子 P-C-1-01
 P-C-11-02
 松田こずえ K-C-6-130
 P-C-8-05
 松田 純子 P-C-4-13
 松田ほなみ P-B-1-05
 松永 愛子 学会企画編集委員会シンポジウム
 松永 静子 K-B-3-062
 松野 敬 P-B-7-10
 P-C-6-10
 松延 毅 P-B-1-11
 P-D-4-04
 松原 敬子 P-C-5-06

| | | | | | |
|--------|-------------------|-------|-----------|-------|-----------|
| 安川由貴子 | P-D-10-09 | | P-A-4-04 | | K-A-8-043 |
| 保田 恵莉 | J-A-3 | 山本 華子 | P-B-5-04 | | K-B-3-061 |
| 矢田貴美代 | J-B-2 | | P-B-9-04 | 吉田 紘子 | P-C-1-06 |
| 谷田貝公昭 | P-A-3-05 | | P-B-9-09 | | P-C-2-03 |
| 矢藤誠慈郎 | 学会企画編集常任委員会シンポジウム | 山本 信 | P-C-6-11 | | P-C-8-03 |
| | P-C-1-05 | 山本 麻美 | P-B-1-05 | 吉田 昌弘 | K-B-3-065 |
| 柳瀬 洋美 | P-B-11-05 | 山本 幸 | P-C-2-01 | 吉田 真弓 | P-C-1-05 |
| | P-D-10-07 | 山本 理絵 | J-A-5 | | P-D-6-04 |
| 矢野永吏子 | K-D-5-168 | 矢本 洋子 | P-C-7-08 | 吉田ゆかり | J-B-2 |
| 矢野 景子 | J-E-3 | | | 吉田百加利 | K-C-8-138 |
| | P-C-8-12 | | | 吉中みちる | K-C-8-139 |
| | P-C-11-11 | | | 吉永 早苗 | P-B-11-05 |
| 矢野 咲子 | P-A-4-13 | 湯川嘉津美 | K-A-4-017 | 義永 睦子 | J-D-3 |
| | P-A-5-01 | 弓削田綾乃 | P-C-8-08 | 吉村美由紀 | P-C-11-09 |
| 矢野 真 | P-A-4-09 | 湯地 宏樹 | J-C-6 | 吉村 譲 | P-C-11-09 |
| 八幡眞由美 | P-C-4-01 | | P-C-4-04 | 善本 眞弓 | J-E-7 |
| 薮崎伸一郎 | P-C-3-05 | | | 淀川 裕美 | J-E-9 |
| | P-C-10-09 | | | | K-B-4-069 |
| 山内 信子 | K-A-2-007 | | | | K-B-4-070 |
| | P-A-10-08 | 横井 一之 | K-A-2-011 | | P-C-6-05 |
| 山岸 多恵 | K-B-2-054 | 横井 志保 | P-D-10-01 | 米園 美里 | K-D-7-178 |
| 山際 美喜 | P-B-1-12 | 横井 良憲 | P-B-6-08 | | |
| 山崎 久江 | P-B-7-09 | | P-C-2-08 | | |
| 山崎 優 | P-D-1-11 | 横川 和章 | P-B-11-04 | | |
| 山路 千華 | P-B-8-08 | 横島三和子 | P-C-5-03 | | |
| 山下 晶子 | P-B-9-03 | 横田由紀子 | P-C-9-06 | | |
| 山下 久美 | K-C-5-123 | 横山 草介 | J-B-6 | | |
| | P-B-3-12 | | K-A-4-019 | | |
| | P-B-10-01 | 吉岡 淑隆 | J-C-8 | 若月 芳浩 | J-A-6 |
| 山下 恵子 | J-D-4 | 吉岡眞知子 | P-C-1-04 | 若谷 啓子 | P-B-5-03 |
| 山下 貴子 | K-B-5-076 | | P-D-6-05 | 脇 信明 | P-A-9-04 |
| 山下 愛実 | J-D-4 | 吉岡 良介 | K-C-5-122 | 脇村 美穂 | J-D-8 |
| 山城いつき | P-A-5-10 | 吉川 和幸 | J-A-6 | 和田 香誉 | K-C-1-102 |
| 山田 一子 | K-B-5-077 | 吉川 暢子 | P-B-1-04 | 和田 智代 | J-E-2 |
| 山田 悟史 | P-A-6-08 | | P-C-6-04 | 和田 美香 | P-A-3-05 |
| 山田 修平 | K-B-1-052 | | P-D-2-04 | | P-C-7-01 |
| | K-B-1-053 | 吉川 晴美 | J-D-3 | 和田 幸子 | P-A-6-02 |
| 山田 朋子 | P-D-3-12 | 吉川 嘉宏 | P-A-1-08 | | P-A-6-09 |
| 山田 悠莉 | P-A-8-02 | 吉澤 一弥 | P-B-11-03 | 和田裕美恵 | J-E-3 |
| やまだようこ | J-B-6 | 吉澤 幸 | P-D-1-13 | 渡邊 詩子 | K-B-2-059 |
| 山名 裕子 | J-D-8 | 吉島 紀江 | P-A-10-11 | 渡邊恵梨佳 | P-B-9-10 |
| 山中 健司 | K-C-9-141 | 吉津 晶子 | J-C-4 | | P-C-7-07 |
| 山梨 有子 | P-B-8-08 | | P-A-4-09 | 渡辺 桜 | P-A-6-12 |
| 山西 加織 | P-B-9-01 | 由田 新 | J-F-5 | | P-D-5-02 |
| 山野 栄子 | P-B-8-07 | 吉田 清夏 | K-D-4-162 | 渡辺俊太郎 | P-B-7-07 |
| 山藤 宏子 | P-C-6-06 | 吉田さくら | P-C-1-06 | 渡邊 拓真 | P-B-6-08 |
| 山村けい子 | J-C-4 | | P-C-2-03 | | P-C-2-08 |
| 山本 敦子 | P-C-10-06 | | P-C-8-03 | 渡邊 哲也 | J-B-3 |
| 山本 聡子 | P-D-9-05 | 吉田 茂 | K-B-2-058 | 渡邊 望 | P-C-9-07 |
| 山本 智子 | K-A-6-030 | | P-D-4-04 | | P-D-10-04 |
| | K-A-6-033 | 吉田 龍宏 | K-C-6-129 | 渡邊 宣明 | P-B-2-08 |
| 山本 直樹 | J-B-1 | 吉田 直哉 | K-A-8-039 | 渡辺 英則 | J-D-5 |

| | | |
|----|-----|-----------|
| 渡邊 | 舞 | P-C-9-06 |
| 渡辺 | 行野 | K-D-1-146 |
| 渡邊 | 有美 | P-B-6-02 |
| 渡辺 | ユリナ | P-C-2-08 |
| | | P-D-2-07 |
| 渡邊 | 由恵 | P-C-6-05 |
| | | P-D-6-01 |
| 渡部 | 理恵 | P-B-10-05 |
| 渡辺 | 令子 | K-B-7-088 |
| 綿貫 | 文野 | P-A-10-10 |
| 渡邊 | 満美 | J-F-3 |

7. 大会実行委員会について

一般社団法人日本保育学会 大会実行委員会規程

(目的)

第1条 日本保育学会大会実行委員会（以下、委員会）は、学会年次大会開催のために業務に当たることを目的として、組織される。

(開催ブロックの決定)

第2条 大会開催地区は、大会開催細則によって開催2年前の理事会で決定し、評議員会、社員総会において承認される。

2 大会開催地区および開催順については、大会開催細則による。

(委員会の発足および終了)

第3条 委員会の発足については、各ブロックの理事および評議員が協議し、組織発足および終了の任を負う。

(委員会の構成)

第4条 委員会は、委員長、事務局長ならびに実行委員によって構成される。

2 委員長は、会長により委嘱される。

(委員長、事務局長および委員会の業務)

第5条 委員長が評議員でない場合には、会長の推薦により評議員に任命される。

2 委員長は、理事会ならびに評議員会に出席する。また大会検討委員会のメンバーとなる。

3 事務局長は、委員長の代理を務めることができる。また大会検討委員会のメンバーとなる。

4 委員会は、大会日、大会会場の決定および運営を委託する場合は委託業者を決定する。

5 委員会は、大会に関する会計管理を行う。会計管理は、学会の規準による。

6 委員会は、大会に関する通信の作成および発送を行う。発送のための会員名簿の管理は、学会事務局で行う。

7 委員会は、講演、実行委員会主催シンポジウム等の企画・実施を行う。

8 委員会は、会員からの申し込みによる口頭発表・ポスター発表、自主シンポジウム発表等の受理・決定、座長の決定および依頼を行う。

9 委員会は、学会企画諸シンポジウムの受託を行う。

10 委員会は、大会プログラムを編成する。

11 委員会は、大会発表論文集の作成および発送を行う。

12 委員会は、大会会場の設営および当日の運営を行う。

13 委員会は、大会終了後、大会に関する決算報告、『保育学研究』掲載の大会諸報告、大会参加者・発表者数（発表取り消し、取り下げの確認を含む）の報告を行う。また大会発表論文集の残部を学会事務局へ引渡す。さらに、次回大会実行委員会への申し渡しを行う。

14 委員会は、理事および評議員会開催会場の準備設営、研究奨励賞推薦委員会の会場の確保を行う。

15 委員会は、役員懇親会、会員交流パーティー開催の可否について決定し、運営を行う。

16 委員会は、名誉会員への案内および大会発表論文集の発送、賛助会員への案内の発送を行う。

17 委員会は、その他大会運営に関わる業務を行う。

(改廃)

第6条 本規程の改廃は理事会が行う。

附則 本規程は平成20年9月14日（第63回大会）より実施する。

一部 平成22年4月1日改正

一部 平成27年9月26日改正

一部 平成30年9月1日改正

一般社団法人日本保育学会 大会開催細則

(開催ブロックの決定)

- 第1条 大会開催の6ブロックは、〈北海道・東北〉、〈関東〉、〈中部〉、〈近畿〉、〈中国・四国〉、〈九州・沖縄〉の6ブロックとする。
- 2 大会開催は全国を6ブロックで、持ち回りで行う。その開催順序は以下に定める。
- ①関東 ②九州・沖縄 ③近畿 ④中部 ⑤関東 ⑥中国・四国 ⑦北海道・東北 ⑧関東
⑨近畿 ⑩中部 ①へ戻る
- 関東3、近畿2、中部2、その他1は、会員数に応じての回数である。
- 3 特別な事情がある場合、開催順序を変更することができる。その場合は、開催3年前までに会長に申し出て、理事会の承認を得なければならない。

(大会実行委員会の発足)

- 第2条 各ブロックの理事および評議員は、委員会発足の任を負う。
- 2 各ブロックの理事および評議員は、開催実績や利便性等を考慮して相談のうえ、2年前までに開催地を決め、大会実行委員会を組織する。
- 3 各ブロックの理事および評議員は、各ブロック内において大会開催に係る検討委員会等を設置し、大会開催地や開催方法を検討する。

(大会開催に向けた評議員の役割)

- 第3条 各ブロックの理事および評議員は、実行委員会とともに、大会開催に先立ち研究集会等を開催し、ブロック内の会員の学術・実践交流を活性化できるように努める。

附則 本細則は、第65回大会より施行する。

日本保育学会第 75 回大会 協賛企業・団体

〔広告掲載企業〕

| | |
|-------------|-------------------|
| 株式会社一藝社 | 株式会社学研教育みらい |
| 株式会社北大路書房 | 株式会社建帛社 |
| 株式会社光生館 | 株式会社新宿スタジオ |
| 株式会社新読書社 | 株式会社世界文化ワンダークリエイト |
| 株式会社チャイルド本社 | 中央法規出版株式会社 |
| 株式会社同文書院 | ななみ書房 |
| 株式会社フレーベル館 | 株式会社萌文書林 |
| 株式会社ミネルヴァ書房 | 株式会社みらい |
| 株式会社わかば社 | |

(その他の協力企業・団体)

| | |
|-------------|----------------|
| 株式会社サクラクレパス | 株式会社ジャクエツ |
| 株式会社創成社 | 公益財団法人ソニー教育財団 |
| 株式会社大学図書出版 | ひかりのくに株式会社 |
| 株式会社ひとなる書房 | 株式会社保育のデザイン研究所 |

〔オンライン展示〕

(賛助会員)

| |
|--------------|
| 有限会社アイ・ピー・エス |
| 株式会社北大路書房 |
| 株式会社みらい |

(その他の協力企業・団体)

| |
|--------------------------|
| 株式会社明石書店 |
| えひめ洋紙株式会社 知育玩具「KUMEL」事業部 |

本大会を開催するにあたりまして、上記の諸団体の皆様よりご協力いただきました。
ここにそのご芳名を記して、心からの感謝の意を表します。

2022 年 4 月

一般社団法人日本保育学会第 75 回大会実行委員長 阿部 真美子

日本保育学会第 75 回大会 実行委員会

実行委員長 阿 部 真美子（聖徳大学）
事務局 長 奥 村 典 子（聖徳大学）
副事務局 長 大 野 地 平（聖徳大学短期大学部）
祓 川 摩 有（聖徳大学）

（2022 年 4 月 1 日現在）